

山形大学農学部

2012年報

2013年 4月

2012年報 目次

1. 管理運営

- (1) 平成24年度山形大学農学部概況（主な行事日程等）…………… 1
- (2) 農学部機構図 …………… 4
- (3) 農学部現員表 …………… 4
- (4) 職員組織 …………… 5
- (5) 農学部各種委員会一覧 …………… 7
- (6) 平成24年度農学部における発行印刷物一覧 …………… 8

2. 教育・研究活動

- (1) 平成25年度入学試験実施状況 …………… 9
- (2) 平成24年度在学者数 …………… 9
- (3) 卒業・修了後の進路 …………… 10
- (4) 平成24年度大学院農学研究科修了者について …………… 11
- (5) 教員の活動実績
 - ① 研究活動 …………… 14
 - ② 学会・社会活動 …………… 56
 - ③ 産学官など、国内他機関との連携研究実績 …………… 93
 - ④ 海外研究者との研究活動 …………… 100
 - ⑤ 研究員等の受け入れ状況 …………… 107
 - ⑥ その他 …………… 109

3. 国際交流状況について

- (1) 学術交流協定締結大学一覧 …………… 112
- (2) 大学間国際交流協定締結大学一覧（農学部が提案したもの）…………… 112
- (3) 外国出張一覧 …………… 113
- (4) その他の国際交流の実施 …………… 115

4. 社会活動・地域貢献

- (1) 地域連携推進室へ寄せられた事項への対応状況一覧 …………… 117
- (2) 社会・地域へ要請により派遣した職員一覧 …………… 119
- (3) 他大学等の非常勤講師として派遣した職員一覧 …………… 122
- (4) 外部資金等の受け入れ状況
 - ・ 科学研究費補助金交付決定一覧 …………… 123
 - ・ 奨学寄附金・受託研究・共同研究の受け入れ状況 …………… 124
- (5) 公開講座等大学開放実施状況 …………… 125

5. フィールド科学センターの概況等 …………… 130

6. 農学部図書館の概況等 …………… 148

7. 大型設備の設置状況 …………… 149

8. 鶴岡キャンパスの名称・所在地、土地・建物の概要、配置図・位置図 …………… 150

1. 管理運営

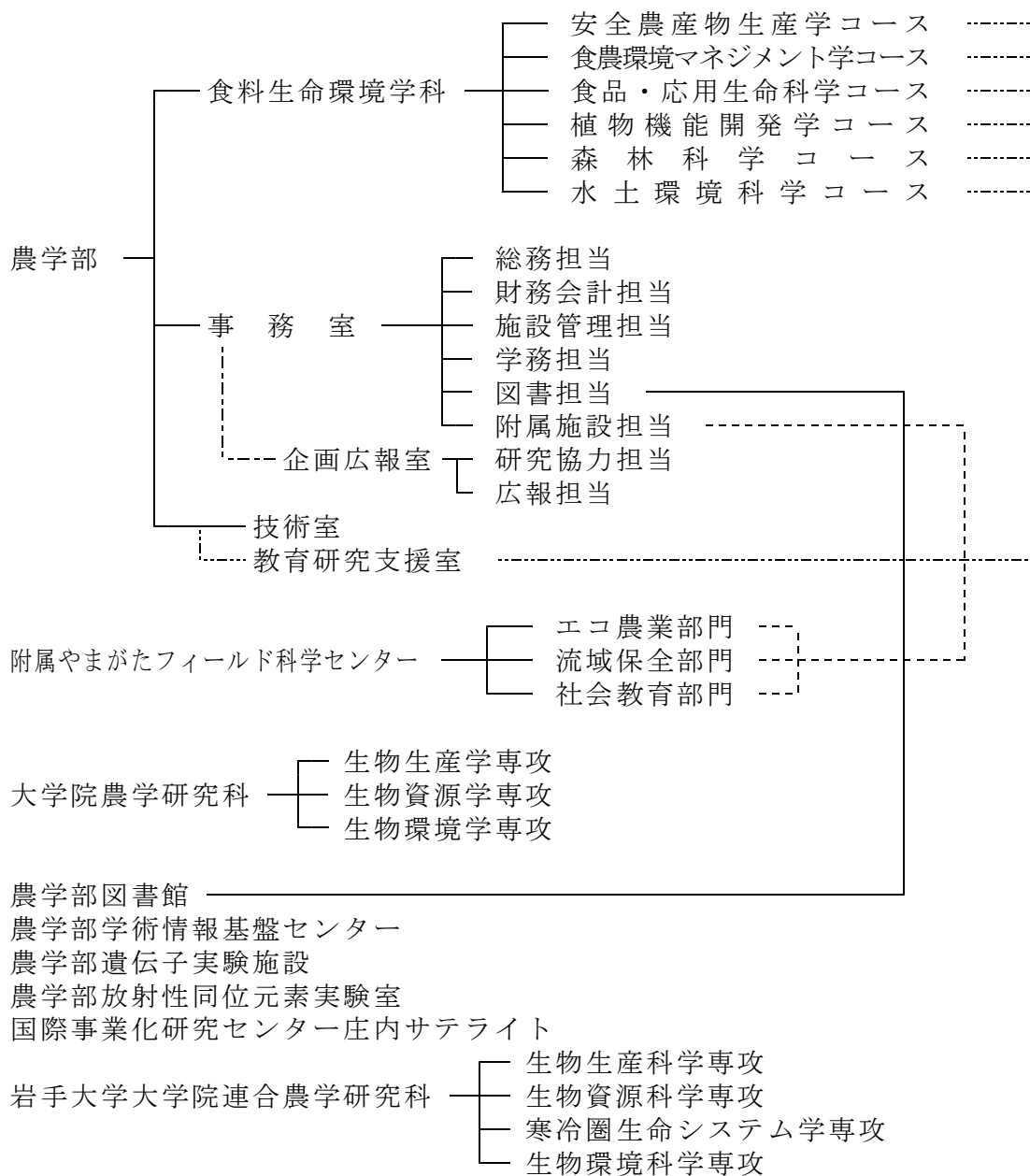
(1) 平成24年度山形大学農学部概況（主な行事日程等）

24.	4.	14	平成23年度山形大学農学部開講「麹菌マイスター養成講座（初級）」の参加認定書授与式
24.	5.	6	演習林入山式
24.	5.	19	わんぱく農業クラブ
24.	5.	29	平成24年度研究成果公開シンポジウム「連携研究の成果を地域に活かすために～ワラビの活用を通して～」
24.	5.	29	平成24年度山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会総会
24.	6.	7	全国農学系学部長会議（～8日）
24.	6.	16	わんぱく農業クラブ
24.	7.	7	3年次編入学試験
24.	7.	7	わんぱく農業クラブ
24.	7.	8	リフレッシュセミナー
24.	7.	13	3年次編入学試験合学発表
24.	7.	13	外交講座
24.	7.	14	平成24年度山形大学農学部公開講座（～7月28日）
24.	7.	19	学部長杯ソフトボール大会
24.	7.	21	森の学校
24.	7.	28	農学部オープンキャンパス（小白川キャンパス）
24.	7.	30	第56回東北地区農業実験実習講習会（～8月3日）
24.	8.	2	夏期セミナー
24.	8.	3	農学部オープンキャンパス（鶴岡キャンパス）
24.	8.	9	学長、学部長と女性研究者との懇談会
24.	8.	9	学長オフィスアワーin農学部
24.	8.	11	わんぱく農業クラブ
24.	8.	23	北海道・東北地区農学系学部長会議（～8月24日）
24.	8.	27	（独）国際協力機構（JICA）の地域別研修「アフリカ地域（英語圏）稲作収穫後処理」コース（～9月20日）
24.	8.	30	三大学合同研修会（～8月31日）
24.	9.	11	平成24年度在来作物実践講座「おしゃべりな畑」（～1月29日）
24.	9.	12	第1回荘内銀行若手行員との合同研修会
24.	9.	14	第2回 自然共生型水稻栽培国際ワークショップ
24.	9.	14	農学部ホームカミングデー
24.	9.	22	わんぱく農業クラブ
24.	9.	29	ひらめき☆ときめきサイエンス「生物の多様性を考える」
24.	10.	4	農学紹介講座「農学の夕べ」（～1月24日）
24.	10.	5	山大農学部・山大工学部・鶴岡高専連携による情報交換会
24.	10.	6	森の学校
24.	10.	13	わんぱく農業クラブ
24.	10.	13	新米ロックフェス

24.	10.	13	第1回山形大学ビーチサッカー大会
24.	10.	22	飲酒運転撲滅のための講習会
24.	10.	26	山形県高等学校教育研究会理科部会事業ワークショップ
24.	10.	27	第47回植物化学調節学会（全国大会）（～28日）
24.	10.	28	山形大学農学部・鶴岡高専留学生交流会
24.	11.	2	平成24年度山形大学テニユアトラックシンポジウム
24.	11.	6	第2回荘内銀行若手行員との合同研修会
24.	11.	7	山形大学農学部講演会「コメの生産・流通環境の変化を先取りした研究戦略の展開～付加価値の『見える化』研究～」
24.	11.	10	わんぱく農業クラブ
24.	11.	13	農学部・農業大学校・農業高校連携シンポジウム
24.	11.	15	平成24年度農学部留学生コミュニティ日本文化研修
24.	11.	17	第46回日本栄養・食糧学会東北支部大会
24.	11.	22	推薦入学試験
24.	11.	24	鶴寿祭（～11月25日）
24.	11.	24	農学部ホームカミングデー
24.	11.	30	推薦入学試験合格発表
24.	11.	30	男女共同参画ランチミーティング
24.	11.	29	メンタルヘルス講習会
24.	11.	30	男女共同参画推進ランチミーティング
24.	12.	4	農林水産省委託プロジェクト研究「自給飼料を基盤とした国産畜産物の高付加価値化技術の開発（国産飼料プロ）」合同成果報告会
24.	12.	6	男女共同参画ランチミーティング
24.	12.	9	知の拠点庄内第2回シンポジウム
24.	12.	19	山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会「平成24年度スキルアップ研修会」
25.	1.	11	山形大学農学部、ライブニッツ・ハノーバー大学による公開ワークショップ（～1月12日）
25.	1.	16	大学院入学試験（2次募集）
25.	1.	25	農学部・東北森林管理局連携シンポジウム「森が人に与えてくれるもの」
25.	1.	26	山形・おきたま「食の力」シンポジウム（山形在来作物研究会公開フォーラム2013）
25.	1.	31	大学院入学試験（2次募集）合格発表
25.	2.	12	平成24年度在来作物実践講座「おしゃべりな畑」認定交付式
25.	2.	21	平成24年度卒論発表会及び修士論文発表会（～3月1日）
25.	2.	21	庄内水田フォーラム
25.	2.	21	第3回荘内銀行若手行員との合同研修会
25.	2.	25	個別学力試験（前期日程）
25.	3.	7	個別学力試験（前期日程）合格発表
25.	3.	7	大学院入学試験（3次募集）
25.	3.	9	地域連携公開フォーラム2013 in遊佐
25.	3.	9	2年目のキャンドルナイト（～11日）
25.	3.	12	農学部研究シーズ説明会及びビジネスマッチ

- 25. 3. 14 二大学農場職員合同研修会（耕種・園芸）
- 25. 3. 16 映画を通じた地域活性化シンポジウム
- 25. 3. 16 森の学校
- 25. 3. 17 学位記授与式
- 25. 3. 18 二大学農場職員合同研修会（畜産）
- 25. 3. 18 農学部・荘内銀行若手職員による合同研修成果発表会
- 25. 3. 28 啓明寮開寮式
- 25. 3. 28 燦樹（きらめき）新酒試飲会

(2) 農学部機構図



(3) 農学部現員表

(平成25年3月31日現在)

	教 員				その他の職員	合 計
	教 授	准教授	助 教	計		
現 員	34	25	8	67	57	124

(4) 職 員 組 織

(平成25年3月31日現在)

学 部 長 西 澤 隆
副 学 部 長 阿 部 利 徳
副 学 部 長 佐 藤 英 世

食料生命環境学科

学 科 長	林 田 光 祐
安全農産物生産学コース主任	藤 井 弘 志
食農環境マネジメント学コース主任	小 沢 亙
食品・応用生命科学コース主任	小 関 卓 也
植物機能開発学コース主任	俵 谷 圭 太 郎
森 林 科 学 コー ス 主 任	菊 池 俊 一
水 土 環 境 科 学 コー ス 主 任	安 中 武 幸

安全農産物生産学コース

教 授	高 橋 敏 能
教 授	生 井 恒 雄
教 授	安 藤 豊
教 授	夏 賀 元 康
教 授	西 澤 隆
教 授	藤 井 弘 志
教 授	平 智 一
教 授	堀 口 健 一
准教授	小笠原 宣 好
准教授	角 田 憲 一
准教授	長 谷 修
准教授	片 平 光 彦
准教授	森 静 香
准教授	佐 藤 智

食農環境マネジメント学コース

教 授	岩 鼻 通 明
教 授	小 沢 亙
准教授	角 田 毅
准教授	家 串 哲 生
准教授	藤 科 智 海
准教授	渡 辺 理 絵 行
助 教	保 木 本 利 行

食品・応用生命科学コース

教 授	三 橋 涉
教 授	小 関 卓 也
教 授	佐 藤 英 世
教 授	豊 増 知 伸
教 授	永 井 毅
教 授	木 村 直 子
教 授	塩 野 義 人
准教授	加 来 伸 夫
准教授	渡 辺 昌 規

植物機能開発学コース

教 授	阿 部 利 徳
教 授	貫 名 学
教 授	村 山 哲 也
教 授	俵 谷 圭 太 郎
教 授	村 山 秀 樹
准教授	江 頭 宏 昌
准教授	程 為 国
准教授	笹 沼 恒 男
准教授	及 川 彰 聡
助 教	服 部

森林科学コース

教授 高橋 教夫
教授 菊間 満
教授 野堀 嘉裕
教授 高橋 孝悦
教授 林田 光祐
教授 小山 浩正
准教授 大谷 博彌
准教授 柳原 敦
准教授 菊池 俊一
准教授 小川 三四郎
准教授 芦谷 竜矢
准教授 ロペス ラリー
准教授 早尻 正宏

水土環境科学コース

教授 大久保 博
教授 奥山 武彦
教授 安中 武幸
准教授 石川 雅也
准教授 渡邊 一哉
准教授 渡部 徹
助教 梶原 晶彦
助教 花山 奨

テニユア・トラック

助教 恩田 弥生

プロジェクト教員

助教 伊藤 紘晃

附属やまがたフィールド科学センター

センター長 野堀 嘉裕

エコ農業部門

教授 吉田 宣夫
助教 佐々木 由佳
助教 池田 和生

社会教育部門

教授 小沢 互
(兼任：食料生命環境学科)
准教授 金 成 學
准教授 家串 哲生
(兼任：食料生命環境学科)

流域保全部門

准教授 ロペス ラリー
助教 梶原 晶彦
(兼任：食料生命環境学科)

事務職員

事務 長 大谷 和彦
副事務 長 梶沼 清志
総務担当係長 海野 博之
研究支援担当係長 菅原 一彰
財務会計担当係長 柏倉 弘喜
施設管理担当上席係長 阿部 茂
学務担当係長 笹原 孝紀
附属施設担当係長 阿部 正志
図書担当係長 土屋 直之

(5) 農学部各種委員会一覧

- ・ 農学部運営会議 (H22. 4. 1 設置)
- ・ 農学部教員人事委員会 (H22. 4. 1 設置)
- ・ 農学部コース主任会議 (H23. 4. 1 設置)
- ・ 農学部選挙管理委員会 (S28. 2. 16 設置)
- ・ 農学部利益相反マネジメント委員会 (H24. 5. 24 設置)
- ・ 農学部国際交流委員会 (H 5. 11. 18 設置)
- ・ 鶴岡地区事業場安全衛生委員会 (H16. 4. 1 設置)
- ・ 農学部遺伝子実験室運営委員会 (H21. 10. 1 設置)
- ・ 農学部放射性同位元素実験室運営委員会 (H 8. 7. 1 設置)
- ・ 農学部キャンパス・ハラスメント防止対策委員会 (H17. 7. 1 設置)
- ・ 農学部・農学研究科運営協議会 (S49. 10. 25 設置)
- ・ 農学部目標計画・評価分析委員会 (H22. 4. 1 設置)
- ・ 農学部EM・広報委員会 (H22. 4. 1 設置)
- ・ 農学部予算委員会 (H 4. 4. 1 設置)
- ・ 農学部学術情報基盤センター運営委員会 (H21. 10. 1 設置)
- ・ 農学部学務委員会 (H 4. 4. 1 設置)
- ・ 農学部入学試験実施委員会 (S53. 5. 1 設置)
- ・ 附属やまがたフィールド科学センター運営委員会 (H18. 7. 1 設置)
- ・ 農学部図書館運営委員会 (H21. 10. 1 設置)
- ・ 農学部教育支援室運営委員会 (H22. 4. 1 設置)
- ・ 連合農学研究科代議員 (H 2. 6. 8 設置)

(6) 平成24年度農学部における発行印刷物一覧

I 広報誌

- 1 山形大学農学部案内（2012年版）
受験生や関係高等学校、企業への広報関係誌
- 2 山形大学農学部授業紹介集
山形大学農学部で開講している授業科目をピックアップして紹介
- 3 農学部だより
農学部在籍学生の保護者等を対象とした広報誌
- 4 農学部研究シーズ集
農学部全教員の主要な研究テーマを紹介す民間企業等を対象とした冊子体

II 自己点検・評価報告書等

- 1 山形大学農学部2011年報（2012年10月）

III 教育関係広報活動・報告書等

（学生向け冊子）

- 1 山形大学農学部・山形大学大学院農学研究科学生便覧
学部・大学院学生向けの教育研究の案内
- 2 Syllabus 2012

（報告書等）

- 1 平成24年度学外実習（インターンシップ）実習記録・終了報告書
- 2 学位論文抄録集

2. 教育・研究活動

(1) 平成25年度入学試験実施状況(外国人留学生を除く。)

○ 農学部入学試験

区分・学科	入学定員	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数	
		男	女	男	女	男	女	男	女
推薦入試									
食料生命環境学科	30	30	34	30	34	16	17	16	17
小計	30	30	34	30	34	16	17	16	17
一般入試(前期)									
食料生命環境学科	95	168	125	162	121	62	47	59	42
小計	95	168	125	162	121	62	47	59	42
一般入試(後期)									
食料生命環境学科	30	81	79	81	79	18	21	12	14
小計	30	81	79	81	79	18	21	12	14
合計	155	279	238	273	234	96	85	87	73

○ 農学部3年次編入学試験

学 科	入学定員	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数	
		男	女	男	女	男	女	男	女
食料生命環境学科	若干人	6	5	6	4	2	1	2	1
合計		6	5	6	4	2	1	2	1

○ 大学院農学研究科入学試験

専 攻	入学定員	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数	
		男	女	男	女	男	女	男	女
生物生産学専攻	16	12	5	11	5	9	5	8	4
生物資源学専攻	18	7	6	6	6	6	5	6	5
生物環境学専攻	14	10	6	10	5	9	5	8	5
合計	48	29	17	27	16	24	15	22	14

(2) 平成24年度 在学者数(外国人留学生を除く。平成24年5月1日現在)

○ 学 部

学 科	入学定員	現 員								合 計
		1年次		2年次		3年次		4年次		
		男	女	男	女	男	女	男	女	
食料生命環境学科	155	92	73	91	70	82	86			494
生物生産学科	55							40	31	71
生物資源学科	50							30	32	62
生物環境学科	50							41	22	63
合計		92	73	91	70	82	86	111	85	690

○ 大学院農学研究科

専 攻	入学定員	現 員						
		1年次		2年次		合 計		
		男	女	男	女	男	女	計
生物生産学専攻	16	8	5	4	8	12	13	25
生物資源学専攻	18	13	4	7	6	20	10	30
生物環境学専攻	14	5	4	7	1	12	5	17
合計	48	26	13	18	15	44	28	72

(3) 卒業・修了後の進路

卒業後の進路(学部)

学 科	卒業生数	大学院 進 学	その他	就 職 先			未決定	決定率(%)
				民間企業	公務員	計		
生物生産学科	62 (28)	10 (4)	9 (4)	34 (19)	7 (0)	41 (19)	2 (1)	95.3
生物資源学科	50 (27)	16 (9)	3 (2)	26 (14)	4 (1)	30 (15)	1 (1)	96.8
生物環境学科	49 (18)	12 (4)	5 (1)	16 (4)	13 (6)	29 (10)	3 (2)	90.6
計	161 (73)	38 (17)	17 (7)	76 (37)	24 (7)	100 (44)	6 (4)	94.3

()内の数は女子を内数で表す。

就職先の状況

生物生産学科	(株)綿半ホームエイド、JAにいがたみらい、(株)カワチ薬品、(株)いちい、(株)再春館製薬所、(株)ホテイフーズ、ヤンマー農機販売(株)、(株)日本栄養給食協会、米沢平野土地改良区、(株)カスミ、グラントマト(株)、アークランドサカモト(株)、ホクト(株)、(株)くすりのマルト、(株)トレジャーファクトリー、米沢牛黄木(株)、ヤマエ久野(株)、(株)コメリ、名果(株)、(株)ヤオコー、(有)ファーム富田、JAさがえ西村山、グリーン産業(株)、マックスバリュ北東北(株)、エスツーアイ(株)、第一生命保険(株)、(株)山彦、ホクレン農業協同組合連合会、JA秋田おばこ、相模屋食料(株)、JA東根、アメリカンファミリー生命保険会社、(独)種苗管理センター
生物資源学科	(株)堀川、日本曹達(株)、(株)千代田テクノル、伏見蒲鉾(株)、(株)クレハ環境、(株)果香、城北麵工(株)、WBDエウレカ(株)、東北大学、JAつくば市、日新製菓(株)(2人)、明興水産株式会社、医療法人佐藤会高崎アートクリニック、宇都宮化成工業(株)、農業法人近藤菜園、酒田市袖浦農業協同組合、日東ベスト(株)、日新製菓(株)、長谷川香料(株)、(株)果香、(株)CAINS、(株)フリーデン、酒田市袖浦農業協同組合、とんきゅう(株)、(有)青木商店 宮城県警、群馬県警、山形県講師、福島県講師、
生物環境学科	鶴岡市農業協同組合、(株)西武造園、にったみどり農業協同組合、(株)栃木銀行、(株)東武、東亜建設工業(株)、マックスバリュ北東北(株)、イオンスーパーセンター(株)、ホームマック(株)、(株)TTC、新潟市農業協同組合、(株)アコーディアゴルフ、越後さんどう農業協同組合、日本証券テクノロジー、有限会社カントリーガーデン 山形県庁、福島県庁(4人)、宮城県庁(2人)、新潟県庁、山梨県庁、環境省、宮城県警、大石田町役場、庄内総合支庁

修了後の進路(大学院農学研究科《修士課程》)

学 科	卒業生数	大学院 進 学	その他	就 職 先			未決定	決定率(%)
				民間企業	公務員	計		
生物生産学専攻	11 (7)	0 (0)	5 (2)	4 (3)	1 (1)	5 (4)	1 (1)	83.3
生物資源学専攻	11 (6)	0 (0)	2 (0)	8 (5)	1 (1)	9 (6)	0 (0)	100.0
生物環境学専攻	6 (1)	0 (0)	1 (0)	3 (1)	2 (0)	5 (1)	0 (0)	100.0
計	28 (14)	0 (0)	8 (2)	15 (9)	4 (2)	19 (11)	1 (1)	95.0

()内の数は女子を内数で表す。

就職先の状況

生物生産学専攻	JA全農、(株)ヨークベニマル、(株)ハルデイン、ニコニコファーム 宮城県庁
生物資源学専攻	(株)ニチレイフーズロジグループ(2人)、三菱化学メディエンス(株)、協和(株)、森永乳業(株)、エムシー・ファーターコム(株)、(株)ブルボン 山形県講師(臨時)
生物環境学専攻	(独)森林総合研究所、(株)日本政策金融公庫、(株)テイコク 山形県庁、福島県庁

(4) 平成24年度大学院農学研究科修了者について

○生物生産学専攻

講座	氏名	論文題目	指導教員名
農業生産学	小笠原 千晶	リンゴ3品種における中心花由来果実と側花由来果実の発育と品質に関する研究	平 智
生産生態制御学	小俣 朋美	ダイズとトウモロコシの混作およびレンゲのリビングマルチが作物の生育を通じて節足動物群集におよぼす影響	安田 弘法
農業生産学	蕪木 峻	ケイ酸を施用した水稻の各種ストレスへの応答反応	藤井 弘志
生産生態制御学	佐藤 麻都香	杭州湾南岸地域に分布する干拓後年数の異なる水田土壌の理化学的特徴と炭素貯蓄	安藤 豊
生産生態制御学	志賀 紗智	<i>Pythium oligandrum</i> を利用したトマト青枯病の生物防除に関する研究	長谷 修
農業生産学	高橋 陽	ヤマブドウ在来系統群の果実品質特性と加工適性に関する研究	池田 和生
農業生産学	長谷川 友香	水稻の登熟期高夜温時における根域の違いによる高温障害発生抑制栽培技術の研究	藤井 弘志
農業生産学	三上 慶裕	枝豆茹で莢残渣サイレージの発酵品質および給与時の栄養価と第一胃内性状に関する研究	堀口 健一
生産生態制御学	Khin Thandar MYINT	Soil Microbial Biomass Nitrogen of Paddy Soil as Affected by Cultural Practices and Soil Layers	安藤 豊
生産生態制御学	Tonny KINSAMBWE	Effect of narrow row, direct sowing-labor saving technique and subsurface drainage on Green Soybean growth	片平 光彦
農業生産学	Zhu Jiao	農村集市における販売行動と消費行動の実態—中国四川省栄県新橋鎮の調査から—	角田 毅

○生物資源学専攻

講 座	氏 名	論文題目	指導教員名
生物機能調節学	秋山 惇	イヌホオズキ (<i>Solanum nigrum</i>) の成分に関する研究	村山 哲也
生物資源利用化学	岡本 有加	イネからのメタン放出量と根由来の有機物量におけるイネ品種間差の検討	程 為国
生物資源利用化学	河本かずさ	<i>Aspergillus oryzae</i> 由来フェルラ酸エステラーゼBの特性に関するタンパク質工学的研究	小関 卓也
生物機能調節学	後藤 賢子	銀ナノ微粒子の抗菌性を利用した切り花の品質保持に関する研究	村山 秀樹
生物資源利用化学	坂田 淳	アーバスキュラー菌根菌の外生菌糸ネットワークによる異種植物間の窒素輸送	俵谷圭太郎
生物資源利用化学	渋谷 史明	マングローブ林由来糸状菌における塩濃度依存性物質について	塩野 義人
生物資源利用化学	菅原 千都	イネにおけるジテルペン系フィトアレキシンの生理・進化に関する研究	豊増 知伸
生物機能調節学	高橋 牧人	タモギタケに含まれる成分について	貫名 学
生物機能調節学	松本 直子	水田からの各種細胞外耐冷性酵素生産嫌気性細菌の分離と特徴付け	加来 伸夫
生物機能調節学	油座 夏美	ザクロ花に含まれる成分に関する研究	貫名 学
生物機能調節学	大谷 修平	チモフェービ系コムギの遺伝的分化と栽培化の起源に関する研究	笹沼 恒男

○生物環境学専攻

講 座	氏 名	論文題目	指導教員名
森林環境資源学	大村 勇太	火山性荒原の植生被覆マウンドの動態変化	菊池 俊一
森林環境資源学	佐々木 賢二	山形県庄内平野南部の市街域に生育するイチョウの年輪幅変動の同調性と気候応答	野堀 嘉裕
地球環境科学	清野 陽介	ブナの開花による防御強度の個体差がウエツキブナハムシの被害程度に及ぼす影響	小山 浩正
地球環境科学	鶴巻 なつ美	「地域との関わり」が消費者行動に与える影響 —地産地消という視点から—	小沢 互
地球環境科学	野村 征宏	ブナ二次林において個体間競争が個体の成長に与える影響	小山 浩正
森林環境資源学	山下 陽平	スギ抽出成分の抗ハダニ活性	芦谷 竜矢

①研究活動

安全農産物生産学コース

高橋敏能

1-① 論文

- (1) Y. Cao, Y. Cai, T. Takahashi* (2013) Ruminant digestibility and quality of silage conserved via fermentation by lactobacilli. In: Lactic Acid Bacteria (Ed: Marcelio Kongo). In Tech, Rijeka, Croatia. 363-378.

1-② 論文

- (1) T. Sato, M. Hanada, M. Ohtani, T. Nakai, M. Teramura, H. Sadoya, T. Takahashi, A. Hongo (2012) Effect of difructose anhydrate III on serum immunoglobulin G concentration in newborn calves. Journal of Dairy Science 95: 5336-5339.
- (2) J. Fang, M. Matsuzaki, H. Suzuki, Y. Cai, K. Horiguchi, T. Takahashi* (2012) Effect of lactic acid bacteria and urea treatment on fermentation quality, digestibility and ruminal fermentation of roll bale rice straw silages in wethers. Grassland Science 58: 73-78.
- (3) Y Cao, T. Takahashi*, K. Horiguchi, N. Yoshida, D. Zhou (2012) In vitro ruminal dry matter digestibility and methane production of fermented total mixed ration containing whole-crop rice and rice bran. Grassland Science 58: 133-139.
- (4) 森田昌孝・石川恵・吉田宣夫・堀口健一・高橋敏能 (2012) 吸引通気式堆肥化システムで回収した硫安液肥が飼料用イネの生育および収量に与える影響. 日本草地学会誌 58: 166-172.
- (5) 森田昌孝・吉田宣夫・小山浩正・堀口健一・高橋敏能 (2013) ヤギにおける林地内低木樹葉の嗜好性. 山形大学紀要 (農学) 16: 221-228.
- (6) 高橋敏能 (2013) 地域を中心とする新規飼料の開発と実用化の可能性を探る (総説). 東北畜産学会報 62: 63-70.
- (7) 田川伸一・呂仁龍・堀口健一・吉田宣夫・高橋敏能*・市原昭一・菱沼真一 (2013) ジャトロファ油粕の化学組成, in vitro 乾物消化率, 発生ガス総量およびメタン産生量. 日本草地学会誌 (印刷中)

1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 高橋敏能 (2012) 地域を中心とする新規飼料の開発と実用化の可能性を探る. 東北畜産学会第62回大会 (招待講演)
- (2) 高橋敏能 (2013) 稲発酵粗飼料の栽培、調製、給与技術および飼料用米の加工・給与技術の開発に関する研究. 2013年度日本草地学会山形大会 (招待講演)
- (3) 三上慶裕・堀口健一・吉田宣夫・高橋敏能 (2012) ヒツジにおける枝豆茹莢残渣サイレージの消化性および栄養価の検討. 東北畜産学会報 62(2): 21.
- (4) 金 錫九・吉田宣夫・堀口健一・高橋敏能・甘利雅弘 (2013) 施肥および調製方法の違いが稲わらの飼料一般成分とDCAD値に及ぼす影響. 日本草地学会誌 59 (別号): 56.
- (5) 呂仁龍・堀口健一・吉田宣夫・高橋敏能 (2013) ジャトロファ油粕給与時のヒツジの肝機能に及ぼす影響. 日本草地学会誌 59 (別号): 57.

- (6) 松田朗海・中村 洋・D. Richindorji・岡安智生・大黒俊哉・高橋敏能・堀口健一・吉田宣夫 (2013) モンゴル国南ゴビ地域の冬季における放牧技術. 日本草地学会 59 (別号) : 95.
- (7) 内田 豪・堀口健一・吉田宣夫・高橋敏能 (2013) 発酵TMRの開封後の好気的変敗抑制に及ぼす各種要因. 日本草地学会 59 (別号) : 108.
- (8) 森田昌孝・吉田宣夫・堀口健一・高橋敏能 (2013) 吸引通気式堆肥システムから回収された硫安液肥の水口施用が水稻の生育および収量に与える影響. 日本草地学会 59 (別号) : 124.

1-③ その他の研究活動

- (1) 高橋敏能 (2012) : 「山形に生息するカモシカは厳寒期になぜ越冬できるのか」, 荘内日報2012年12月18日日刊
- (2) 高橋敏能 (2012) : 「カモシカの”ゲップ”は地球の温暖化を速めるか?」, 荘内日報2013年1月10日日刊
- (3) 高橋敏能 (2013) : 「地域を中心とする新規飼料の開発と実用化の可能性を探る」, 牛の博物館ニュースレター (No. 40) 2013年2月20日発行

生井恒雄

1-② 論文

- (1) 長谷 修・竹中重仁・前田征之・堀 武志・對馬誠也・生井恒雄 (2013) . 生物防除微生物 *Pythium oligandrum* 施用イネにおける防除関連遺伝子発現の誘導ともみ枯細菌病による苗腐敗症の発病抑制. 日本植物病理学会報79 : 1-9.

1-① 学会発表 (国内学会)

- (1) 大竹裕規・鈴木智貴・長谷 修 (2013) . 庄内地方におけるメヒシバいもち病菌の初発生の原因および年間のせいいたいについて. 日本植物病理学会報79 : 20-21
- (2) 安藤杉尋・對馬誠也・吉田重信・小林 隆・伊藤豊秋・長谷 修・生井恒雄・高橋英樹 (2013) . イネ有機栽培育苗土の病害抑制効果の解析. 日本植物病理学会報 79 : 21
- (3) 長谷 修・志賀紗智・竹中重仁・生井恒雄 (2013) . 生物防除微生物 *Pythium oligandrum* 菌体細胞壁エリシターのイネ催芽種子の防御反応. 日本植物病理学会報 79 : 25

安藤豊

1-① 論文

- (1) 佐々木由佳、安藤豊 (2012) : 人材育成の観点から見た山形大学農学部の国際協力のこれまでの取り組みと今後の方向 農学国際協力、1、53-57
- (2) H. Matsuda, T. Hayasaka, T. Konta, M. Asano, S. Mori, H. Ando, H. Fujii and H. Kanno (2012): Relationship between recent trends in climate conditions and rice quality in the Southern Tohoku region, *Agr. Meteorol.* 68-4, 195-201
- (3) Shuhei MAKABE, Yuka SASAKI, Ken-ichi KAKUDA, and Ho ANDO* (2012): Effect of Slag Silicate Fertilizer on Dissolved Silicon in Soil Solution with reference to Chemical Properties of Gleysols *Soil Science and Plant Nutrition on line*
- (4) Rahman Shah Moinur, Ken-ichi KAKUDA, Yuka SASAKI and Ho ANDO* (2013): Effect of Mid-Drainage on Root Physiological Activities, N Uptake and Yield of Rice in North East Japan, *Bull. Yamagata Univ., Agr. Sci.* 16-4, 197-206

1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 佐藤麻都香・Ping Zou・Jing Ye・真壁周平・角田憲一・佐々木由佳・Jianrong Fu・安藤豊 (2012) : Chemical properties of paddy soil under reclamation of different years located at South Bank of Hangzhou Bay in China、土肥要旨集、58、107
- (2) Rahman Shah Moinur, Ken-ichi KAKUDA, Yuka SASAKI, Ho ANDO (2012): Effect of Flooding Depths on Nitrogen Uptake in Irrigated Rice、土肥要旨集、58、106
- (3) Khin Thandar Myint, Ken - ichi KAKUDA, Yuka SASAKI and Ho ANDO: EFFECT OF ORGANIC MATTER APPLICATION ON SOIL MICROBIAL BIOMASS NITROGEN IN PADDY SOIL、土肥要旨集、58、108
- (4) 佐々木由佳・有賀和裕・阿部真二・遠藤寛子・角田憲一・安藤豊 (2012) : 山形県鶴岡市での水稲茎数に対する活着肥の施用効果、土肥要旨集 58、101
- (5) 角田憲一・横山裕美・佐々木由佳・安藤豊 (2012) : 東北地方の水田における施肥窒素の挙動、土肥要旨集、58、101
- (6) 真壁周平・太田明日香・角田憲一・佐々木由佳・安藤豊 (2012) : 水稲の窒素およびケイ酸吸収に対する下層土の寄与、土肥要旨集、58、105

夏賀元康

1-① 論文

- (1) ハイブリッド式エダマメ選別機の開発(第2報) [国際食品工業展FOOMA2009アカデミックプラザ研究発表要旨集, 19, (2012年06月), 271-274]
- (2) Estimation of the Flavor of Green Soybean during Storage from Single Pod Measurements Using Dedicated Near-Infrared Transmission Spectrometer [Journal of Biosystem Engineering, 37 (6), (2012年12月), 398-403]
- (3) 近赤外分光法によるコンクリート構造物の劣化の診断(第2報) -環境条件が測定精度に与える影響- [農業機械学会東北支部報, 59, (2012年12月), 13-16]
- (4) 近赤外分光法によるコンクリート構造物の劣化の診断(第3報) -近赤外分光分析装置のコストダウンに関する検討- [農業機械学会東北支部報, 59, (2012年12月), 17-22]
- (5) 近赤外分光法によるヤギ生乳成分の測定(第2報) -ヤギ生乳成分の変動と測定精度- [農業機械学会東北支部報, 59, (2012年12月), 3-6]
- (6) Effect of the Narrow Ridge - Direct Sowing Technique of Saving Labor in Green Soybean (Edamame) Production [農業機械学会東北支部報, 59, (2012年12月), 27-30]
- (7) 近赤外分光法によるヤギ生乳の成分測定 [第28回近赤外フォーラム講演要旨集, (2013年03月), 136-]
- (8) 近赤外分光法による立毛中のエダマメの品質測定 [第28回近赤外フォーラム講演要旨集, (2013年03月), 135-]
- (9) 近赤外分光法によるコンクリート構造物の劣化の診断 [第28回近赤外フォーラム講演要旨集, (2013年03月), 137-]

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) ハイブリッド式エダマメ選別機の開発(第2報) FOOMA JAPAN 2012 アカデミックプラザ
- (2) 副生グリセリンを活用した暖房機の開発による寒冷地花き生産技術(第2報) 農業環境工学関連学会2012年合同大会
- (3) 農業環境工学関連学会2012年合同大会 近赤外分光法によるコンクリート構造物の劣化の診断 第3報 装置のコストダウンの検討

- (4) 農業環境工学関連学会2012年合同大会 近赤外分光法によるコンクリート構造物の劣化の診断 第2報 環境条件が測定精度に与える影響
- (5) 農業環境工学関連学会2012年合同大会 近赤外分光法によるヤギ生乳の成分測定 第1報 ヤギ生乳成分の測定精度
- (6) 第28回近赤外分光法 近赤外分光法によるヤギ生乳の成分測定
- (7) 第28回近赤外分光法 近赤外分光法による立毛中のエダマメの品質測定
- (8) 第28回近赤外分光法 近赤外分光法によるコンクリート構造物の劣化の診断

西澤隆

1-① 論文

- (1) Motomura Y., T. Aikawa and T. Nishizawa. 2012. Decrease in galactose residue in cell wall polysaccharides of 'Andesu' netted melon fruit influences the formation of the water-core. *Acta Horticulturae* 943: 95-102.
- (2) Keitaro TAWARAYA, Shinpei SHIOZAWA, Koji UEDA, Hideki MURAYAMA, Takashi NISHIZAWA, Tomonobu TOYOMASU, Tetsuya MURAYAMA, Satoru SATO, Tadao WAGATSUMA and Hironori YASUDA. 2012. Leaf herbivory by *Spodoptera litura* increases arbuscular mycorrhizal colonization in roots of soybean. *Soil Science and Plant Nutrition* 58: 445-449.
- (3) T. Nishizawa, Y. Shishido, B. Sasaki, C. Sato, Y. Hanawa and K. Matsumura. 2012. Effects of Specific UV-Blocking on Plant Growth and Insect Control. *Acta Horticulturae* 927: 203-210.

1-③ 学会発表 (国内学会)

- (1) 西澤 隆・小澤美咲・相川敏之. 2012. 古代植物堆積層由来のフルボ酸処理がサラダナの生育と品質に及ぼす影響. 園学要旨. 平24東北支部. 27-28.

1-③ 学会発表 (国外学会)

- (1) Motomura Y., T. Nishizawa, A. Katsuta, A. Ishida, W. Kumpoun and T. Puthmee. 2012. Effects of 1-MCP and DPA on the changes in sesquiterpene and total phenol contents associated with superficial browning in ripe mango skins. *Southeast Asia Symposium on Quality Management in Postharvest Systems*. p.19.
- (2) Puthmee T., T. Nishizawa, K. Takahashi, M. Sugawara, Y. Motomura, T. Aikawa and W. Kumpoun. 2012. Morphological and physiological traits of spongy disordered tissues in mango (*Mangifera indica* L.) fruit. *Abstr. 7th International postharvest symposium 2012 (IPS 2012) S08-3*. p. 69.
- (3) Motomura Y., T. Nishizawa and W. Kumpoun. 2012. Changes in peel color and cuticle components in mango skin affected by temperature treatment after harvest. *Abstr. 7th International postharvest symposium 2012 (IPS 2012) P01-8*. p. 87.

藤井弘志

1-① 論文

- (1) 松田裕之・森静香・藤井弘志 (2012) 窒素の視点からみた登熟期間の剪葉処理がダイズの百粒重および子実重に及ぼす影響、日本土壤肥料学雑誌、83、133-138
- (2) 柴田康志・松田裕之・森静香・藤井弘志 (2012) 山形県庄内地域での2004年台風第15号および第16号によるダイズ潮風害の実態、日本作物学会紀事、81、160-166
- (3) MATSUDA, H., HAYASAKA, T., KONTA, T., ASANO, M., MORI, S., ANDO, H., FUJII, H. and KANNO, H. (2012) Relationship between recent trends in climate condition and rice quality in Southern Tohoku region. Journal of Agricultural Meteorology Information for Contributors, 68, 195-204

1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 蕪木俊・及川暁・森静香・藤井弘志 (2012) ケイ酸を施用した水稻苗におけるいもち病への代謝応答反応、日本土壤肥料学会講演要旨集、58、110
- (2) 水野貴文・森静香・藤井弘志 (2012) 植付け深・栽植密度および施肥窒素量が水稻の生育に及ぼす影響、日本土壤肥料学会講演要旨集、58、110
- (3) 岩浪和美・水野貴文・森静香・藤井弘志 (2012) 植付け深がケイ酸資材施用による水稻の収量およびケイ酸吸収量に及ぼす影響、日本土壤肥料学会講演要旨集、58、111
- (4) 佐久間拓也・藤井弘志・森静香 (2012) 異なる窒素施肥量における中耕除草がイネの生育・収量に及ぼす影響、日本作物学会紀事、81 (別2)、192-193
- (5) 長谷川友香・神田英司・森静香・藤井弘志 (2012) 異なる栽植密度が穂温および収量・品質に及ぼす影響、日本作物学会紀事、81 (別2)、294-295

1-③ その他の研究活動

- (1) 有機農業技術研究会3月14日、(鶴岡市) 100人
- (2) ケイ酸研究会 (ケイカル協会)、3月8日 (東京) 25人
- (3) スラグ研究会、3月11日、(仙台市) 20人

平智

1-① 著書

- (1) 山形大学農学部果樹園芸学分野編、2013、ヤマブドウのはなし、杉葉堂印刷、山形、(共著)

1-② 論文

- (1) 小笠原千晶・平 智 (2013) : 3品種のリンゴにおける中心花由来果実と側花由来果実の発育と品質、山形大学紀要 (農学)、16 : 207-219.

1-③ 学会発表 (国内学会)

- (1) 北原裕理・小笠原千晶・平 智 (2012) : がく切除ならびに遮光処理がリンゴおよびカキ果実の発育と品質に及ぼす影響、園芸学会東北支部平成24年度大会発表要旨 : 15-16.
- (2) 佐藤祐樹・平 智 (2013) : 浸透圧脱水法による渋ガキ果実の脱水と脱渋過程、園芸学研究、13 (別冊1) :

堀口健一

1-① 論文

- (1) 森田昌孝・石川 恵・吉田宣夫・堀口健一・高橋敏能 (2012): 吸引通気式堆肥化システムで回収した硫安液肥が飼料用イネの生育および収量に与える影響. 日本草地学会誌, 58, 166-172.

1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 堀口健一・三上慶裕・佐伯真魚・高橋敏能・吉田宣夫 (2012): 枝豆茹茨残渣サイレージ調製に用いる添加物の検討. 日本草地学会誌, 58(別号), 139.
- (2) 金 錫九・入野田恭子・吉田宣夫・堀口健一・高橋敏能 (2012): 稲わら収穫後の放置期間, 被雨等が飼料成分, 回収率および第一胃内での消化率に及ぼす影響. 日本草地学会誌, 58(別号), 129.
- (3) 三上慶裕・堀口健一・吉田宣夫・高橋敏能 (2012): ヒツジにおける枝豆茹茨残渣サイレージの消化性および栄養価の検討. 東北畜産学会報, 62(2), 21.
- (4) 金 錫九・吉田宣夫・堀口健一・高橋敏能・甘利雅弘 (2013): 施肥および調製方法の違いが稲わらの飼料一般成分とDCAD値に及ぼす影響. 日本草地学会誌, 59(別号), 56.
- (5) 呂 仁龍・堀口健一・吉田宣夫・高橋敏能・田川伸一・市原昭一 (2013): ジャトロファ油粕給与時のヒツジの肝機能に及ぼす影響. 日本草地学会誌, 59(別号), 57.
- (6) 松田朗海・中村 洋・D.Rinchindorji・岡安智生・大黒俊哉・高橋敏能・堀口健一・吉田宣夫 (2013): モンゴル国南ゴビ地域の冬季における放牧技術. 日本草地学会誌, 59(別号), 95.
- (7) 内田 豪・堀口健一・吉田宣夫・高橋敏能 (2013): 発酵TMRの開封後の好気的変敗抑制に及ぼす各種要因. 日本草地学会誌, 59(別号), 108.
- (8) 森田昌孝・吉田宣夫・堀口健一・高橋敏能 (2013): 吸引通気式堆肥化システムから回収された硫安液肥の水口施用が水稻の生育および収量に与える影響. 日本草地学会誌, 59(別号), 124.

吉田宣夫

1-① 著書

- (1) 吉田宣夫 (2012): 飼料用米の生産・給与技術マニュアル 2012年度版, 独立行政法人 農研機構, 平成25年3月, 1-212

1-② 論文

- (1) Toshiyoshi Takahashi, Ken-ich Horiguchi, Norio Yoshida, Yang Cao (2012): Effect of cellulase and urea addition on in situ degradability and preference for pruned persimmon branch chips in cattle. Japanese Society of Grassland Science, 57: 179-183.
- (2) Yang Cao, Yimin Cai, Toshiyoshi Takahashi, Norio Yoshida, M. Tohno, Ryu-ichi Uegaki, Kazuhisa Nonaka, Fuminori Terada (2011): Effect of lactic acid bacteria inoculant and beet pulp addition on fermentation characteristics and in vitro ruminal digestion of vegetable residue silage. Journal of Dairy Science, 94: 3902-3912.
- (3) 森田昌孝・石川 恵・吉田宣夫・堀口健一・高橋敏能 (2012): 吸引通気式堆肥化システムで回収した硫安液肥が飼料用イネの生育および収量に与える影響. 日本草地学会誌, 58(3): 7166-172.
- (4) 吉田宣夫 (2012): 水田活用による飼料の自給率向上と持続的畜産のために. 日本草地学会誌, 58(1): 32-36.
- (5) 森田昌孝・吉田宣夫・小山浩正・堀口健一・高橋敏能 (2012): ヤギにおける林地内低木樹葉の嗜好性. 山形大学紀要 (農学), 16(4): 221-228.

1-③ 学会発表（国内学会）

- (1) 金 錫九・入野田恭子・吉田宣夫・堀口健一・高橋敏能（2012）：稲わら収穫後の放置期間、被雨等が飼料成分、回収率および第一胃内での消化率に及ぼす影響。2012年度日本草地学会北海道大会講演要旨 129.
- (2) 堀口健一・三上慶裕・佐伯真魚・高橋敏能・吉田宣夫（2012）：枝豆茹莢残渣サイレージ調製に用いる添加物の検討。2012年度日本草地学会北海道大会講演要旨 139.
- (3) 金 錫九・吉田宣夫・堀口健一・高橋敏能・甘利雅弘（2013）：施肥および調製方法の違いが稲わらの飼料一般成分とDCAD値に及ぼす影響。2013年度日本草地学会山形大会講演要旨 56.
- (4) 呂 仁龍・堀口健一・吉田宣夫・高橋敏能・田川伸一・市原昭一（2013）：ジャトロファ油粕給与時のヒツジの肝機能に及ぼす影響。2013年度日本草地学会山形大会講演要旨 57.
- (5) 松田朗海・中村 洋・D.Rinchindorji・岡安智生・大黒俊哉・高橋敏能・堀口健一・吉田宣夫（2013）：ジャトロファ油粕給与時のヒツジの肝機能に及ぼす影響。2013年度日本草地学会山形大会講演要旨 95.
- (6) 内田豪・堀口健一・吉田宣夫・高橋敏能（2013）：発酵TMRの開封後の好気的変敗抑制に及ぼす各種要因。2013年度日本草地学会山形大会講演要旨 108.
- (7) 森田昌孝・吉田宣夫・堀口健一・高橋敏能（2013）：吸引通気式堆肥化システムで回収された硫安液肥の水口施用が水稻の生育および収量に与える影響。2013年度日本草地学会山形大会講演要旨 124.

1-④ 学会発表（国外学会）

- (1) M.Morita, N.Yoshida, K.Horiguchi and T.Takahashi (2012): Effect of Liquid Ammonia Sulfate fertilizer, Recovered Using Ammonia-Collecting Equipment, on the Growth and Yield of Forage Rice. Proceedings of The 15th AAAP Animal Science Congress. 458.

1-⑤ その他の研究活動

- (1) 吉田宣夫（2012）：飼料用米の生産利用と耕畜連携、養豚の友2012(8), 22-24
- (2) 吉田宣夫（2013）：トウモロコシの代替として乳牛の配合に飼料米38%入替成功, Dairy news, 2013(3), 7181-7188

小笠原宣好

1-① 著書

- (1) 小笠原宣好（2013）デルフィニウム、金浜耕基編、観賞園芸学、文永堂出版、p.159-172.

1-② 論文

- (1) 江頭宏昌、小笠原宣好、武田優季、齋藤裕太郎、高品善、遠藤幸子、金森裕之、佐藤淳（2012）：SSRマーカーを用いた新潟県および山形県在来食用ギクの系統解析。DNA多型, 20, 62-70.

1-③ 学会発表（国内学会）

- (1) 小笠原宣好、高品善、遠藤幸子、齋藤裕太郎、江頭宏昌、（2012）：「早生もって」における花器の形質および抗酸化活性の系統間差、園芸学研究11別冊2、466.

長谷修

1-① 論文

- (1) 長谷 修・竹中重仁・高橋 翔・中保一浩・河村 陽子・生井恒雄 (2012) . 生物防除微生物Pythium oligandrum施用トマトの病害抵抗性誘導における β -シアノアラニンの役割. 日本植物病理学会報, 78: 309-312
- (2) 長谷 修・竹中重仁・前田征之・堀 武志・對馬誠也・生井恒雄 (2013) . 生物防除微生物Pythium oligandrum施用イネにおける防御関連遺伝子発現の誘導ともみ枯細菌病菌による苗腐敗症の発病抑制. 日本植物病理学会報, 79: 1-9

1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 大竹裕規・鈴木智貴・長谷修・生井恒雄 (2012) 庄内地方におけるメヒシバいもち病菌の初発生の原因および年間の生態について, [2012, 9, 13-14. 日本植物病理学会東北部会 鶴岡市] 日本植物病理学会報 2013, 79, 20-211(講要) .
- (2) 安藤杉尋・對馬誠也・吉田重信・小林隆・伊藤豊彰・長谷修・生井恒雄・高橋英樹 (2012) イネ有機栽培育苗土の病害抑制効果の解析[2012, 9, 13-14. 日本植物病理学会東北部会 鶴岡市] 日本植物病理学会報 2013, 79: 21(講要) .
- (3) 長谷 修・志賀紗智・竹中重仁・生井恒雄 (2012) 生物防除微生物Pythium oligandrum菌体細胞壁エリシターによるイネ催芽種子の防御応答[2012, 9, 13-14. 日本植物病理学会東北部会 鶴岡市] 日本植物病理学会報 2013, 79: 25(講要) .

1-③ その他の研究活動

- (1) 長谷 修 (2013) : 有機栽培イネの病害抵抗性誘導 (研究報告) 山形県有機農業技術研究会-有機農業を科学する-2013, 3, 14場所 山形大学農学部、参加人数 70名

片平光彦

1-① 論文

- (1) 片平光彦・進藤勇人・上田賢悦・鈴木基・小林由喜也 (2012) : 種芋移植機を用いたツクネイモ定植作業の省力化技術 (第2報), 農業機械学会誌, 74(3), 220-225
- (2) 片平光彦・鶴沼秀樹・篠田光江・田村晃 (2012) : エダマメ選別作業の効率化技術, 秋田県農林水産技術センター農業試験場研究報告, 51, 1-22
- (3) 片平光彦・ZHANG Shu - Huai・田村晃・大泉隆弘・夏賀元康(2012) : フォトセンサと画像処理技術を活用したエダマメ用高精度選別機械の開発, New Food Ind, 54(7), 21-37
- (4) 烏 友図・片平光彦・夏賀元康・吉田宣夫(2012) : 近赤外分光法によるヤギ生乳成分の測定 (第2報), 農業機械学会東北支部報, 59, 3-6
- (5) 設楽徹・片平光彦・夏賀元康(2012) : 近赤外分光法によるコンクリート構造物の劣化の診断 (第1報), 農業機械学会東北支部報, 59, 7-12
- (6) 鈴木ミチル・設楽徹・片平光彦・夏賀元康(2012) : 近赤外分光法によるコンクリート構造物の劣化の診断 (第2報), 農業機械学会東北支部報, 59, 13-16
- (7) 設楽徹・鈴木ミチル・片平光彦・夏賀元康(2012) : 近赤外分光法によるコンクリート構造物の劣化の診断 (第3報), 農業機械学会東北支部報, 59, 17-22
- (8) Tonny KINSAMBWE・Mitsuhiko KATAHIRA・Motoyasu NATSUGA(2012) : Effect of the Narrow Ridge - Direct Sowing Technique of Saving Labor in Green Soybean (Edamame) Production, Tohoku Branch of JSAM, 59, 27-30

- (9) 齋藤雅憲・進藤勇人・片平光彦・加藤良成・山谷正治(2012)：八郎潟干拓地水田における稲わら収集作業の特徴，農業機械学会東北支部報，59，39-42
- (10) 進藤勇人・齋藤雅憲・片平光彦・加藤良成・山谷正治(2012)：八郎潟干拓地稲わら収集作業における稲わら水分の変動要因，農業機械学会東北支部報，59，43-46
- (11) Maki Maebashi, Motoyasu Natsuga, Hiroaki Egashira, Nobuo Ura, Mitsuhiko Katahira(2012)：Estimation of the Flavor of Green Soybean during Strage from Single Pod Measurements using Dedicated Near-Infrared Transmission Spectrometer, Journal of Biosystems Engineering, 37(6), 398-403

1-② 学会発表（国内学会）

- (1) 片平光彦・夏賀元康（2012・6・12）：ハイブリッド式エダマメ選別機の開発（第2報），FOOMA JAPAN アカデミックプラザ研究発表要旨集，19，271-274
- (2) 片平光彦（2012・7・11）：野菜栽培での排水対策について，秋田県大潟村，招待講演
- (3) 鳥友図・片平光彦・夏賀元康（2012・8・30）：近赤外分光法によるヤギ生乳の成分測定（第2報），農業機械学会東北支部会
- (4) 鈴木ミチル・設楽徹・片平光彦・夏賀元康（2012・8・30）：近赤外分光法によるコンクリート構造物の劣化の診断（第2報），農業機械学会東北支部会
- (5) 設楽徹・鈴木ミチル・片平光彦・夏賀元康（2012・8・30）：近赤外分光法によるコンクリート構造物の劣化の診断（第3報），農業機械学会東北支部会
- (6) 齋藤雅憲・進藤勇人・片平光彦・加藤良成・山谷正治（2012・8・30）：八郎潟干拓地稲わら収集作業における稲わら水分の変動要因，農業機械学会東北支部会
- (7) 進藤勇人・齋藤雅憲・片平光彦・加藤良成・山谷正治（2012・8・30）：八郎潟干拓地水田における稲わら収集作業の特徴，農業機械学会東北支部会
- (8) Tonny Kinsambwe・Mitsuhiko Katahira・Motoyasu Natsuga（2012・8・30）：Effect of the Narrow Ridge-Direct Sowing Technique of Saving Labor in Green Soybean Production, Tohoku Branch of JSAM
- (9) 鳥友図・片平光彦・夏賀元康（2012・9・12）：近赤外分光法によるヤギ生乳の成分測定第1報 ヤギ生乳成分の測定精度，農業環境工学関連学会2012年合同大会
- (10) 鈴木ミチル・設楽徹・片平光彦・夏賀元康（2012・9・12）：近赤外分光法によるコンクリート構造物の劣化の診断 第2報 環境条件が測定精度に与える影響，農業環境工学関連学会2012年合同大会
- (11) 設楽徹・鈴木ミチル・片平光彦・夏賀元康（2012・9・12）：近赤外分光法によるコンクリート構造物の劣化の診断 第3報 装置のコストダウンの検討，農業環境工学関連学会2012年合同大会
- (12) 片平光彦・夏賀元康・齋藤雅憲・佐藤孝夫（2012・9・12）：副生グリセリンを活用した暖房機の開発による寒冷地花き生産技術（第2報），農業環境工学関連学会2012年合同大会
- (13) 片平光彦（2013・2・13）：果樹用収穫機械のロボット化と労働負担の評価，山形市，招待講演（南東北クボタ）
- (14) 齋藤雅憲・進藤勇人・元林浩太・片平光彦・加藤良成・山谷正治（2013・3・19）：八郎潟干拓地重粘土水田ほ場での稲わら収集作業の効率化に関する研究（第6報），農作業研究，48(別1)，9-10
- (15) 片平光彦・齋藤雅憲・進藤勇人・加藤良成・山谷正治（2013・3・19）：八郎潟干拓地重粘土水田ほ場での稲わら収集作業の効率化に関する研究（第7報），農作業研究，48(別1)，11-12
- (16) 進藤勇人・片平光彦・本庄求・齋藤雅憲（2013・3・20）：施肥溝切り機を用いた側条施肥による長ネギの生育促進効果と施肥量低減，農作業研究，48(別1)，79-80

1-③ その他の研究活動

- (1) 片平光彦 (2013・2・5) : 機械の開発と技術の普及について, 農機新聞文化欄

森静香

1-① 著書

- (1) 森静香 (2013) 水稻におけるケイ酸資材の幼穂形成期施用の有効性、土づくりとエコ農業、第45巻、14-19、一般財団法人日本土壌協会
- (2) 森静香 (2013) ケイ酸の効率的な施用技術と気象災害の軽減効果、農業技術大系土壌施肥編、追録24号⑥-1、120の24-120の32、農文協
- (3) 森静香 (2013) ケイ酸の効率的な施用技術と気象災害の軽減効果、最新農業技術土壌施肥、第5巻、199-207、農文協

1-② 論文

- (1) 松田裕之・森静香・藤井弘志 (2012) 窒素の視点からみた登熟期間の剪葉処理がダイズの百粒重および子実重に及ぼす影響、日本土壌肥科学雑誌、83、133-138
- (2) 柴田康志・松田裕之・森静香・藤井弘志 (2012) 山形県庄内地域での2004年台風第15号および第16号によるダイズ潮風害の実態、日本作物学会紀事、81、160-166
- (3) MATSUDA, H., HAYASAKA, T., KONTA, T., ASANO, M., MORI, S., ANDO, H., FUJII, H. and KANNO, H. (2012) Relationship between recent trends in climate condition and rice quality in Southern Tohoku region. Journal of Agricultural Meteorology Information for Contributors, 68, 195-204

1-③ 学会発表 (国内学会)

- (1) 蕪木俊・及川暁・森静香・藤井弘志 (2012) ケイ酸を施用した水稻苗におけるいもち病への代謝応答反応、日本土壌肥料学会講演要旨集、58、110
- (2) 水野貴文・森静香・藤井弘志 (2012) 植付け深・栽植密度および施肥窒素量が水稻の生育に及ぼす影響、日本土壌肥料学会講演要旨集、58、110
- (3) 岩浪和美・水野貴文・森静香・藤井弘志 (2012) 植付け深がケイ酸資材施用による水稻の収量およびケイ酸吸収量に及ぼす影響、日本土壌肥料学会講演要旨集、58、111
- (4) 佐久間拓也・藤井弘志・森静香 (2012) 異なる窒素施肥量における中耕除草がイネの生育・収量に及ぼす影響、日本作物学会紀事、81 (別2)、192-193
- (5) 長谷川友香・神田英司・森静香・藤井弘志 (2012) 異なる栽植密度が穂温および収量・品質に及ぼす影響、日本作物学会紀事、81 (別2)、294-295

1-④ その他の研究活動

- (1) 有機農業技術研究会
- (2) 東北創生研究所

佐藤智

1-① 論文

- (1) K. Ueda, K. Tawarayama, H. Murayama, S. Sato, T. Nishizawa, T. Toyomasu, T. Murayama, S. Shiozawa, H. Yasuda 2013 (平成25)年: Effects of arbuscular mycorrhizal fungi on the abundance of foliar-feeding insects and their natural enemy. Applied Entomology and Zoology, 48, 79-85.

1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 岩澤薫・佐藤智 2013年3月29日 雑草の群落構造が節足動物群集の発生に及ぼす影響 第57回日本応用動物昆虫学会大会

佐々木由佳

1-① 論文

- (1) 佐々木由佳・安藤豊 (2012). 人材育成の観点からみた山形大学農学部の国際協力のこれまでの取り組みと今後の方向. 農学国際協力 12, 53-57
- (2) 小田川信哉・小杉幸夫・宇都宮昭・齋藤元也・佐々木由佳・小田九仁夫・加藤雅胤 (2012). Effect of mid-drainage on root physiological activities, N uptake and yield of rice in north east Japan. 山形大学紀要(農学), 16(4), 197-206

1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 小田川信哉・小杉幸夫・齋藤元也・佐々木由佳・加藤雅胤 (2012.5) 航空機ハイパースペクトルデータを用いたLasso回帰による水稻生育状況の推定. 日本写真測量学会学術講演会発表論文集 103-104
- (2) 小田川信哉・齋藤元也・小杉幸夫・佐々木由佳・加藤雅胤 (2012.5) 航空機ハイパースペクトルデータを用いたRandom Forest回帰による水稻収量とタンパク含有率の推定および赤池情報量基準によるバンド数選択. 日本リモートセンシング学会学術講演会論文集 52, 161-162
- (3) 佐々木由佳・有賀和裕・阿部真二・遠藤寛子・角田憲一・安藤豊 (2012.9) 山形県鶴岡市での水稻茎数に対する活着肥の施用効果. 日本土壌肥料学会講演要旨集, 58, 101
- (4) 角田憲一・横山裕美・佐々木由佳・安藤豊 (2012.9) 東北地方の水田における施肥窒素の挙動. 日本土壌肥料学会講演要旨集 58, 101
- (5) 真壁周平・太田明日香・角田憲一・佐々木由佳・安藤豊 (2012.9) 水稻の窒素およびケイ酸吸収に対する下層土の寄与. 日本土壌肥料学会講演要旨集 58, 105
- (6) Shah Moinur Rahman, Ken-ichi Kakuda, Yuka Sasaki, Ho Ando (2012.9) Effect of flooding depth on nitrogen uptake in irrigated rice. 日本土壌肥料学会講演要旨集 58, 106
- (7) Madoka Sato, Ping Zou, Jing Ye, Shuhei Makabe, Ken-ichi Kakuda, Yuka Sasaki, Jianrong Fu, Ho Ando (2012.9) Chemical properties of paddy soil under reclamation of different years located at South Bank of Hangzhou Bay in China. 日本土壌肥料学会講演要旨集 58, 107
- (8) Khin Thandar Myint, Ken-ichi Kakuda, Yuka Sasaki, Ho Ando (2012.9) Effect of organic manure application on Soil Microbial Biomass Nitrogen (SMBN) in paddy soil. 日本土壌肥料学会講演要旨集 58, 108
- (9) 庄内水田農業推進機構ワークショップ (2012年11月28日) 佐々木由佳: 微地形に対応した鶴岡の水田土壌
- (10) 山形県有機農業研究会 (2012年3月14日) Shah Moinur Rahman、佐々木由佳、角田憲一、安藤豊: SRI農法の水管理技術が施肥窒素の挙動、水稻の生育、収量に与える影響

1-② 学会発表（国外学会）

- (1) 2nd International Workshop on Sustainable Rice Production (2012年9月14日)
Yuka Sasaki, Shah Moinur Rahman, Ken-ichi Kakuda, Ho Ando: Effect of Water Saving Irrigation Practices on Fertilizer Nitrogen Dynamics in Paddy Soil and Plant Growth and Yield of Rice.

池田和生

1-① 著書

- (1) 形質転換プロトコール【植物編】. 化学同人. 2012. 123-133セイヨウナシの形質転換プロトコール

1-② 学会発表（国内学会）

- (1) 山形県在来キュウリの果実品質特性に関する研究
池田和生・本間日奈子・大森美菜子・江頭宏昌、園芸学研究第12巻別1、331、2013
- (2) 銀ナノ微粒子および温度条件がケイオウザクラ切り枝の花の品質におよぼす影響
後藤賢子・栗原正人・坂本正臣・池田和生・及川 彰・村山秀樹、園芸学研究第12巻別1、238、2013

食農環境マネジメント学コース

岩鼻通明

1-① 論文

- (1) 岩鼻通明 (2012) : 「韓国における伝統文化の変容—婚姻をめぐって」村山民俗26, . p. 52-54.
- (2) 岩鼻通明 (2012) : 「震災映像と被災地上映」季刊地理学64-2, p74-75.

1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 岩鼻通明 (2012年5月27日) : 東日本大震災と映画館—被災地の観客アンケートを通して、東北地理学会春季学術大会
- (2) 岩鼻通明 (2012年11月18日) : 鶴岡まちなかキネマと中心市街地活性化、人文地理学会大会

1-④ その他の研究活動

- (1) 岩鼻通明 (2012) : 文献紹介: 福江充著『江戸城大奥と立山信仰』「史林」95-4、p105-106.
- (2) 岩鼻通明 (2012) : 東日本大震災関係シンポジウム「震災の記憶と語り—民俗の再生へ向け」シンポジウムの企画趣旨「日本民俗学」271、p134-138.
- (3) 岩鼻通明 (2012) : 「釜山国際映画祭で韓国ドキュメンタリー映画を見た」WEBネオネオ, <http://webneo.org/archives/5867>、
- (4) 岩鼻通明 (2012) : シンポジウム「草木塔の心をさぐる」記録、「置賜の民俗」19号、p. 2-25.

小沢互

1-① 著書

- (1) 小沢互・野崎大喬・金子舞・藤科智海 (2012) 「低炭素指向循環型地域農業システムの可能性」黒田昌裕・大歳恒彦編著『脱温暖化—地域からの挑戦—山形・庄内の試み—』慶應義塾大学出版会、133-159

1-① 論文

- (1) 楊秀玉・小沢互 (2012) 「中国農業関連企業における後継者育成に関する考察—吉林省の2社を対象とする事例研究—」農村経済研究、第30巻第1号、74-83
- (2) 沼澤篤・小沢互・藤科智海 (2013) 「祭りを媒介としたソーシャル・キャピタルの実態—山形県新庄市新庄祭りの山車行事を事例に—」地域活性研究、Vol. 4、351-359

1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 鶴巻なつ美・小沢互・藤科智海 (2012) 「「地域との関わり」が「地産地消」という購買行動に与える影響」第48回東北農業経済学会宮城大会報告要旨、52
- (2) 金紅蘭・藤科智海・小沢互 (2012) 「中国延辺地域における専業農場の現状と課題—図們市Y鎮を事例として—」第48回東北農業経済学会宮城大会報告要旨、69

1-③ その他の研究活動

- (1) 小沢互 (2012) 「飼料用米の持続的生産を目指してー利用の拡大に向けて取り組むべき課題の整理ー」 畜産コンサルタント、2012年4月号、22-25
- (2) 小沢互 (2013) 「フランチャイズ経営における経営継承ー平田牧場の事例ー」 平成22-24年度日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究C) 研究成果報告書、37-40
- (3) 小沢互・沼澤篤・長谷部正「山形県鶴岡市黒川地区における営農意向と祭の継承」 平成22-24年度日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究C) 研究成果報告書、95-104
- (4) 小沢互・吉仲怜・藤科智海「耕種農家と畜産業の連携によるコスト低減と付加価値化ー飼料用米生産主要県の山形県 (養豚業) と青森県 (養鶏業) を対象にー」 平成24年度畜産関係学術研究委託調査報告書、1-29

角田毅

1-① 論文

- (1) 角田毅, 大矢徹治, 坂上潤一, 安藤益夫 (2011)、アフリカ氾濫低湿地における稲作導入の実態と課題、. 熱帯農業研究、第5巻第2号: 153~155

1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 角田毅, 坂上潤一, 安藤益夫 (2012)、アフリカ氾濫低湿地における稲作導入の実態と課題、. 日本熱帯農業学会第190回研究集会
- (2) 佐藤千尋, 角田毅, 中村勝則, 上田賢悦 (2012) : 東北水田作経営における雇用導入の特質と課題、第48回東北農業経済学会
- (3) 佐藤健太, 角田毅, 宗田敏明 (2012) : 農業法人への学生の就農意識と課題、第48回東北農業経済学会
- (4) 中村勝則, 後藤哲, 渡部岳陽, 角田毅, 佐藤了 (2012) : 長期不況下における農業経営継承の東北的特質、第48回東北農業経済学会
- (5) 角田毅 (2012) : 東北水田作経営における雇用導入の実態と課題、日本農業経営学会分科会
- (6) 角田毅 (2012) : アフリカ氾濫原低湿地における稲作導入農家の特質、地域農林経済学会
- (7) 岡部和広, 中村人史, 古澤優佳, 角田毅 (2012) : フラビのポット苗を利用した早期成園化技術の開発 第2報3年目収量、園芸学会東北支部会
- (8) 中村人史, 古澤優佳, 岡部和広, 角田毅 (2012) : 広葉樹皆伐直後の林地へのフラビポット苗を導入した際の被覆状況と収量、東北森林科学会
- (9) 古澤優佳, 中村人史, 岡部和広, 角田毅 (2012) : 広葉樹皆伐後荒廃が進んだ林地へのフラビポット苗を導入した際の被覆と他植生の侵入状況、東北森林科学会

1-③ その他の研究活動

- (1) 角田毅「フラビ早期成園化技術導入の多面的評価」山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会総会及び連携研究成果シンポジウム、2012. 5. 29
- (2) 角田毅、農業問題研究学会春大会シンポジウムコメント、2013. 3. 28

藤科智海

1-① 著書

- (1) 小沢互・野崎大喬・金子舞・藤科智海（2012）：低炭素指向循環型地域農業システムの可能性、黒田昌裕・大歳恒彦編著『脱温暖化地域からの挑戦－山形・庄内の試み－』、133-159

1-② 論文

- (1) 沼澤篤・小沢互・藤科智海（2013）：祭りを媒介としたソーシャル・キャピタルの実態－山形県新庄市新庄祭りの山車行事を事例に－、地域活性研究、Vol. 4、351-359

1-③ 学会発表（国内学会）

- (1) 鶴巻なつ美・小沢互・藤科智海（2012）：「地域との関わり」が「地産地消」という購買行動に与える影響、第48回東北農業経済学会宮城大会報告要旨、52
- (2) 金紅蘭・藤科智海・小沢互（2012）：中国延辺地域における専業農業の現状と課題－図們市Y鎮を事例として－、第48回東北農業経済学会宮城大会報告要旨、69
- (3) 金紅蘭・藤科智海・小沢互（2012）：中国延辺地域における農地流動化の実態と課題－図們市Y鎮のM村とQ村を事例として－、平成24年度日本農業経営学会研究大会報告要旨、192-193

保木本利行

1-① 論文

- (1) 保木本利行（2013）：特集 過疎の“幸せ” 第2部集落再生のいま いまどきの女子大生と庄内柿が会ったら？山形県酒田市、農業と経済、2013年1・2月号、93-96

食品・応用生命科学コース

三橋 渉

1-① 論文

- (1) Y. Sawada, A. Umetsu, Y. Komatsu, J. Kitamura, H. Suzuki, T. Asami, M. Fukuda, I. Honda, W. Mitsuhashi, M. Nakajima, and T. Toyomasu (2012) An unusual spliced variant of DELLA protein, a negative regulator of gibberellin signaling, in lettuce. *Bioscience Biotechnology and Biochemistry*, 76, 544-550.
- (2) Y. Wu, K. Zhou, T. Toyomasu, C. Sugawara, M. Oku, S. Abe, M. Usui, W. Mitsuhashi, M. Chono, P. M. Chandler, R. J. Peters (2012) Functional characterization of wheat copalyl diphosphate synthases sheds light on the early evolution of labdane-related diterpenoid metabolism in the cereals. *Phytochemistry*, 84, 40-46.
- (3) K. Zhou, M. Xu, M. Tiernan, Q. Xie, T. Toyomasu, C. Sugawara, M. Oku, M. Usui, W. Mitsuhashi, M. Chono, P. M. Chandler, R. J. Peters. (2012) Functional characterization of wheat ent-kaurene(-like) synthases indicates continuing evolution of labdane-related diterpenoid metabolism in the cereals. *Phytochemistry*, 84, 47-55.

1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 佐藤智美、後藤麻子、南栄一、長谷川守文、岡田憲典、山根久和、三橋渉、豊増知伸 (2012) 植物の生長調節、44、Supplement、41.
- (2) 菅井佳宣、嶋根真奈美、千葉康隆、三橋渉、夏目雅裕、豊増知伸、川出 洋 (2012) 植物の生長調節、44、Supplement、42
- (3) 松田詩織、小松由貴、梅津麻実、深澤壽太郎、山口信次郎、南原英司、神谷勇治、三橋渉、加藤修雄、豊増知伸 (2012) 植物の生長調節、44、Supplement、43
- (4) 千葉光浩、深澤壽太郎、三橋渉、加藤修雄、豊増知伸 (2012) 植物の生長調節、44、Supplement、44

小関 卓也

1-① 著書

- (1) 小関卓也 (分担執筆), 基礎栄養学, 駒井三千夫・正木恭介編著, アイ・ケイコーポレーション, pp138-145 (2013)

1-② 論文

- (1) 小関卓也, 堀茜, 見原好治, 河本かずさ, 伏信進矢, 小宮大, 鈴木健太郎, 祥雲弘文, 若木高善, 村山哲也, 塩野義人, 麹菌由来のフェルラ酸エステラーゼについて, 応用糖質科学, 2(2), 111-116 (2012)
- (2) Shiono, Y., Hayasaka, S., Koseki, T., Murayama, T., Uesugi, S., Kimura, K., A Polyketide metabolite from the Fungicolous *Nodulisporium* sp. SH-1. *Phytochemistry Letters*, 5, 549-552 (2012).

- (3) Shiono, Y., Hatakeyama, T., Murayama, T., Koseki, T., Polyketide Metabolites from the Endophytic Fungus *Microdiplodia* sp. KS 75-1. *Natural Product Communication*, 7, 1065-1068 (2012).
- (4) Shiono, Y., Kosukegawa, A., Koseki, T., Murayama, T., Kwon, E., Uesugi, S., Kimura, K., A dimeric pyrrocidine from *Neonectria ramulariae* is an inhibitor of prolyl oligopeptidase. *Phytochemistry Letters*, 5, 91-95 (2012).

1-③ 学会発表 (国内学会)

- (1) 白川仁, Ardiansyah, 小関卓也, 駒井三千夫 (2012): 生活習慣病予防効果を示す米糠由来成分の検索: アデノシン、トリプトファンの機能性, 第66回日本栄養・食糧学会大会シンポジウム, p48, 仙台 (5月)
- (2) 河本かずさ、鈴木健太郎、伏信進矢、若木高善、塩野義人、小関卓也 (2012): *Aspergillus oryzae*由来フェルラ酸エステラーゼの触媒残基近傍に隣接するジスルフィド結合の役割および基質認識に関わるアミノ酸残基の解析, 日本応用糖質科学会東北支部講演会, 秋田 (7月)
- (3) 小関卓也、水野聖之、籠橋麻美、塩野義人 (2012): *Aspergillus oryzae*のタンナーゼについて, 食品酵素化学研究会第12回学術講演会, 盛岡 (8月)
- (4) 水野聖之、籠橋麻美、塩野義人、小関卓也 (2012): *Aspergillus oryzae*由来タンナーゼの基質特異性, 日本農芸化学会東北支部第147回大会, 弘前 (10月)
- (5) 渋谷史明、小関卓也、村山哲也、塩野義人 (2012): マングローブ林より分離した糸状菌が生産する塩濃度依存性物質について, 日本農芸化学会東北支部第147回大会, 弘前 (10月)
- (6) 芳賀真倫、小山浩正、小関卓也、村山哲也、塩野義人 (2012): 食用キノコにおけるナラ枯れ病菌に対する生育阻害物質について, 日本農芸化学会東北支部第147回大会, 弘前 (10月)
- (7) 白川仁, Ardiansyah, 小関卓也, 駒井三千夫 (2012): 米糠由来物質の抗メタボリックシンドローム作用, 第46回日本栄養・食糧学会東北支部公開シンポジウム, 鶴岡 (11月)
- (8) 水野聖之、塩野義人、小関卓也 (2013): *Aspergillus oryzae*由来タンナーゼの特性解析, 日本農芸化学会2013年度大会, 仙台 (3月)
- (9) 河本かずさ、鈴木健太郎、伏信進矢、塩野義人、小関卓也 (2013): *Aspergillus oryzae*フェルラ酸エステラーゼBのリッドドメインの機能解析, 日本農芸化学会2013年度大会, 仙台 (3月)
- (10) 芳賀真倫、小関卓也、村山哲也、小山浩正、塩野義人 (2013): ブナシメジ培養菌糸体由来ナラ枯れ病原菌に対する生育阻害物質について, 日本農芸化学会2013年度大会, 仙台 (3月)
- (11) 渋谷史明、小関卓也、村山哲也、塩野義人 (2013): マングローブ林分離糸状菌が塩添加培養により生産する物質について, 日本農芸化学会2013年度大会, 仙台 (3月)

1-④ その他の研究活動

- (1) 小関卓也 (分担執筆): Branch Spirit 「山形大学農学部食料生命環境学科-地域連携と研究分野の紹介-」, 生物工学会誌, 90, 799 (2012).

佐藤英世

1-① 著書

- (1) 佐藤英世 (2012) シスチン・グルタミン酸トランスポーター(xc-系): 細胞へのシスチン取り込みを介した酸化ストレス防御機構と新たな展開 *化学と生物* 50, 316-318.

1-② 論文

- (1) Lewerenz, J., Sato, H., Albrecht, P., Henke, N., Noack, R., Methner, A., and Maher, P. (2012) Mutation of ATF4 mediates resistance of neuronal cell lines against oxidative stress by inducing xCT expression. *Cell Death & Differentiation* 19: 847-858.
- (2) Kobayashi, S., Kuwata, K., Sugimoto, T., Igarashi, K., Osaki, M., Okada, F., Fujii, J., Bannai, S., and Sato, H.* (2012) Enhanced expression of cystine/glutamate transporter in the lung caused by the oxidative stress-inducing agent paraquat. *Free Radical Biology and Medicine* 53: 2197-2203.

1-③ 学会発表 (国内学会)

- (1) 小林翔、笠越隆幸、筒井拓己、安住宗一郎、岡田朋未、曾我朋義、坂内四郎、佐藤英世 (2012年12月15日) シスタチオニンはシスチン・グルタミン酸交換輸送系(xc-系)によって輸送される生理的基質である 第85回日本生化学会大会
- (2) Sato, H. (6-7, Apr, 2012) Cystine/glutamate antiporter: Light and shadow under physiological and pathophysiological conditions. UK-Japan Research Symposium つくば (招待講演)

1-④ 学会発表 (国外学会)

- (1) Kobayashi, S., Sambe, Y., Tsutsui, T., Bannai, S., and Sato, H. (Sep 2012) Role of cystine/glutamate transporter, System xc⁻, on NO release from macrophages. 16th Society for Free Radical Research International Meeting. U. K.
- (2) Sasaki-Fukatsu, K., Sato, H., Bannai, S., and Makino, N. (Sep 2012) Involvement of glycosylated glutathione in glucose-induced suppression of antioxidant activity in endothelial cells. 16th Society for Free Radical Research International Meeting. U. K..

豊増知伸

1-① 論文

- (1) Noike, M., Ono, Y., Araki, Y., Tanio, R., Higuchi, Y., Nitta, H., Hamano, Y., Toyomasu, T., Sassa, T., Kato, N., and Dairi, T. (2012): Molecular breeding of a fungus producing a precursor diterpene suitable for semi-synthesis by dissection of the biosynthetic machinery. *PLOS ONE*, 7: e42090.
- (2) Tawaraya, K., Shiozawa, S., Ueda, K., Murayama, H., Nishizawa, T., Toyomasu, T., Murayama, T., Sato, S., Wagatsuma, T., and Yasuda, H. (2012): Leaf herbivory by *Spodoptera litura* increases arbuscular mycorrhizal colonization in roots of soybean. *Soil Sci. Plant Nutr.*, 58: 445-449.
- (3) Wu, Y., Zhou, K., Toyomasu, T., Sugawara C., Oku M., Abe S., Usui M., Mitsuhashi W., Chono M., Chandler P. M., and Peters, R. J. (2012): Functional characterization of wheat copalyl diphosphate synthases sheds light on the early evolution of labdane-related diterpenoid metabolism in the cereals. *Phytochemistry*, 84: 40-46.
- (4) Zhou, K., Xu, M., Tiernan, M., Xie, Q., Toyomasu, T., Sugawara, C., Oku, M., Usui, M., Mitsuhashi, W., Chono, M., Chandler, P. M., Peters, R. J. (2012): Functional characterization of wheat ent-kaurene(-like) synthases indicates continuing evolution of labdane-related diterpenoid metabolism in the cereals. *Phytochemistry*, 84: 47-55.
- (5) Ueda, K., Tawaraya, K., Murayama, H., Sato, S., Nishizawa, T., Toyomasu, T., Murayama, T., Shiozawa, S., and Yasuda, H. (2013): Effects of arbuscular mycorrhizal fungi on the abundance of foliar-feeding insects and their natural enemy. *Appl. Entomol. Zool.*, 48: 79-85.

永井 毅

1-① 著書

- (1) NAGAI, T., TANOUE, Y., KAI, N. and SUZUKI, N. 2012. Kamaboko proteins as potential source of bioactive substance. Kim, S.K. (ed.) : Marine Proteins and Peptides, Wiley-Blackwell, in press.
- (2) 永井 毅 2012. サケ肉の特徴と調理・加工による変化. 月刊「食生活」編 : 食生活. (株) カザン, 106(11), 26-31.

1-② 論文

- (1) NAGAI, T., SUZUKI, N., TANOUE, Y. and KAI, N. 2012. Collagen from tendon of Yezo sika deer (*Cervus nippon yesoensis*) as by-product. Food and Nutrition Sciences, 3 : 72-79.
- (2) NAGAI, T., INOUE, R., SUZUKI, N., TANOUE, Y. and KAI, N. 2012. Characterization of α -amylase from mandarin orange honey. Journal of Apicultural Research, 51 : 3-9.
- (3) NAGAI, T., TANOUE, Y., KAI, N. and SUZUKI, N. 2012. Functional property of honey from *Echium vulgare*. Food and Nutrition Sciences, 3 : 614-620.
- (4) NAGAI, T., TANOUE, Y., KAI, N. and SUZUKI, N. 2012. In vitro antioxidative activity and antihypertensive activity of soy sauce cake derived from the manufacturing of Japanese style fermented soy sauce. Food and Nutrition Sciences, 3 : 1118-1127.
- (5) KAI, N., TAKAHASHI, Y., TANOUE, Y., TANAKA, R., FUKUSHIMA, H., MAEDA, T., FUKUDA, Y. and NAGAI, T. 2012. The behavior of selenium and mercury in cultured fish-VII-The influence of the fasting upon the mercury and selenium distribution. Studies in Science and Technology, 1 : 103-105.
- (6) TANOUE, Y., KAI, N., NAGAI, T. and USHIO, K. 2012. Cycloadducts of furan with arynes generated from 2-bromo- and 2,6-dibromo-1,4,5,8-tetramethoxynaphthalens. Journal of Heterocyclic Chemistry, in press.
- (7) NAGAI, T., SUZUKI, N., KAI, N. and TANOUE, Y. 2012. Functional properties of autolysate and enzymatic hydrolysate from yam tsukuneimo (*Dioscorea opposita* Thunb.) tuber mucilage tororo. Journal of Food Science and Technology, online first, 10.1007/s13197-012-0910-x.
- (8) TANOUE, Y., KAI, N., NAGAI, T. and USHIO, K. 2012. Reaction of some indoles with 1,4-naphthoquinones in the presence of Pd(OAc)₂. Journal of Heterocyclic Chemistry, in press.

1-③ その他の研究活動

- (1) 永井 毅 (2013) : 「庄内産四季成り性イチゴ品種サマーティアラを活用したジャムの開発」, 庄内日報2013年2月22日
- (2) 永井 毅 (2013) : 「サマーティアラジャムについて」, 読売新聞2013年2月23日
- (3) 永井 毅 (2013) : 「新品种ジャムの開発商品化」, 山形新聞2013年2月23日
- (4) 永井 毅 (2013) : 「オピニオン 豊富な水産物をPR」, 山形新聞2013年3月29日

木村直子

1-① 著書

- (1) Junichi Fujii, Satoshi Tsunoda, and Naoko Kimura. Antithetical Roles of Reactive Oxygen Species in Mammalian Reproduction. In Handbook of System Biology of Free Radicals and Anti-oxidants. (I. Larher ed), Springer-Verlag, Germany, in press.

1-② 論文

- (1) Tsunoda S, Kawano N, Miyado K, Kimura N, Fujii J. Impaired fertilizing ability of Sod1-deficient mouse sperm during in-vitro fertilization. *Biology of Reproduction*, 2012, 87; 1-6.
- (2) Satoshi Tsunoda, Naoko Kimura and Junichi Fujii. Oxidative stress and redox regulation of gametogenesis, fertilization, and embryonic development. *Reproductive Medicine and Biology* in press.

1-③ 学会発表 (国内学会)

- (1) 名古 満, 佐藤 康子, 角田 智志, 藤井 順逸, 木村 直子. マウス卵成熟過程でのSOD1欠損による受精障害の解析. 第30回日本受精着床学会総会・学術講演会抄録集, p253. 2012年8月30日～2012年9月2日. 大阪国際会議場(大阪市)
- (2) 角田智志, 木村直子, 藤井順逸. 内在性酸化ストレス蓄積によるマウス2細胞期発生停止へのCDKインヒビターの関与の可能性. 第52回日本哺乳動物卵子学会大会要旨集S86. 2011年5月21～22日, 国際医療福祉大学(栃木県大田原市).
- (3) 星野 由貴, 樋口 謙太, 梅田 彩, 高橋 素子, 宮田 哲, 吉田 康一, 藤井 順逸, 木村 直子. マウス卵初期発生過程におけるアスコルビン酸(VC)含量とVC合成系・取込み系遺伝子の発現. 第105回日本繁殖生物学会大会要旨集, j186. 2012年9月5日～2012年9月8日. 筑波大学大会館(つくば市).
- (4) 木村 直子. 抗酸化機能欠損マウスを利用した卵子の酸化ストレスと老化の研究. 日本受精着床学会第9回ART生涯研修. 2013年3月10日. ベルサール九段イベントホール(東京都). (招待講演)

1-④ 学会発表 (国外学会)

- (1) Takano T, Kubota Y, Sato H, Kimura N. Glutathione contents and expressions of cystine-glutamate transporter and glutathione synthesis related genes in mouse oocytes and early developmental embryos. ASPIRE 2012, 4th Congress of the Asia Pacific Initiative on Reproduction, Final Program, p56. 2012年8月31日～2012年9月2日. Osaka International Convention Center (大阪市).

1-⑤ その他の研究活動

- (1) 動物生殖科学特別セミナーにてレクチャー: 東北大学大学院農学研究科部動物生殖科学分野(2012年5月15日実施) 「抗酸化機能欠損マウスを利用した卵子の酸化ストレスとアンチエイジングの研究」.(招待講演)

塩野義人

1-① 論文

- (1) Shiono, Y., Hayasaka, S., Koseki, T., Murayama, T., Uesugi, S., Kimura, K. 2012 (平成 24)年 A Polyketide metabolite from the Fungicolous *Nodulisporium* sp. SH-1. *Phytochemistry letters*, (2012), 5, 549-552.

- (2) Poumale, H.M., Awoussong, K.P., Randrianasolo, R., Simo, C.C., Ngadjui, B.T., Shiono, Y. 2012 (平成 24)年 Long-chain alkanolic acid esters of lupeol from *Dorstenia harmsiana* Engl. (Moraceae). *Natural Products Research*. 26, 749-755.
- (3) Shiono, Y., Hatakeyama, T., Murayama, T., Koseki, T. 2012 (平成24)年 Polyketide Metabolites from the Endophytic Fungus *Microdiplodia* sp. KS 75-1. *Natural Product Communication*, 7, 1065-1068.
- (4) Shiono, Y., Kosukegawa, A., Koseki, T., Murayama, T., Kwon, E., Uesugi, S., Kimura, K. 2012 (平成24)年 A dimeric pyrrocidine from *Neonectria ramulariae* is an inhibitor of prolyl oligopeptidase. *Phytochemistry letters*, 5, 91-95.
- (5) 小関卓也, 堀茜, 見原好治, 河本かずさ, 伏信進矢, 小宮大, 鈴木健太郎, 祥雲弘文, 若木高善, 村山哲也, 塩野義人, 麹菌由来のフェルラ酸エステラーゼについて, *応用糖質科学*, 2(2), 111-116 (2012)

1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 芳賀真倫, 小関卓也, 村山哲也, 小山浩正, 塩野義人 (2012) 食用キノコに含まれるナラ枯れ病原菌に対する生育阻害活性物質について第 1 4 7 回日本農芸化学会東北支部会, 弘前 (10月)
- (2) 渋谷史明, 小関卓也, 村山哲也, 塩野義人 (2012), マングローブ林より分離した糸状菌が生産する塩濃度依存性物質について, 第 1 4 7 回日本農芸化学会東北支部会, 弘前 (10月)
- (3) 水野聖之, 籠橋麻美, 塩野義人, 小関卓也 (2012) *Aspergillus oryzae*由来タンナーゼの基質特異性, 第 1 4 7 回日本農芸化学会東北支部会, 弘前 (10月)
- (4) 芳賀真倫, 小関卓也, 村山哲也, 小山浩正, 塩野義人 (2013), ブナシメジに含まれるナラ枯れ病原菌に対する生育阻害活性物質について, 日本農芸化学会 2013 年度大会, 仙台, 2013 年 3 月
- (5) 渋谷史明, 小関卓也, 村山哲也, 塩野義人 (2013), マングローブ林由来糸状菌における塩濃度依存性物質について, 日本農芸化学会 2013 年度大会, 仙台, 2013 年 3 月
- (6) 河本かずさ, 鈴木健太郎, 伏信進矢, 若木高善, 塩野義人, 小関卓也 (2012): *Aspergillus oryzae*由来フェルラ酸エステラーゼの触媒残基近傍に隣接するジスルフィド結合の役割および基質認識に関わるアミノ酸残基の解析, 日本応用糖質科学会東北支部講演会, 秋田 (7月)
- (7) 小関卓也, 水野聖之, 籠橋麻美, 塩野義人 (2012): *Aspergillus oryzae*のタンナーゼについて, 食品酵素化学研究会第12回学術講演会, 盛岡 (8月)
- (8) 水野聖之, 塩野義人, 小関卓也 (2013): *Aspergillus oryzae*由来タンナーゼの特性解析, 日本農芸化学会2013年度大会, 仙台 (3月)
- (9) 河本かずさ, 鈴木健太郎, 伏信進矢, 塩野義人, 小関卓也 (2013): *Aspergillus oryzae*フェルラ酸エステラーゼBのリッドドメインの機能解析, 日本農芸化学会2013年度大会, 仙台 (3月)
- (10) 上杉 祥太, 室井 誠, 近藤 恭光, 塩野 義人, 長田 裕之, 木村 賢一 (2013), Pyrrocidine Aによるミトコンドリアを介したアポトーシス誘導機構, 日本農芸化学会 2013 年度大会, 仙台, 2013 年 3月

1-③ 学会発表 (国外学会)

- (1) Shiono, Y. (2012), Studies of salt concentration induced-compounds produced by mangrove endophytes, The 20th National Symposium of Natural Product Chemistry 2012, 2012 年10月, ジャカルタ、インドネシア (招待講演)

加来伸夫

1-① 著書

- (1) 加来伸夫, 上木厚子 (印刷中) 嫌気性微生物, 土壤微生物学会編, 改訂新編土壤微生物実験法, 養賢堂, 72-77 (嫌気性真菌の部分は除く)

1-② 論文

- (1) S. Mowlick, A. Ueki, K. Hirota., T. Takehara, N. Kaku and K. Ueki (2012) Development of anaerobic bacterial community consisted of diverse clostridial species during biological soil disinfestation amended with plant biomass. *Soil Science and Plant Nutrition*, 58(3): 273-287
- (2) A. Ueki, Y. Ohtaki, N. Kaku, K. Watanabe and K. Ueki (2013) *Anaerocella delicata* gen. nov., sp. nov., a strictly anaerobic bacterium in the phylum Bacteroidetes isolated from a methanogenic reactor of cattle farms. *Journal of General and Applied Microbiology*, 58(6): 405-412
- (3) 加来伸夫, 及川はるか, 鈴木志津香, 太田恵理子, 上木厚子, 上木勝司 (2013) バイオディーゼル燃料製造廃水のメタン発酵に対する微生物接種源、基質濃度および無機塩類の影響. *山形大学紀要(農学)*, 16巻4号: 241-248
- (4) M. Watanabe, M. Makino, N. Kaku, M. Koyama, K. Nakamura and K. Sasano (2013) Fermentative L-(+)-lactic acid production from non-sterilized rice washing drainage containing rice bran by a newly isolated lactic acid bacteria without any addition of nutrient. *Journal of Bioscience and Bioengineering*, 115(4): 449-452
- (5) S. Mowlick, T. Takehara, N. Kaku, K. Ueki and A. Ueki (2013) Proliferation of diversified clostridial species during biological soil disinfestation incorporated with plant biomass under various conditions. *Applied Microbiology and Biotechnology*, Published online (DOI 10.1007/s00253-012-4532-z)

1-③ 学会発表 (国内学会)

- (1) 渡辺一哉、加来伸夫 (2012) 嫌気性界の微生物生態研究部会の紹介. 日本微生物生態学会26回大会 (豊橋) 講演要旨集, 187.
- (2) N. Matsumoto, N. Kaku, K. Ueki, A. Ueki and M. Watanabe (2012) Isolation and phylogenetic characterization of anaerobic bacteria producing psychrotrophic extracellular lipase, protease and amylase. The 28th Annual Meeting of the Japanese Society of Microbial Ecology PROGRAM & ABSTRACTS, 164.
- (3) S. Mowlick, U. Yanazume, T. Inoue, T. Takehara, N. Kaku and A. Ueki (2012) Changes in bacterial community structures in soil as affected by plant biomass incorporation under irrigated conditions to suppress plant pathogens. The 28th Annual Meeting of the Japanese Society of Microbial Ecology PROGRAM & ABSTRACTS, 140.
- (4) S. Mowlick, M. Megumi, K. Hirota, T. Takehara, N. Kaku, A. Ueki (2012) Diversification of clostridial populations during biological soil disinfestation and characteristics of clostridial isolates from the treated soil. 日本土壤微生物学会2012年度大会一般講演要旨 (土と微生物, 66(2)), 81.
- (5) 渡辺昌規、服部芽衣、牧野将浩、加来伸夫、佐々野和雄 (2013) 洗米排水から分離された高乳酸生成菌の乳酸生成機構. 日本農芸化学会2013年度大会プログラム集, 30.

1-③ 学会発表 (国外学会)

- (1) N. Kaku, N. Yonezawa, D. Takahashi, K. Watanabe, A. Ueki and K. Ueki (2012) Effects of sunlight irradiation on electricity output from a paddy-field microbial fuel cell. 14th International Symposium on Microbial Ecology, Copenhagen, Denmark.

渡辺昌規

1-① 論文

- (1) M. Watanabe*, M. Makino, N. Kaku, M. Koyama, K. Nakamura & K. Sasano (2013): Fermentative L-(+)-lactic acid production from non-sterilized rice washing drainage containing rice bran by a newly isolated lactic acid bacteria without any additions of nutrients, *Journal of Bioscience and Bioengineering*, 115, 449-452
- (2) M. Koyama, K. Naramoto, T. Nakajima, T. Aoyama, M. Watanabe & K. Nakamura* (2013): Purification and identification of anti-hypertensive peptides from fermented buckwheat sprouts, *Journal of Agricultural and Food Chemistry*, 61, 3013-3021

1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 渡辺 昌規 (2012) : 茹で麵排水成分への各種酵素剤添加による凝集・沈降性付与と静電的特性との関連, 第64回日本生物工学会大会講演要旨集 p224
- (2) 渡辺 昌規 (2013) : 洗米排水から分離された高乳酸生成菌の乳酸生成機構、日本農芸化学会2013年度大会要旨集 p116

1-③ その他の研究活動

- (1) 渡辺昌規, 油田の地位を狙う? 乳酸の新展開, *生物工学会誌*, 90巻, 655 (2012)
- (2) 小関卓也、渡辺昌規 (2012) : 「Branch spirit 北日本支部 山形大学農学部食糧生命環境学科-地域連携と研究分野-の紹介」, *日本生物工学会誌*2012年第12月号p779
- (3) 渡辺昌規, 澱粉含有排水処理と水資源リサイクル技術、NEXT WAVE 十勝の産業・経済の今とこれから、*帯広信用金庫*、94巻, p22 (2013)
- (4) 加来伸夫、及川はるか、鈴木志津香、太田恵理子、上木厚子、上木勝司、渡辺昌規 (2013) : バイオディーゼル燃料製造廃水のメタン発酵に対する微生物接種源、基質濃度および無機塩類の影響、*山形大学紀要(農学)* 第16巻p241-248

植物機能開発学コース

阿部利徳

1-① 論文

- (1) Takahashi, Y., Sasanuma T. and Abe T. (2013): Accumulation of gamma-aminobutyrate (GABA) caused by heat-drying and expression of related genes in immature vegetable soybean (edamame). *Breeding Science*, 63:205-210
- (2) Otake R., Sasanuma T. and Abe T. (2013): Effect of endogenous hydrolytic enzyme activities on glucose liberating in hot-water-treated grains in rice (*Oryza sativa* L.). *Food Science and Technology Research*, 19: in press.

1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 滝澤虎三郎・笹沼恒男・阿部利徳(2012): 米糠の質量分析計によるプロテオーム解析, 育種学研究, 14(別2), 82
- (2) 兵庫大樹・笹沼恒男・阿部利徳(2012): ササニシキ糯変異の誘導とGBSSの変異解析, 育種学研究, 14(別2), 139
- (3) 大竹利奈・笹沼恒男・阿部利徳(2012): 米の温水処理による各種酵素の発現解析, 育種学研究, 14(別2), 144
- (4) 榎 祐太郎・小田信博・笹沼恒男・阿部利徳(2012): エダマメの丸と皺形質と糖含量の関係, 育種学研究, 14(別2), 148
- (5) 阿部利徳・小田信博・小松恵理・笹沼恒男(2012): ダダチャマメの未熟粒および完熟粒における糖およびタンパク質の変動と品種間差異, 育種学研究, 14(別2), 150
- (6) 高橋由希子・笹沼恒男・阿部利徳(2012): エダマメのGABA含量を高める処理とGAD遺伝子の発現解析, 育種学研究, 14(別2), 149

1-③ 特許関係 (特許出願、種苗登録等)

- (1) エダマメ新種「アベチャ33」に関する品種登録完了

貫名学

1-① 学会発表 (国内学会)

- (1) 武山佳代、貫名 学、平成25年3月27日、*Bergenia ligulata*に含まれるDPPHラジカル消去活性成分について、日本農芸化学会2013年度大会講演要旨集、91.
- (2) 戸塚紘二郎、貫名 学、平成25年3月27日、ヤマブドウ種子中のDPPHラジカル消去活性成分について、日本農芸化学会2013年度大会講演要旨集、91.

村山哲也

1-① 論文

- (1) Shiono, Y., Hayasaka, S., Koseki, T., Murayama, T., Uesugi, S., Kimura, K. 2012 (平成24)年, A Polyketide metabolite from the Fungicolous *Nodulisporium* sp. SH-1, *Phytochemistry letters*, (2012), 5, 549-552.

- (2) Shiono, Y., Hatakeyama, T., Murayama, T., Koseki, T. 2012 (平成 24)年, Polyketide Metabolites from the Endophytic Fungus *Microdiplodia* sp. KS 75-1, *Natural Product Communication*, 7, 1065-1068.
- (3) Shiono, Y., Kosukegawa, A., Koseki, T., Murayama, T., Kwon, E., Uesugi, S., Kimura, K. 2012 (平成 24)年, A dimeric pyrrocidine from *Neonectria ramulariae* is an inhibitor of prolyl oligopeptidase. *Phytochemistry letters*, 5, 91-95.
- (4) Keitaro Tawaraya, Shinpei Shiozawa, Koji Ueda, Hideki Murayama, Takashi Nishizawa, Tomonobu Toyomasu, Tetsuya Murayama, Satoru Sato, Tadao Wagatsuma & Hironori Yasuda, 2012 (平成24) 年, Leaf herbivory by *Spodoptera litura* increases arbuscular mycorrhizal colonization in roots of soybean, *Soil Science and Plant Nutrition*, 58:4, 445-449
- (5) Koji Ueda, Keitaro Tawaraya, Hideki Murayama, Satoru Sato, Takashi Nishizawa, Tomonobu Toyomasu, Tetsuya Murayama, Shinpei Shiozawa, Hironori Yasuda, 2013 (平成 25) 年, Effects of arbuscular mycorrhizal fungi on the abundance of foliar-feeding insects and their natural enemy, *Appl Entomol Zool*, 48:79-85

1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 芳賀真倫、小関卓也、村山哲也、小山浩正、塩野義人 (2012) 食用キノコに含まれるナラ枯れ病原菌に対する生育阻害活性物質について第 147 回日本農芸化学会東北支部会, 弘前 (10月)
- (2) 渋谷史明、小関卓也、村山哲也、塩野義人 (2012), マングローブ林より分離した糸状菌が生産する塩濃度依存性物質について, 第 147 回日本農芸化学会東北支部会, 弘前 (10月)
- (3) 渋谷史明、小関卓也、村山哲也、塩野義人 (2013), マングローブ林由来糸状菌における塩濃度依存性物質について, 日本農芸化学会 2013 年度大会、仙台, 2013 年 3 月
- (4) 芳賀真倫、小関卓也、村山哲也、小山浩正、塩野義人 (2013), ブナシメジに含まれるナラ枯れ病原菌に対する生育阻害活性物質について, 日本農芸化学会 2013 年度大会、仙台, 2013 年 3 月

俵谷圭太郎

1-① 論文

- (1) Tawaraya, K., Hirose, R., and Wagatsuma, T. 2012. Inoculation of arbuscular mycorrhizal fungi can substantially reduce phosphate fertilizer application to *Allium fistulosum* L. and achieve marketable yield under field condition. *Biol Fert Soils*, 48, 839-843.
- (2) Tawaraya, K., Shiozawa, S., Ueda, K., Murayama, H., Nishizawa, T., Toyomasu, T., Murayama, T., Sato, S., Wagatsuma, T., and Yasuda, H. 2012. Leaf herbivory by *Spodoptera litura* increases arbuscular mycorrhizal colonization in roots of soybean. *Soil Science and Plant Nutrition*, 58, 445-449.
- (3) Deguchi, S., Uozumi, S., Touno, E., Kaneko, M., and Tawaraya, K. 2012. Arbuscular mycorrhizal colonization increases phosphorus uptake and growth of corn in a white clover living mulch system. *Soil Science and Plant Nutrition*, 58, 169-172.
- (4) Ueda, K., Tawaraya, K., Murayama, H., Sato, S., Nishizawa, T., Toyomasu, T., Murayama, T., Shiozawa, S., and Yasuda, H. 2013. Effects of arbuscular mycorrhizal fungi on the abundance of foliar-feeding insects and their natural enemy. *Appl Entomol Zool*, 48, 79-85.

1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) Wulandari, D Cheng W., Tawaraya K. (2012) Screening of indigenous arbuscular mycorrhizal fungi isolated from post coal mining site in Kalimantan, Indonesia. 菌根研究会
- (2) 佐藤匠松田健一郎・江澤辰広程為国・俵谷圭太郎 (2012) 菌根形成した植物の根圏における酸性ホスファターゼ活性の検出菌根研究会.
- (3) Wulandari, D Cheng W., Tawaraya K. (2012) Screening of indigenous arbuscular mycorrhizal fungi isolated from post coal mining site in Kalimantan, Indonesia. 菌根研究会

1-③ 学会発表 (国際学会)

- (1) Tawaraya, K. Hirose, R Won J. and Wagatsuma T. (2012) Mutualism and parasitism between *Allium fistulosum* and arbuscular mycorrhizal fungi. 7 th International conference of Mycorrhiza. India
- (2) Maman Turjaman, M. Santoso, E. Prematuri, R. Osaki, M. Tamai, Y. Tawaraya, K. (2012) BIO-REFORESTATION: MYCORRHIZAL FUNGI PROMOTED PLANT GROWTH IN DEGRADED TROPICAL PEAT SWAMP FORESTS AND POST MINING LANDS 7 th International conference of Mycorrhiza. India
- (3) Wulandari D, Cheng W, Saridi, Herika D, Tawaraya K. (2012) Arbuscular mycorrhizal colonization enhanced early growth of *Samanea saman* and *Mallotus paniculatus* under nursery condition in East Kalimantan, Indonesia 7 th International conference of Mycorrhiza. India
- (4) Sato T, Matsuda K, Ezawa T, Cheng W, Tawaraya K (2012) Detection of acid phosphatase activity in the rhizosphere of arbuscular mycorrhizal plant. 7 th International conference of Mycorrhiza. India
- (5) Sakata A・Usui E・Cheng W・Tawaraya K. (2012) Hyphal-mediated nitrogen transfer between *Medicago sativa* and *Allium fistulosum* or *Dactylis glomerata* by arbuscular mycorrhizal hyphal networks.. 7 th International conference of Mycorrhiza. India

村山秀樹

1-① 論文

- (1) K. Tawaraya, S. Shiozawa, K. Ueda, H. Murayama, T. Nishizawa, T. Toyomasu, T. Murayama, S. Sato, T. Wagatsuma and H. Yasuda (2012) Leaf herbivory by *Spodoptera litura* increases arbuscular mycorrhizal colonization in roots of soybean *Soil Science and Plant Nutrition*, 58, 445-449.
- (2) K. Ueda, K. Tawaraya, H. Murayama, S. Sato, T. Nishizawa, T. Toyomasu, T. Murayama, S. Shiozawa, H. Yasuda (2013) Effects of arbuscular mycorrhizal fungi on the abundance of foliar-feeding insects and their natural enemy. *Applied Entomology and Zoology*, 48, 79-85.

1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 村山秀樹・知野秀次・児島清秀 (2012) : フィルム包装を利用したセイヨウナシ ‘ラ・フランス’ 果実の長期貯蔵に関する研究, 日本食品保蔵科学会第61回大会講演要旨集,
- (2) 小飯塚紗季・板井章浩・斉藤和季・及川 彰・村山秀樹 (2012) : セイヨウナシ ‘ミクルマス・ネリス’ 果実における樹上成熟と追熟の相違について, 園芸学研究, 11別2,
- (3) 大塚貴生・中林 亮・軸丸裕介・高品 善・五十鈴川寛司・村山秀樹 (2012) : セイヨウナシ ‘ラ・フランス’ 果実における統合オミクス解析の試み, 園芸学研究, 11別2,
- (4) 及川 彰・大塚貴生・中林 亮・軸丸裕介・高品 善・五十鈴川寛司・村山秀樹・斉藤和季・白武勝裕 (2012) : セイヨウナシ ‘ラ・フランス’ 果実の開花期から追熟後における代謝物の経時変化, 園芸学研究, 11別2,

- (5) 板井章浩・田中誠之・森下恭行・児玉克也・西谷千佳子・矢野加奈子・清水徳朗・山本俊哉・羽生剛・村山秀樹 (2012) : マイクロアレイ解析によるGA 誘導性ナシ単為結果関連遺伝子の探索, 園芸学研究、11別2,
- (6) 後藤賢子・神田啓臣・栗原正人・坂本政臣・村山秀樹 (2012) : 銀ナノ微粒子の抗菌性を利用したオーニソガラム切り花の品質保持に関する研究. 園芸学会東北支部
- (7) 及川 彰・大塚貴生・中林 亮・軸丸裕介・高品 善・五十鈴川寛司・村山秀樹・斉藤和季・白武勝裕 (2012) : セイヨウナシ果実の成長および追熟による代謝物変動. メタボロームシンポジウム
- (8) 大塚貴生・中林 亮・軸丸裕介・高品 善・五十鈴川寛司・村山秀樹・斉藤和季・奈島賢児・白武勝裕・及川 彰 (2012) : セイヨウナシ‘ラ・フランス’果実における統合オミクス解析の試み. メタボロームシンポジウム
- (9) 及川 彰・大塚貴生・中林 亮・軸丸裕介・高品 善・五十鈴川寛司・村山秀樹・斉藤和季・白武勝裕 (2012) : セイヨウナシ果実成長および追熟中の植物ホルモンの濃度変動. 植物化学調節学会
- (10) 板井章浩・田中誠之・森下恭行・児玉克也・西谷千佳子・矢野加奈子・清水徳朗・山本俊哉・羽生 剛・斉藤和季・及川 彰・村山秀樹 (2012) : 植物成長調節剤がナシ果実の単為結果に及ぼす影響と単為結果関連遺伝子の探索. 植物化学調節学会
- (11) 五十鈴川寛司・花田俊男・齋藤裕太郎・黒坂 俊・高品善・奈島賢児・加藤茉莉・森本玲奈・大塚貴生・中林 亮・軸丸裕介・鈴木 実・及川 彰・村山秀樹・西谷千佳子・清水徳朗・山本俊哉・板井章浩・高橋宏和・中園幹生・深尾陽一朗・尾形善之・森仁志・白武勝裕 (2012) : 果樹研究におけるイノベーション創出を目指した「大果変異セイヨウナシプロジェクト」果樹バイテク研究会
- (12) 村山秀樹・鈴木恵里子・板井章浩・及川 彰 (2013) : セイヨウナシ‘ラ・フランス’果実における収穫後のデンプンの消失に関する研究. 園芸学研究、12別1,
- (13) 後藤賢子・栗原正人・坂本正臣・池田和生・及川 彰・村山秀樹 (2013) : 銀ナノ微粒子および温度条件がケイオウザクラ切り枝の花の品質におよぼす影響. 園芸学研究、12別1,
- (14) 森下恭行・田中誠之・児玉克也・西谷千佳子・山本俊哉・羽生剛・村山秀樹・板井章浩 (2013) : ナシ果実の着果および成長に伴う植物ホルモン関連遺伝子の発現解析. 園芸学研究、12別1,

1-③ 学会発表 (国際学会)

- (1) Hideki Murayama, Takako Goto, Masato Kurihara and Masatomi Sakamoto (2011) Studies on vase life of woody ornamental cherry (*Prunus x subhirtella* cv. Keiou-zakua) using flower vessels coated with silver nanoparticles. 2nd ISHS Symposium on Woody Ornamentals of the Temperate Zone. G h e n t , B e l g i u m

江頭宏昌

1-① 著書

- (1) 江頭宏昌 (2012) 焼畑を科学する、「火と食」、ドメス出版

1-② 論文

- (1) M. Maebashi, M. Natsuga, H. Egashira, N. Ura, M. Katahira (2012): Estimation of the flavor of green soybean during storage from single pod measurements using dedicated near-infrared transmission spectrometer. *Journal of Biosystems Engineering* 37(6), 398-403.
- (2) 西沢 隆・島村景子・江頭宏昌・保木本利行 (2013) 山形県内に残る在来ダイコンの調査およびそれらの生理・生態的特徴. *人間植物関係学会誌*, 12(2)、13-19.

1-③ 学会発表（国内学会）

- (1) 江頭宏昌(2012)：日本におけるエダマメの食文化、エダマメ研究会、2012年10月12日
- (2) 江頭宏昌(2012)：山形県庄内地方の地理的条件と伝統作物、ジオ多様性研究会、2012年12月25日
- (3) 江頭宏昌(2012)：庄内北部地域の在来作物の種類と特性—鳥海うるいの可能性を含めて、山形大学農学部地域連携フォーラム2013in遊佐町「庄内北部地域の在来作物と地域農産物の魅力を探る」、2013年3月9日

1-④ その他の研究活動

- (1) 江頭宏昌(2012)：「復活！！伝統野菜」山形編1-3連載、全国農業新聞新聞2012年4月20日～2012年6月22日
- (2) 江頭宏昌(2012)：庄内の在来野菜連載、松柏、2012年5月15日、9月16日
- (3) 江頭宏昌(2012)：まちづくり むらづくり ドットコム、連載 地域再生への助走、『生きた文化財』守る活動に地域らしさのシンボル目指す、日本政策金融公庫広報誌AFCフォーラム7月号
- (4) 江頭宏昌(2012)：庄内・山形のお米を食べて未来につなごう、「たんぼの味」(2012年9月20日発刊)
- (5) 江頭宏昌(2012)：在来作物と地域の活性化、SEED Vol.10、4-5.
- (6) 江頭宏昌(2012)：山形県の在来作物情報1(置賜編)、SEED Vol.10、27-29.

程為国

1-① 論文

- (1) Tokida, T., Cheng, W., Adachi, M., Matsunami, T., Nakamura, H., Okada, M., Hasegawa, T. (2013) The contribution of entrapped gas bubbles to the soil methane pool and their role in methane emission from rice paddy soil in free-air [CO₂] enrichment and soil warming experiments. *Plant and Soil*, 364. 131-143.
- (2) Zhu, C., Cheng, W., Sakai, H., Oikawa, S., Laza, R.C., Usui, Y., Hasegawa, T. (2013) Effects of elevated [CO₂] on stem and root lodging among rice cultivars. *Chinese Sciences Bulletin*, doi: 10.1007/s11434-012-5640-y (online).

1-② 学会発表（国内学会）

- (1) 堀之内翼・程 為国・布山美恵・矢野真二・熊谷勝巳・須藤重人・俵谷圭太郎：野菜栽培圃場における土壌硝化活性に及ぼす有機質資材の影響、日本土壌肥料学会2012年大会、鳥取、講演要旨集 第58集、p.188、(2012年9月)
- (2) 劉 田・岡本有加・佐藤秀平・笠原勝也・湯 水栄・服部 聡・林田光祐・俵谷圭太郎・程 為国：湿地化した放棄水田と継続水田における土壌炭素分解能の比較、日本土壌肥料学会2012年大会、鳥取、講演要旨集 第58集、p.190、(2012年9月)
- (3) 程 為国・陽 捷行：中国の古代土壌学(3) 三国時代：孔明治蜀と四川土壌、日本土壌肥料学会2012年大会、鳥取、講演要旨集 第58集、p.196、(2012年9月)

1-③ 学会発表（国際学会）

- (1) Shuirong Tang, Weiguo Cheng, Minehiko Fukuoka, Mayumi Yoshimoto, Hidemitsu Sakai, Takeshi Tokida, Keitaro Tawaraya, Toshihiro Hasegawa (2012) Dynamics of soil carbon and nitrogen influenced by elevated temperature in a Japanese rice paddy field. World Crop FACE Workshop 2012. July 9-12, 2012, Tsukuba, Japan
- (2) Weiguo Cheng (2012) Organic rice production by applying Azolla and loach. 2nd international workshop on Sustainable rice production. September 14-15, 2012, Tsuruoka, Japan
- (3) W. Cheng, Y. Okamoto, H. Kikuchi, S. Kobayashi, A. Kajihara, K. Tawaraya, and T. Wagatsuma (2012) Determining the amounts of organic carbon from root exudates among 8 kinds of rice cultivars by hydroponics at pH 5.2. The 8th international symposium on plant soil interactions at low pH. October 18-22, 2012, Bengaluru, India

笹沼恒男

1-① 論文

- (1) T. Sasanuma, S. Watanabe, T. Abe, D. Sehgal, T. Sasakuma, S. N. Raina (2012) : Reconsideration of phylogenetic relationship of genus *Carthamus* based on the nuclear SACP gene and chloroplast trnF-trnL IGS region. *Journal of Oilseeds Research*, 29. 6-9
- (2) Takahashi, Y., T. Sasanuma and T. Abe, Y. Takahashi, T. Sasanuma, T. Abe (2013) : Accumulation of gamma-aminobutyrate (GABA) caused by heat-drying and expression of related genes in immature vegetable soybean (edamame). *Breeding Science*, in press

1-③ 学会発表 (国内学会)

- (1) 工藤瑛司、阿部利徳、笹沼恒男 (2012年8月20日) : チモフェービ系コムギにおける栽培化関連遺伝子Qの多様性解析、第7回東北育種研究集会
- (2) 鶴巻啓一、阿部利徳、笹沼恒男 (2012年8月20日) : トウガラシ辛味関連遺伝子Catf-1の遺伝的変異、第7回東北育種研究集会
- (3) 柿崎彩佳、阿部利徳、河原太八、Smekalova Tamara N.、佐藤和広、笹沼恒男 (2012年8月20日) : 北コーカサスで採集されたタルホコムギの遺伝的特徴の解明、第7回東北育種研究集会
- (4) 兵庫大樹、鈴木隆由輝、笹沼恒男、阿部利徳 (2012年9月14日) : ササニシキのソマクローナル糯変異の誘導とGBSSの変異解析、日本育種学会第122回講演会
- (5) 滝澤虎三郎、笹沼恒男、阿部利徳 (2012年9月14日) : 米糠の質量分析計によるプロテオーム解析、日本育種学会第122回講演会
- (6) 大竹利奈、笹沼恒男、阿部利徳 (2012年9月14日) : 米の温水処理による各種酵素の発現解析、日本育種学会第122回講演会
- (7) 榎裕太郎、小田信博、笹沼恒男、阿部利徳 (2012年9月15日) : エダマメの丸と皺形質と糖含量の関係、日本育種学会第122回講演会
- (8) 高橋由希子、笹沼恒男、阿部利徳 (2012年9月15日) : エダマメのGABA含量を高める処理とGAD遺伝子の発現解析、日本育種学会第122回講演会
- (9) 阿部利徳、小田信博、小松恵里、笹沼恒男 (2012年9月15日) : ダダチャマメの未熟粒および完熟粒における糖およびタンパク質の変動と品種間差異、日本育種学会第122回講演会
- (10) 笹沼恒男、飯塚拓也、遠藤麻美、阿部利徳 (2012年9月15日) : キク科共通マーカーを用いたベニバナ属の系統解析、日本育種学会第122回講演会
- (11) 稲葉有紀、阿部利徳、笹沼恒男 (2012年9月15日) : カラーピーマンにおける果実色関連遺伝子の変異解析、日本育種学会第122回講演会
- (12) 高橋優利佳、和田慶子、阿部利徳、笹沼恒男 (2012年9月15日) : アジアのベニバナ遺伝資源の主要形態形質に関する多様性評価、日本育種学会第122回講演会

- (13) 高橋由希子、笹沼恒男、阿部利徳（2012年11月11日）：エダマメのGABA含量を高める処理と合成に関わる各酵素遺伝子の発現解析、第33回種子生理生化学研究会年会
- (14) 笹沼恒男、柿崎彩佳、阿部利徳、河原太八、Smekalova Tamara N.、佐藤和広（2013年3月28日）：北コーカサスで採集されたタルホコムギのジェノタイプピング、日本育種学会第123回講演会
- (15) 工藤瑛司、大谷修平、阿部利徳、笹沼恒男（2013年3月28日）：分子マーカーに基づくチモフェービ系コムギで見られる遺伝的に分化した3グループ間の系統関係、日本育種学会第123回講演会
- (16) 稲葉有紀、相澤由佳里、赤池隆亮、阿部利徳、笹沼恒男（2013年3月28日）：トウガラシ chinense種における果実色とPsy遺伝子の関係について、日本育種学会第123回講演会

及川 彰

1-① 著書

- (1) 及川 彰（2012）大果枝変わり西洋ナシの統合オミクス解析、果実日本, 67, 107-111

1-② 論文

- (1) Bunsupa, S., Katayama, K., Ikeura, E., Oikawa, A., Toyooka, K., Saito, K., Yamazaki, M. (2012) : Lysine decarboxylase catalyzes the first step of quinolizidine alkaloid biosynthesis and coevolved with alkaloid production in leguminosae. *Plant Cell*, 24, 1202-1216
- (2) Matsuda, F., Okazaki, Y., Oikawa, A., Kusano, M., Nakabayashi, R., Kikuchi, J., Yonemaru, J.I., Ebana, K., Yano, M., Saito, K. (2012) : Dissection of genotype-phenotype associations in rice grains using metabolome quantitative trait loci analysis. *Plant Journal*, 70, 624-636
- (3) Ogawa, Y., Sakurai, N., Oikawa, A., Kai, K., Morishita, Y., Mori, K., Moriya, K., Fujii, F., Aoki, K., Suzuki, H., Ohta, D., Saito, K., Shibata, D. (2012) : High-throughput Cryopreservation of Plant Cell Cultures for Functional Genomics. *Plant Cell Physiology*, 53, 943-952
- (4) Kim, J., Choi, J.N., John, K.M., Kusano, M., Oikawa, A., Saito, K., Lee, C.H. (2012) : GC-TOF-MS- and CE-TOF-MS-Based Metabolic Profiling of Cheonggukjang (Fast-Fermented Bean Paste) during Fermentation and Its Correlation with Metabolic Pathways. *Journal of Agricultural Food Chemistry*, 60, 9746-9753
- (5) Oikawa, A., Saito, K. (2012) : Metabolite analyses of single cells. *Plant Journal*, 70, 30-38

1-③ 学会発表（国内学会）

- (1) 及川 彰（2012.8.4）セイヨウナシ果実のメタボローム解析、第30回日本植物細胞分子生物学会（生駒）大会
- (2) 及川 彰（2012.9.22）セイヨウナシ‘ラ・フランス’果実の開花期から追熟後における代謝物の経時変化、園芸学会平成24年度秋季大会
- (3) 及川 彰（2012.10.11）セイヨウナシ果実の成長および追熟による代謝物変動、第7回メタボロームシンポジウム
- (4) 及川 彰（2012.10.12）枝豆の成分とメタボローム解析、エダマメ研究会第11回研究集会
- (5) 及川 彰（2012.10.27）セイヨウナシ果実成長および追熟中の植物ホルモンの濃度変動、植物化学調節学会第47回大会
- (6) 及川 彰（2013.3.22）園芸研究へのオミクス解析の応用、園芸学会平成25年度春季大会

- (7) 及川 彰 (2012. 11. 17) イネのメタボローム解析、日本栄養食糧学会東北支部大会 (招待)
- (8) 及川 彰 (2012. 12. 4) 植物メタボロミクスの現状と課題、農薬バイオサイエンス研究会 (招待)
- (9) 及川 彰 (2013. 3. 23) 食品のメタボローム解析、生物工学会技術セミナー (招待)

森林科学コース

菊間満

1-① 著書

- (1) ILO編、菊間 満訳 (2012) : ILOの林業労働監督ガイドライン、日本林業調査会
- (2) 菊間 満、剣持猛雄、高橋克弥、川田季彦 (2012) : 家づくり講座ー基礎編ー、ムクの木会

1-② その他の研究活動

- (1) 協同組合ビジョン研究会『協同組合研究史』第1回部会で森林組合について報告 (2012年12月1日)

野堀嘉裕

1-① 著書

- (1) 野堀嘉裕・瀧誠志郎 (2012) 森林と低炭素化 (脱温暖化地域からの挑戦ー山形・庄内からの試み) . 慶應義塾大学出版会, 161-170.

1-② 論文

- (1) Seishiro Taki, Yoshihiro Nobori and Maximo Larry Lopez Caceres (2012) : Method for estimation of stem carbon fixation of Japanese black pine by combining stem analysis and soft X-ray densitometry. J. For. Res. DOI 10.1007/s10310-012-0382-x.

1-③ 学会発表 (国内学会)

- (1) 三浦美里・瀧誠志郎・南佳織・佐々木賢二・野堀嘉裕 (2012) ニセアカシアがクロマツの重量成長に及ぼす影響. 東北森林科学会要旨集 : 38-38.
- (2) 南佳織、瀧誠志郎、三浦美里、佐々木賢二、野堀嘉裕 (2012) 宮城県海岸クロマツ林の津波被害の現状. 東北森林科学会要旨集 : 39-39.
- (3) 佐々木賢二・瀧誠志郎・野堀嘉裕 (2012) 山形県鶴岡市内に生育するイチヨウの年輪幅変動の同調性と気候応答. 平成24年度樹木年輪研究会講演要旨集 : 17-17.

1-③ 学会発表 (国内学会)

- (1) Y. Nobori, S. Taki, C.M.L. Lopez, K. Takeda, S. Ishida and C. Mizota (2012) Biomass decrease after fire in northern Mongolian forests. Second International Symposium on Multi-disciplinary Research in Mongolia, Mongol
- (2) Y. Nobori, S. Taki, C.M.L. Lopez, K. Takeda, S. Ishida and C. Mizota (2012) : Biomass decreasing after fire in northern Mongolian forest. Present studies in Yamagata University (Faculty of Agriculture) and Leibniz Universitat Hannover (Faculty of Natural Sciences) (山形大学農学部)

高橋孝悦

1-① 論文

- (1) Takuya Morikawa, Tatsuya Ashitani, Nobuhiro Sekine, Norihisa Kusumoto, Koetsu Takahashi (2012): Bioactivities of extracts from *Chamaecyparis obtusa* branch heartwood, *Journal of Wood Science*, 58 (6), 544-549
- (2) Hiromi Saijyo, Kazuya Tsuruta, Norihisa Kusumoto, Tatsuya Ashitani, Koetsu Takahashi (2013): Growth inhibition activities of Sugi bark components against *Heterosigma akashiwo*, *Journal of Wood Science*, DOI 10.1007/s10086-013-1328

1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 向井堯徳, 芦谷竜矢, 高橋孝悦 (2012) : 木材成分 longifolene の自動酸化による生物活性物質の合成, 東北森林科学会第17回大会講演要旨集, p. 17.
- (2) 松浦俊一郎, 西條裕美, 芦谷竜矢, 高橋孝悦 (2012) : ヒバ心材抽出物のミズカビ病原菌に対する活性, 東北森林科学会第17回大会講演要旨集, p. 18.
- (3) 森川卓哉, 山裾伸浩, 石川友理子, 岩渕友香, 芦谷竜矢, 高橋孝悦 (2012) : スギノアカネトラカミキリによる虫害を受けたヒノキ材 (アカネ材) の成分分析, 東北森林科学会第17回大会講演要旨集, p. 48.
- (4) 森川卓哉, 小藤田久義, 芦谷竜矢, 高橋孝悦 (2013) : ヒノキ枝心材に含まれる生物活性物質, 第63回日本木材学会大会研究発表要旨集, CD-ROM M27-04-1430
- (5) 西條裕美, 辻村舞子, 小藤田久義, 芦谷竜矢 (2013) : Ferruginol の抗酸化活性及び抗酸化機構, 第63回日本木材学会大会研究発表要旨集, CD-ROM M28-P-PM15
- (6) 松浦俊一郎, 森川卓哉, 高橋孝悦, 芦谷竜矢 (2013) : ヒバ心材抽出物のミズカビ病原菌に対する活性 (II), 第63回日本木材学会大会研究発表要旨集, CD-ROM M28-P-PM16
- (7) 芦谷竜矢, 楠本倫久, 高橋孝悦 (2013) Thujopsene 自動酸化物の抗蟻活性, 第63回日本木材学会大会研究発表要旨集, CD-ROM M28-P-PM17
- (8) 石川友理子, 森川卓哉, 芦谷竜矢, 高橋孝悦, 山裾伸浩 (2013) スギノアカネトラカミキリの被害を受けたヒノキ材から放出される揮発性有機化合物, 第63回日本木材学会大会研究発表要旨集, CD-ROM M28-P-PM20
- (9) 向井堯徳, 芦谷竜矢, 高橋孝悦 (2013) longifolene の自動酸化および反応機構の検討, 第63回日本木材学会大会研究発表要旨集, CD-ROM M28-P-PM21
- (10) 岩渕友香, 森川卓哉, 芦谷竜矢, 高橋孝悦 (2013) ヒノキ溝腐れ材に含まれる抽出成分, 第63回日本木材学会大会研究発表要旨集, CD-ROM M28-P-PM22
- (11) 高橋孝悦, 芦谷竜矢 (2013) メタセコイアとメタセコイア型スギのノルリグナンの比較, 第63回日本木材学会大会研究発表要旨集, CD-ROM M28-P-PM26
- (12) 高橋孝悦, 芦谷竜矢 (2013) メタセコイアとメタセコイア型スギのノルリグナンの比較, 第63回日本木材学会大会研究発表要旨集, CD-ROM M28-P-PM26

1-③ 学会発表 (国外学会)

- (1) I. Goto, N. Sekine, M. Kido, T. Morikawa, T. Ashitani, K. Takahashi (2012) : Effect of extracts and compounds in conifers on plant seeds, 28th annual meeting of the International Society of Chemical Ecology, Vilnius Lithuania, Abstract p. 97
- (2) N. Kusumoto, S. Shibutani, T. Ashitani, K. Takahashi, G. Swedjemark, AK. Borg-Karlson (2012) : Chemical reactions in Norway spruce (*Picea abies*) caused by natural infection of *Heterobasidion annosum*, 28th annual meeting of the International Society of Chemical Ecology, Vilnius Lithuania, Abstract p. 184
- (3) T. Morikawa, T. Ashitani, K. Takahashi (2012) : Bioactivities of branch heartwood extracts of *Chamaecyparis obtusa*, 28th annual meeting of the International Society of Chemical Ecology, Vilnius Lithuania, Abstract p. 186
- (4) T. Ono, T. Ashitani, N. Kusumoto, K. Takahashi (2012) : Thujopsene and its autoxidation products as plant self-defensive compound, 28th annual meeting of the International Society of Chemical Ecology, Vilnius Lithuania, Abstract p. 189

- (5) H. Saijo, N. Kusumoto, T. Ashitani, K. Takahashi (2012) : Antifungal activities of coniferous bark components on the genus Saprolegnia, 28th annual meeting of the International Society of Chemical Ecology, Vilnius Lithuania, Abstract p. 211

林田光祐

1-① 論文

- (1) 山中啓介・藤原道郎・林田光祐・後藤義明・鈴木覚・宮前崇・井上章二・坂本知己 (2012) : 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震で発生した津波が仙台市井土地区の海岸林に及ぼした影響-防潮堤と海岸クロマツ林の被害との関係-。海岸林学会誌, 11, 19-25.
- (2) 林田光祐・坂本知己 (2012) : 東日本大震災による海岸林の被害の実態と今後の再生に向けて。森林技術, 842, 28-29.
- (3) 林田光祐 (2012) : 海岸域の生物多様性を考慮した海岸林の再生。水利科学, 326, 28-38.
- (4) 林田光祐・大谷ゆき・大谷博彌 (2013) : ミズナラ二次林におけるナラ枯れ前後の16年間の林分構造の推移。山形大学紀要(農学), 16, 297-304.

1-② 学会発表(国内学会)

- (1) 小林峻大・林田光祐 (2012) : 哺乳類散布樹種ケンポナシの発芽に及ぼす被食の影響、東北森林科学会大会講演要旨集、17、34.
- (2) 遠藤寛士・林田光祐 (2012) : ヤマコウモリの樹洞利用と利用可能な樹洞の形態的特徴、東北森林科学会大会講演要旨集、17、35.
- (3) 脇坂茜・安齋和樹・林田光祐 (2012) : ギフチョウ属2種の産卵環境選択要因からみた下刈りの有効性、東北森林科学会大会講演要旨集、17、36.
- (4) 脇坂茜・安齋和樹・佐藤衣里・林田光祐 (2013) : ギフチョウ属2種の産卵数・食草密度の年変動とその要因、日本生態学会大会講演要旨集、60、175.
- (5) 小林峻大・林田光祐 (2013) : 一般的な被食型散布樹種とは異なる果実形態を持つケンポナシの種子散布と発芽特性、日本生態学会大会講演要旨集、60、177.
- (6) 林田光祐 (2013) : 広葉樹の津波に対する耐性と海岸造林技術。日本森林学会大会学術講演集、124、185.
- (7) 岡田穰・坂本知己・後藤義明・林田光祐 (2013) : 東日本大震災津波による屋敷林および社寺林の被害からみた広葉樹の耐塩水性の評価。日本森林学会大会学術講演集、124、185.
- (8) 星野大介・金子智紀・田村浩喜・渡部公一・岡田穰・林田光祐・坂本知己 (2013) : 三陸北部海岸林における落葉広葉樹種の津波被害状況。日本森林学会大会学術講演集、124、185.
- (9) 本田詩織・林田光祐 (2013) : 宮城県三陸海岸の津波浸水地における常緑・落葉広葉樹種間の耐塩性の比較。日本森林学会大会学術講演集、124、234.

1-③ 学会発表(国際学会)

- (1) Okada, M., Sakamoto, T., Gotoh, Y., Hayashida, M. (2012) : Evaluation of salt-water tolerance of broadleaved trees based on damage of trees in premises forests and shrine and temple groves caused by the 2011 off the Pacific coast of Tohoku earthquake tsunami. Coastal Forest 2012 International Conference in Korea, SJ02, 33

- (2) Honda, S., Hayashida, M. (2012) : Tolerances of various broadleaved tree species on Sanriku coast in northern Miyagi Prefecture to soil salts deposited by tsunami, Coastal Forest 2012 International Conference In Korea. SJ03, 34.
- (3) Ueno, M., Watanabe, K., Hayashida, M. (2012) : Growth process of planting broadleaf trees in the coastal forests in Tohoku, Japan. Coastal Forest 2012 International Conference in Korea, SJ07, 38.
- (4) Tamura, H., Kaneko, T., Hayashida, M. (2012) : Effect of pine canopy on establishing planted Quercus dentate saplings in coastal sand dunes. Coastal Forest 2012 International Conference in Korea, SJ08, 39.

1-④ その他の研究活動

- (1) 林田光祐ほか (2013) : 庄内海浜県立公園の計画見直しに関する自然環境委託調査報告書 (大山上池・下池・都沢湿地・荒倉山) . 142pp. 2013年3月、山形県.

小山浩正

1-① 学会発表 (国内学会)

- (1) 千葉 翔・小山浩正* (2013) ニセアカシアの非休眠種子は更新に貢献するのか. 日本森林学会誌. 日本森林学会誌94:261-268.
- (2) 千葉 翔・小山浩正* (2013) 水に対する浮力実験によるニセアカシアの莢が種子の散布に与える効果の検討 東北森林科学会誌17:42-46.
- (3) 小泉幸代・小山浩正* (2012) 河川域におけるニセアカシアの水平根からの根萌芽発生様式. 東北森林科学会誌 17:31-35.
- (4) 森田昌孝・吉田宣夫・小山浩正・堀口健一・高橋敏能 (2013) ヤギにおける林地内低木樹葉の嗜好性. 山形大学紀要 (農学) 16 : 221-228.
- (5) 澁谷恵子・小山浩正* (2013) ナナカマド果実の種子パッキング戦略—種子を何個詰めるのが有利なのか—. 山形大学紀要 (農学) 16 : 269-276.
- (6) 寺田文子・佐藤 創・南野一博・小山浩正 (2013) ブナ円形密度試験地における密度と形質の関係. 北方森林研究61 : 91-93.

1-③ その他の研究活動

- (1) 庄内日報連載「森の時間」—山形大学農学部からみなさんへ—
「森の時間」で「森のじかん」—森のソムリエの本ができました— (平成24年4月10日)
- (2) 庄内日報連載「森の時間」52 —山形大学農学部からみなさんへ—
山笑う (平成24年5月12日)
- (3) 庄内日報連載「森の時間」56—山形大学農学部からみなさんへ—
泣血哀慟歌—人麻呂に倣う私的挽歌— (平成24年9月6日)
- (4) 庄内日報連載「森の時間」58—山形大学農学部からみなさんへ—
あのイケメンはニセアカシアを真似て泣いたのか (平成24年11月13日)
- (5) 庄内日報連載「森の時間」61—山形大学農学部からみなさんへ—
〇〇につける葉 (平成25年2月10日)

芦谷竜矢

1-① 論文

- (1) Takuya Morikawa, Tatsuya Ashitani, Nobuhiro Sekine, Norihisa Kusumoto, Koetsu Takahashi (2012): Bioactivities of extracts from *Chamaecyparis obtusa* branch heartwood, *Journal of Wood Science*, 58 (6), 544-549
- (2) 芦谷竜矢 (2012) : 樹木含有テルペノイドの酸化反応と生物活性, *木科学情報*, 19 (2), 21-24
- (3) Hiromi Saijyo, Kazuya Tsuruta, Norihisa Kusumoto, Tatsuya Ashitani, Koetsu Takahashi (2013): Growth inhibition activities of Sugi bark components against *Heterosigma akashiwo*, *Journal of Wood Science*, DOI 10.1007/s10086-013-1328

1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 向井堯徳, 芦谷竜矢, 高橋孝悦 (2012) : 木材成分longifoleneの自動酸化による生物活性物質の合成, 東北森林科学会第17回大会講演要旨集, p. 17.
- (2) 松浦俊一郎, 西條裕美, 芦谷竜矢, 高橋孝悦 (2012) : ヒバ心材抽出物のミズカビ病原菌に対する活性, 東北森林科学会第17回大会講演要旨集, p. 18.
- (3) 森川卓哉, 山裾伸浩, 石川友理子, 岩渕友香, 芦谷竜矢, 高橋孝悦 (2012) : スギノアカネトラカミキリによる虫害を受けたヒノキ材 (アカネ材) の成分分析, 東北森林科学会第17回大会講演要旨集, p. 48.
- (4) 豊丹生泰史, 藤田弘毅, 黒田健一, 芦谷竜矢, 堤祐司 (2013) : テルピノレンはヒノキチオール生合成中間体である, 第63回日本木材学会大会研究発表要旨集, CD-ROM M27-04-1400
- (5) 森川卓哉, 小藤田久義, 芦谷竜矢, 高橋孝悦 (2013) : ヒノキ枝心材に含まれる生物活性物質, 第63回日本木材学会大会研究発表要旨集, CD-ROM M27-04-1430
- (6) 西條裕美, 辻村舞子, 小藤田久義, 芦谷竜矢 (2013) : Ferruginolの抗酸化活性及び抗酸化機構, 第63回日本木材学会大会研究発表要旨集, CD-ROM M28-P-PM15
- (7) 松浦俊一郎, 森川卓哉, 高橋孝悦, 芦谷竜矢 (2013) : ヒバ心材抽出物のミズカビ病原菌に対する活性 (II), 第63回日本木材学会大会研究発表要旨集, CD-ROM M28-P-PM16
- (8) 芦谷竜矢, 楠本倫久, 高橋孝悦 (2013) Thujopsene自動酸化物の抗蟻活性, 第63回日本木材学会大会研究発表要旨集, CD-ROM M28-P-PM17
- (9) 石川友理子, 森川卓哉, 芦谷竜矢, 高橋孝悦, 山裾伸浩 (2013) スギノアカネトラカミキリの被害を受けたヒノキ材から放出される揮発性有機化合物, 第63回日本木材学会大会研究発表要旨集, CD-ROM M28-P-PM20
- (10) 向井堯徳, 芦谷竜矢, 高橋孝悦 (2013) longifoleneの自動酸化および反応機構の検討, 第63回日本木材学会大会研究発表要旨集, CD-ROM M28-P-PM21
- (11) 岩渕友香, 森川卓哉, 芦谷竜矢, 高橋孝悦 (2013) ヒノキ溝腐れ材に含まれる抽出成分, 第63回日本木材学会大会研究発表要旨集, CD-ROM M28-P-PM22
- (12) 高橋孝悦, 芦谷竜矢 (2013) メタセコイアとメタセコイア型スギのノルリグナンの比較, 第63回日本木材学会大会研究発表要旨集, CD-ROM M28-P-PM26

1-③ 学会発表 (国外学会)

- (1) I. Goto, N. Sekine, M. Kido, T. Morikawa, T. Ashitani, K. Takahashi (2012) : Effect of extracts and compounds in conifers on plant seeds, 28th annual meeting of the International Society of Chemical Ecology, Vilnius Lithuania, Abstract p. 97
- (2) N. Kusumoto, S. Shibutani, T. Ashitani, K. Takahashi, G. Swedjemark, AK. Borg-Karlson (2012) : Chemical reactions in Norway spruce (*Picea abies*) caused by natural infection of *Heterobasidion annosum*, 28th annual meeting of the International Society of Chemical Ecology, Vilnius Lithuania, Abstract p. 184
- (3) T. Morikawa, T. Ashitani, K. Takahashi (2012) : Bioactivities of branch heartwood extracts of *Chamaecyparis obtusa*, 28th annual meeting of the International Society of Chemical Ecology, Vilnius Lithuania, Abstract p. 186
- (4) T. Ono, T. Ashitani, N. Kusumoto, K. Takahashi (2012) : Thujopsene and its autoxidation products as plant self-defensive compound, 28th annual meeting of the International Society of Chemical Ecology, Vilnius Lithuania, Abstract p. 189

- (5) H. Saijo, N. Kusumoto, T. Ashitani, K. Takahashi (2012) : Antifungal activities of coniferous bark components on the genus Saprolegnia, 28th annual meeting of the International Society of Chemical Ecology, Vilnius Lithuania, Abstract p. 211

菊池俊一

1-① 学会発表 (国内学会)

- (1) 渡部公一・海老名寛・齊藤正一・上野 満・佐藤恒治・菊池俊一・坂本知己 (2012) : 津波によって根返りしたマツの根系と地下水条件、東北森林科学会第17回大会講演要旨集、40.
- (2) 菊池俊一・大國谷諒・渡部公一・佐藤恒治・須藤泰典・上野 満・齊藤正一・堀米英明・海老名 寛・坂本知己 (2013) : 東北地方太平洋沖地震津波により被害を受けた宮城県岩沼海岸林の根系発達状況、第124回日本森林学会大会学術講演集、テーマ別シンポジウム「T18 : 樹木根の成長と機能」、H30、184.

1-② 学会発表 (国際学会)

- (1) Kikuchi S. (2012) : The Iwanuma corstal pine forests damaged by the 2011 Tohoku Earthquake Tsunami with special reference to their root system developments. Coastal forest 2012 international conference in Korea, 11, Korea.

早尻正宏

1-① 論文

- (1) 早尻正宏. (2012). 過疎山村の地域づくりと住民参画の展開過程——鳥取県智頭町の事例. 北海道大学大学院教育学研究院紀要, 116 : 87-99.
- (2) 早尻正宏. (2012). 自治体公共政策への参加保障と地域課題の社会的共同事業化——鳥取県智頭町の事例から. 地域経済学研究, 25 : 68-85.
- (3) 早尻正宏. (2013). 市町村合併に伴う社会教育施設の配置・管理運営の再編動向——山形県酒田市と鶴岡市の行財政改革を対象として, 山形大学紀要 (農学), 16 (4) : 81-99.
- (4) 中尾信彦・早尻正宏. (2013). 森林組合の合併と林業労働力の再編——北海道の合併組合を事例に. 北方森林研究, 61 : 31-34.
- (5) 早尻正宏. (2013). 地域資源管理からみた馬搬振興の展開過程と技術継承の条件——岩手県遠野地方を事例として. 東北森林科学会誌, 18 (1) : 1-12.
- (6) 大谷直史・早尻正宏. (2013). 環境教育教材としての「共有地の悲劇」ゲームの開発. 鳥取大学教育研究論集, 3 (印刷中).

1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 中尾信彦・早尻正宏. (2012). 森林組合の合併と林業労働力の再編——北海道の合併組合を事例に. (第61回北方森林学会: 札幌コンベンションセンター, 2012年11月13日).

1-③ その他の研究活動

- (1) 早尻正宏・若原幸範. (2012). 現代の若者と労働環境を問い直す視点について. (日本社会教育学会2012年度若手会員の萌芽的研究及び研究交流の奨励に関する助成 若年労働者研究グループ合同検討会: 北海道大学札幌キャンパス, 2012年9月2日).
- (2) 早尻正宏. (2013). 平成24年度「緑の雇用」現場技能者育成対策事業の評価に関する調査報告書. 全国森林組合連合会 (印刷中). *分担執筆

水土環境科学コース

大久保博

1-① 論文

- (1) 佐々木亮祐, 大久保博, 渡邊一哉, 河内正行 (2013) : 砂防ダムスリット化後の河床変動とサクラマスの産卵場, 山形大学紀要 (農学) . 第16巻. 第4号

1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) Susan PRAISE, Hiroshi OKUBO, Kazuya WATANABE: Manganese Concentration Change along the River Due to Sabo Dams, 第55回研究発表会講演要旨集, 144-145, 農業農村工学会東北支部
- (2) 佐々木亮祐・大久保博・渡邊一哉・河内正行: 砂防ダムスリット化後の河床変動とサクラマス産卵環境、平成24年度農業農村工学会大会講演会要旨集、242-243

奥山武彦

1-① 著書

- (1) 丸山利輔・早瀬吉雄編集 (2012) , 農業用水を核とした健全な水循環, 石川県立大学出版会, 137-144

1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 奥山武彦 (2012) : 七五三掛地すべり後背部の地下水, 第51回日本地すべり学会研究発表会講演集, 173-174
- (2) 諏訪弘明・奥山武彦 (2013) : 最上川下流部低平地における微地形と液状化現象との関係, 第18回庄内・社会基盤技術フォーラム講演概要集, 69-72

安中武幸

1-① 学会発表 (国内学会)

- (1) 安中武幸・湯川由菜・花山 奨 (2012) : 砂丘メロントンネル栽培期間における肥料成分流亡リスク評価、H24 農業農村工学会大会講演会講演要旨集、444-445
- (2) 花山 奨・安中武幸 (2012) : 田面水の対流制御法の改良とそれを用いた適用例の紹介、H24 農業農村工学会大会講演会講演要旨集、410-411

渡邊一哉

1-① 論文

- (1) 佐々木亮祐・大久保博・渡邊一哉・河内正行 (2013) 砂防ダムスリット化後の河床変動とサクラマスの産卵場、山形大学紀要 (農学) 第16巻第4号、305-312頁

1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 渡邊一哉、若井大器、大久保博（2012）庄内平野中川地内におけるカエル種の水田利用および生息環境に関する研究、農業農村工学会全国大会、北海道、9月。
- (2) 佐々木亮祐、大久保博、渡邊一哉、河内正行（2012）砂防ダムスリット化後の河床変動とサクラマスの産卵環境、農業農村工学会全国大会、北海道、9月。

渡部徹

1-① 著書

- (1) Masaaki Kitajima and Toru Watanabe. Risk assessment of highly pathogenic avian influenza virus infections through water. In: Avian Influenza: Molecular Evolution, Outbreaks and Prevention/Control, edited by Kyle M. Taylor and Burce O'Connor, 1-22, Nova Science Publishers, Inc., March 2013
- (2) Toru Watanabe, Chen Jinxian, Wei Chunhai, Ryo Honda, Fumiyuki Nakajima and Kazuo Yamamoto. Performance of long-term operation of membrane bioreactor with in-line sludge thickener enhanced by inclined tubes (itMBR). In: Southeast Asian Water Environment 5, IWA Publishing, London, UK, in press
- (3) Toru Watanabe. Urban flood and infectious diseases. In: Vulnerability and Resilience of Water Systems under Global Extremes, Published by Alliance for Global Sustainability, in press

1-② 論文

- (1) Simanata Threedeach, Wilai Chiemchaisri, Toru Watanabe, Chart Chiemchaisri, Ryo Honda, Kazuo Yamamoto. Antibiotic resistance of Escherichia coli in leachates from municipal solid waste landfills: Comparison between semi-aerobic and anaerobic operations. Bioresource Technology, 113, 253-258, 2012
- (2) 村松亜由美, 渡部徹*, 佐々木貴史, 伊藤紘晃, 梶原晶彦, 下水処理水の循環灌漑による省資源型水稲栽培, 土木学会論文集G (環境), 68(7), III_93-III_102, 2012
- (3) Toru Watanabe. Urban flood and infectious diseases. In: Vulnerability and Resilience of Water Systems under Global Extremes, Published by Alliance for Global Sustainability, in press

1-③ 学会発表 (国内学会)

- (1) 村松亜由美, 渡部徹, 佐々木貴史, 梶原晶彦, 下水処理水の循環灌漑によって栽培された水稲の生育と安全性, 土木学会平成24年度全国大会第67回年次学術講演会, 平成24年9月5～7日, 名古屋市
- (2) 村松亜由美, 渡部徹, 佐々木貴史, 伊藤紘晃, 梶原晶彦, 下水処理水の循環灌漑による省資源型水稲栽培, 第49回環境工学研究フォーラム, 平成24年11月28～30日, 京都市
- (3) 伊藤紘晃, 藤井学, 真砂佳史, 渡部徹, 大村達夫, フルボ酸第二鉄錯体とシデロフォア desferrioxamine B のリガンド交換反応に及ぼすpHとイオン強度の影響, 第49回環境工学研究フォーラム, 平成24年11月28～30日, 京都市
- (4) 小澤耕平, 渡部徹, 伊藤紘晃, 梶原晶彦, 水環境から分離された大腸菌のテトラサイクリン耐性遺伝子の検出, 第18回庄内・社会基盤技術フォーラム, 平成25年1月24日, 酒田市
- (5) 星健太, 伊藤紘晃, 渡部徹, 梶原晶彦, 真砂佳史, クエン酸緩衝液を用いたカキからのノロウイルス抽出, 第18回庄内・社会基盤技術フォーラム, 平成25年1月24日, 酒田市

- (6) 村松亜由美, 渡部徹, 佐々木貴史, 梶原晶彦, 下水処理水の循環灌漑による水稲栽培における塩素消毒と中干しの影響, 平成24年度土木学会東北支部技術研究発表会, 平成25年3月9日, 仙台市
- (7) 小澤耕平, 渡部徹, 伊藤紘晃, 梶原晶彦, 真砂佳史, Chiemchaisri Wilai, 本多了, チャオプラヤ川流域から分離された大腸菌のテトラサイクリン耐性遺伝子, 平成24年度土木学会東北支部技術研究発表会, 平成25年3月9日, 仙台市
- (8) 星健太, 伊藤紘晃, 渡部徹, 真砂佳史, 植木洋, 梶原晶彦, 養殖カキに対するノロウイルス汚染の時空間的変動, 平成24年度土木学会東北支部技術研究発表会, 平成25年3月9日, 仙台市
- (9) 翠川裕, 中村哲, 渡部徹, 中津雅美, ペットスパーンラッタナポー, 東南アジア, ラオス国における感染症リスクとその管理, 第83回日本衛生学会学術総会, 平成25年3月24~26日, 金沢市

1-④ 学会発表 (国際学会)

- (1) Toru Watanabe. Quantitative microbial risk assessment (QMRA) for airborne pathogens. World Congress on Risk 2012, Sydney, Australia, July 18-20, 2012 (Oral)
- (2) Toru Watanabe and Kumiko Oguma. Tradeoff of health risks caused by Legionella and disinfection byproducts in public baths. World Congress on Risk 2012, Sydney, Australia, July 18-20, 2012 (Poster)
- (3) Nopparat Patchanee, Toru Watanabe, Wilai Chiemchaisri, Simanata Threedeach, Ryo Honda and Chart Chiemchaisri. Municipal wastewater treatment plants as a potential source of antibiotic resistant bacteria in southeast Asia. 3rd Seminar on Asian Water Environment, Ho Chi Minh City, Vietnam, October 25-26, 2012 (Oral)
- (4) Satoshi Nakamura, Yutaka Midorikawa, Toru Watanabe and Masami Nakatsu. Antibiotic susceptibility of coliform bacteria recovered from the samples of environmental water in Lao P.D.R.: Preliminary observation on antibiotic susceptibility to Klebsiella spp. 10th International Symposium on Southeast Asian Water Environment, Hanoi, Vietnam, November 8-10, 2012 (Poster)
- (5) Toru Watanabe, Hiroaki Ito, Daisuke Sano and Satoshi Okabe. Risk assessment for viral infection via drinking water considering age-dependent susceptibility. IWA 4th Asia-Pacific Young Water Professional Conference 2012, Tokyo, Japan, December 7-10, 2012 (Oral)
- (6) Ayumi Muramatsu, Toru Watanabe, Atsushi Sasaki and Akihiko Kajihara. Nitrogen removal from treated wastewater through rice cultivation with circulated irrigation. IWA 4th Asia-Pacific Young Water Professional Conference 2012, Tokyo, Japan, December 7-10, 2012 (Oral)
- (7) Chittima Charudacha, Panja Yaithavorn, Toru Watanabe, Yoshifumi Masago, Ryo Honda, Tatsuo Omura. Recovery of wastewater treatment plant damaged by the 2011 flood in Thailand: From the point of health risk due to reuse of treated wastewater. IWA 4th Asia-Pacific Young Water Professional Conference 2012, Tokyo, Japan, December 7-10, 2012 (Oral)
- (8) Toru Watanabe. Indirect impact of flood and draught on human health: Food contamination with waterborne pathogens. International Conference on Sustainability Science in Asia 2013 (ICSS-Asia 2013), Canberra, Australia, February 5-8, 2013 (Oral)

花山奨

1-① 学会発表 (国内学会)

- (1) 花山奨・安中武幸 (2012) : 田面水の対流制御法の改良とそれを用いた適用例の紹介、平成24年度農業農村農工学学会大会講演会講演要旨集、410-411.

- (2) 安中武幸・湯川由菜・花山奨 (2012) : 砂丘メロントネル栽培期間における肥料成分流亡リスク評価、平成24年度農業農村農村工学会大会講演会講演要旨集、444-445.

プロジェクト教員

伊藤紘晃

1-① 論文

- (1) M. Fujii, Y. Sato, H. Ito, Y. Masago and T. Omura (2012): Monosaccharide composition of the outer membrane lipopolysaccharide and O-chain from the freshwater cyanobacterium *Microcystis aeruginosa* NIES-87, *Journal of Applied Microbiology*, 113, 896-903.
- (2) 伊藤紘晃, 藤井学, 真砂佳史, 渡部徹, 大村達夫 (2012): フルボ酸第二鉄錯体とシデロフォア desferrioxamine B のリガンド交換反応に及ぼす pH とイオン強度の影響, *土木学会論文集G (環境)*, 68, III_535-III_543.
- (3) 西村直貴, 伊藤紘晃, 八巻哲也, 真砂佳史, 大村達夫 (2012): アルミニウムイオンに親和性を持つ *Microcystis aeruginosa* 莢膜由来有機物の組成分析, *土木学会論文集G (環境)*, 68, III_69-III_75.
- (4) S. Garg, H. Ito, A. L. Rose and T. D. Waite (2013): Mechanism and kinetics of dark iron redox transformations in previously photolyzed acidic natural organic matter solutions, *Environmental Science & Technology*, 47, 1861-1869.

1-② 学会発表 (国内学会)

- (1) 伊藤紘晃, 藤井学, 真砂佳史, 渡部徹, 大村達夫 (2012): フルボ酸第二鉄錯体とシデロフォア desferrioxamine B のリガンド交換反応に及ぼす pH とイオン強度の影響, 第49回環境工学研究フォーラム
- (2) 西村直貴, 伊藤紘晃, 八巻哲也, 真砂佳史, 大村達夫 (2012): アルミニウムイオンに親和性を持つ *Microcystis aeruginosa* 莢膜由来有機物の組成分析, 第49回環境工学研究フォーラム
- (3) 星健太, 伊藤紘晃, 渡部徹, 真砂佳史, 梶原晶彦: クエン酸緩衝液を用いたカキからのノロウイルス抽出, 第18回庄内・社会基盤技術フォーラム
- (4) 星健太, 伊藤紘晃, 渡部徹, 真砂佳史, 植木洋, 梶原晶彦, 養殖カキに対するノロウイルス汚染の時空間的変動, 平成24年度東北支部技術研究発表会
- (5) 小澤耕平, 渡部徹, 伊藤紘晃, 梶原晶彦, 真砂佳史, Chiemchaisri Wilai, 本多了 (2013): チャオプラヤ川流域から分離された大腸菌のテトラサイクリン耐性遺伝子, 平成24年度東北支部技術研究発表会

1-③ 学会発表 (国際学会)

- (1) H. Ito, M. Fujii, Y. Masago and T. Omura (2012): Effect of pH on ligand exchange reaction between organically complexed Fe(III) and siderophore desferrioxamine B, 2012 ASLO Aquatic Sciences Meeting, Japan.

②学会・社会活動

安全農産物生産学コース

高橋敏能

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本畜産学会会員
- (2) 日本草地学会（評議員、編集委員）
- (3) 東北畜産学会（評議員）
- (4) 日本養豚学会会員
- (5) ルーメン研究会（評議員）
- (6) 肉用牛研究会会員
- (7) 綿羊研究会会員
- (8) 栄養生理研究会会員

2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 2013年度日本草地学会山形大会・大会運営委員長：山形大学小白川キャンパス（平成25年3月24日～平成25年3月26日）

2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Animal Science Journal（日本） 3件
- (2) Grassland Science（日本） 1件
- (3) 日本草地学会誌（日本） 1件
- (4) 東北畜産学会報（日本） 1件
- (5) Journal of Medicinal Plants Research（ナイジェリア） 1件
- (6) African Journal of Biotechnology（ケニア） 2件
- (7) Journal of Agricultural Science and Technology（イラン） 2件
- (8) Iranian Journal of Applied Animal Science（イラン） 7件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 東北農業研究センター運営委員会委員
- (2) 東北農業試験研究推進会議試験研究推進部会外部専門委員
- (3) 公益法人農業支援センター協議会委員
- (4) 放牧豚自給飼料（発酵TMR）生産技術の開発（助言者：山形県朝日町からの依頼）
- (5) 「未利用資源の飼料利用に関する講演会」（平成25年3月12日仙台市：（株）片平エンジニアリングからの依頼）

2-③ 学会賞受賞等

- (1) 日本草地学会賞：稲発酵粗飼料の栽培、調製、給与技術および飼料用米の加工・給与技術の開発に関する研究（平成25年3月24日受賞）

生井恒雄

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本植物病理学会
- (2) 日本菌学会
- (3) 土壌微生物学会
- (4) 北日本病害虫研究会

2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 平成24年日本植物病理学会東北部会 平成24年9月13-14日（山形大学鶴岡キャンパス）

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県科学技術奨励賞選考委員会委員
- (2) 山形安全安心農産物認証取組審査委員会委員長
- (3) 鶴岡市わんぱく農業クラブ主催
- (4) 鶴岡市、水田フォーラム開催責任者

2-③ 学会賞受賞等

- (1) 鶴岡市農業発展奨励賞受賞（環境保全型農業技術の開発に関する研究）平成25年2月8日

安藤豊

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壌肥料学会、評議員、国際土壌科学会議水田土壌ワーキンググループチェア
- (2) 日本作物学会、東北支部評議員
- (3) 熱帯農業学会
- (4) サゴ学会
- (5) アメリカ農学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Soil Science and Plant Nutrition 2件

- (2) African Journal of Agricultural Research 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県エコエリア推進協議会委員 (2006～現在)
- (2) 鶴岡市特別栽培認証委員会委員 (2007～現在)

夏賀元康

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 農業機械学会評議員 (2005年04月～継続中)
- (2) 農業機械学会東北支部長・理事 (2011年04月～継続中)
- (3) 農業機械学会表彰委員会委員 (2011年04月～継続中)
- (4) 農業機械学会年次大会担当、プログラム専門委員会委員長 (2011年04月～2013年03月)
- (5) 日本食品科学工学会
- (6) 農業機械学会北海道支部会
- (7) 農業施設学会
- (8) 北海道家畜管理研究会
- (9) アメリカ農業生物工学会 (American Society of Agricultural and Biological Engineers)
- (10) 農業機械学会東北支部会
- (11) エダマメ研究会
- (12) 近赤外研究会理事 (2005年04月～継続中)
- (13) 韓国農業機械学会 (The Korean Society for Agricultural Machinery) 英文誌編集委員 (2011年04月～継続中)

2-② 学会賞受賞等

- (1) 近赤外研究会最優秀ポスター賞

西澤隆

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本園芸学会会員
- (2) 園芸学会東北支部 (評議員2010～現在)
- (3) 国際園芸学会会員
- (4) 生物環境工学会会員
- (5) 人間植物関係学会会員

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Journal of Horticultural Science and Biotechnology (英国) 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 平成24年9月29日 ひらめき☆ときめきサイエンス (生物の多様性を考えるー土壤微生物・植物・昆虫間の相互作用)
- (2) 財団法人庄内地域産業振興センター理事 (平成23年4月～平成25年3月)
- (3) 鶴岡工業高等専門学校運営協議会委員 (平成23年4月～平成25年3月)
- (4) 公益財団法人 マエタテクノロジーリサーチファンド理事 (平成23年6月～平成25年6月)
- (5) 鶴岡南高等学校学校評議員・鶴岡南高等学校学校関係者評価委員 (平成24年4月～平成25年3月)
- (6) 庄内水田農業推進機構 会長 (H24年6月～平成25年6月)
- (7) 鶴岡市総合計画審議会 委員 (平成23年12月～平成25年11月)
- (8) 山形県立鶴岡南高等学校スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 運営指導委員 (平成24年9月13日～平成25年3月31日)
- (9) 鶴岡市農業発展奨励賞表彰審査委員会 委員 (平成24年4月～平成25年3月)

藤井弘志

2-① 学会活動

2-①- (i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壤肥料学会、日本作物学会
- (2) 日本土壤肥料学会 (第6部門、部門長2011～2014)
- (3) 日本土壤肥料学会 (欧文誌) 編集委員 (2011～2014)

2-①- (ii) 論文審査の依頼等

- (1) Soil Sci. Plant Nutri. 10件
- (2) 日本土壤肥料学雑誌2件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県立農業大学校特別講義 (土壤肥料) 3回: 6月7日、7月12日、10月11日
- (2) 山形県立農業大学校「働きながら学ぶ稲作講座」2回: 8月1日、8月29日
- (3) 「テレビ講義」 (水田の土づくりについて) 6月11日 (全農本部、東京)、60人
- (4) 「講演会」 (水稻の気象災害とケイ酸について) 11月11日、湯の浜、50人
- (5) ワークショップ「農業新技術」11月28日 (鶴岡市)、100人
- (6) 「講演会」 (水田土壌の実態と対策) 11月15日 (庄内町)、100人
- (7) つや姫フォーラム (水田土壌の実態と対策) : 1月8日 (三川町)、150人
- (8) ビジネススクール講義 (稲作の栽培管理) : 1月9日、(山形市)、25人
- (9) 有機農業公正委員会「委員長」1月23日、山形市
- (10) 「講演」 農学のタベ (山形県における水稻、ダイズの気象災害について) : 1月24日 (鶴岡市)、20人

- (11) 冬期研修会「講演（水田土壌の実態と対策）」：1月26日（鶴岡市）、25人
- (12) 東北地域土壌肥料研究会「評価委員」：1月29日（盛岡市）、50人
- (13) スキルアップ研修「講演」（水田土壌の実態）：3月5日（山形市）、100人

平智

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会（評議員、学会活動活性化特別委員会委員長 2012～現在）
- (2) 日本食品保蔵科学会（理事 2011～現在）
- (3) 人間・植物関係学会（理事 2005～現在）

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県農林水産業活性化推進本部委員（2009～現在）
- (2) 山形県農林水産業活性化フォローアップ委員会委員（2011～現在）
- (3) 鶴岡総合研究所所長（2012～現在）
- (4) 鶴岡市グリーンツーリズム推進協議会会長（2007～現在）
- (5) 鶴岡市森林文化都市研究会会長（2011～現在）
- (6) 鶴岡市総合計画審議会委員（2007～現在）
- (7) 山形在来作物研究会副会長（2009～現在）

堀口健一

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本畜産学会（代議員2009～2012）
- (2) 日本草地学会（国際情報担当委員2011年度～）
- (3) 東北畜産学会（評議員2010年度～、学会誌編集委員2011年度～）
- (4) 日本家畜管理学会
- (5) 肉用牛研究会
- (6) 家畜栄養生理研究会
- (7) ルーメン研究会

2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 日本草地学会・大会事務局長 山形県山形市（小白川キャンパス） 2013年3月24日～2013年3月26日

2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Grassland Science (日本) 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) (講演等) 東北地区実験実習講習会 「サイレージの発酵品質の分析」 山形大学農学部 2012年8月1日
- (2) (講演等) 夏期セミナー 「肉のうまさの違いとは」 山形大学農学部 2012年8月2日
- (3) (講演等) 教員免許状更新講習 「国内畜産の現状分析-家畜飼料の獲得戦略-」 山形大学農学部 2012年8月2日

吉田宣夫

2-① 学会活動

2-①-① 所属学協会及びその役職

- (1) 日本草地学会(評議員2001～現在)
- (2) 日本草地学会(評議員2001～現在)

2-①-② 学会の主催等

- (1) 2013年度日本草地学会山形大会：山形市山形大学小白川キャンパス（平成25年3月24日～平成25年3月26日）

2-①-③ 論文審査の依頼等

- (1) Animal Science Journal(日本) 1件
- (2) Grassland Science(日本) 1件
- (3) 日本畜産学会誌(日本) 2件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 農林水産省生産局畜産企画課 中央畜産技術研修会（飼料A・B）講師（2012）
- (2) 農林水産省生産局畜産振興課 平成23年度国産粗飼料増産対策事業に係る稲発酵粗飼料コーディネーター資質向上会議委員（2012）
- (3) (社)日本草地畜産種子協会 フォーレンジテスト新システム構築事業に係る推進委員（2012～）
- (4) (社)中央畜産会 畜産経営活性化サポート事業教材作成会議委員（2012）
- (5) 山形県農林水産部 山形県農林水産技術会議委員（2010～2014）
- (6) 山形県最上総合支庁 農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業審査委員(2009～2013)

小笠原宣好

2-① 学会活動

2-①-① 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会

長谷修

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本植物病理学会 (東北部会幹事2008～現在)
- (2) アメリカ植物病理学会 会員
- (3) 日本植物生理学会 会員
- (4) 北日本病害虫研究会 会員

2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 平成24年度 日本植物病理学会東北部会, 開催地幹事長: 山形県鶴岡市(平成24年9月13日～14日)

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Journal of General Plant Pathology (日本) 2件

片平光彦

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 農業機械学会、農業施設学会、農作業学会、American Society of Agricultural and Biological Engineers
- (2) 農業機械学会東北支部会 (常任幹事2011～2012)

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 農業機械学会誌 3件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 東北地域農林水産・食品ハイテク研究会研究開発推進委員 (2007～2012)

佐藤智

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本昆虫学会
- (2) 日本応用動物昆虫学会
- (3) 日本生態学会
- (4) 日本昆虫学会東北支部会 (支部幹事2011～現在)

森静香

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壌肥料学会
- (2) 日本作物学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本土壌肥料学会 3件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 湿地保全活動報告会（未利用資源（ヨシ）の生育および成分に関する研究）10月20日（鶴岡市自然学習交流館）、20人

佐々木由佳

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壌肥料学会
- (2) 農業農村工学会
- (3) サゴヤシ学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Philippine Agricultural Scientist（フィリピン） 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 庄内水田農業推進機構委員（2009年度～）
- (2) 附属農場開放事業「わんぱく農業クラブ」の運営
- (3) JICA短期研修「国別研修 ケニア稲作振興」：圃場での稲作作業について講義（2012年7月2日、13日）
- (4) JICA短期研修「アフリカ地域（英語圏）稲作収穫後処理」：圃場での稲作作業について講義（2012年8月31日）

池田和生

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会
- (2) 日本植物細胞分子生物学会
- (3) 山形在来作物研究会（編集幹事平成21年4月～）
- (4) 日本食品保蔵科学会

食農環境マネジメント学コース

岩鼻通明

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本山岳修験学会（理事1994～現在）
- (2) 東北地理学会（編集委員2011～現在、評議員2013～現在）
- (3) 日本民俗学会（理事2010～現在）
- (4) 歴史地理学会（評議員1990～現在）
- (5) 史学研究会（評議員2004～現在）

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 山形大学紀要（農学編）1件、山形大学紀要（社会科学編）1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県景観審議会委員、大江町文化的景観調査検討委員会委員
- (2) 講演：東北の山岳信仰と県境・郡境、喜多方市山都町地域協議会、山都開発センター、2012年7月29日
- (3) 講演：出羽三山信仰と21世紀の広域交流圏、東北芸術工科大学、西川町開発センター、2012年8月5日
- (4) シンポジウムパネリスト：出羽三山を中心とした文化財と精神文化、出羽庄内地域文化遺産による地域活性化実行委員会、いでは文化記念館、2012年9月23日
- (5) 農学のタベ：観客アンケートからみた鶴岡まちなかキネマ、山形大学農学部、2012年12月13日
- (6) シンポジウムコーディネーター：目指せ映画の都！～映画を通じた地域活性化シンポジウム、山形大学農学部、鶴岡まちなかキネマ、2013年3月16日

小沢互

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農業経済学会（東北地区担当常務理事、2012～現在）
- (2) 日本農業経営学会
- (3) 農業情報学会（評議員、2005～現在）
- (4) 東北農業経済学会（副会長、2008～現在）
- (5) 農村計画学会
- (6) 日本フードシステム学会
- (7) 地域活性学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) フードシステム研究 2件
- (2) 農業経営研究 1件
- (3) 農村研究 1件
- (4) 日本養豚学会 1件
- (5) 農業経済研究 1件
- (6) 農業経済研究報告 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 東北農政局国営事業事後評価第三者委員 (2006年4月～)
- (2) 山形県農業・農村政策審議会委員 (山形県. 会長代理. 2006年4月～)
- (3) 「やまがた6次産業ビジネススクール」プログラム開発リーダー (やまがた6次産業コンソーシアム. 2008年10月～)
- (4) 「庄内地域集落営農組織連絡会議」参与 (庄内地域営農組織連絡会議. 2009年6月～)
- (5) 鶴岡市総合計画審議会企画専門委員会委員 (鶴岡市. 2009年11月～)
- (6) 鶴岡市行財政改革推進委員会委員 (鶴岡市. 2010年5月～2012年5月)
- (7) 専門家派遣事業にかかる専門家 (山形県農業会議. 2008年5月～)
- (8) 山形県米政策推進会議委員 (山形県. 会長. 2007年9月～)
- (9) 農林水産業元気再生戦略 農林水産業元気再生戦略フォローアップ フォローアップ委員会 (山形県. 座長. 2011年2月～)
- (10) 実践キャリア・アップ制度・食の6次産業化プロデューサーWG委員 (内閣府. 2010年11月～)
- (11) 山形県卸売市場審議会委員 (山形県. 委員長. 2011年3月～)
- (12) 実践キャリア・アップ制度・食の6次産業化プロデューサーWG起草小委員会委員 (内閣府. 委員長. 2011年6月～2012年7月)
- (13) やまがた6次産業人材創生コンソーシアム全体会議委員 (やまがた6次産業コンソーシアム. 2009年4月～)
- (14) 産学連携による高度アグリビジネス人材育成プロジェクト委員会委員 (高崎経済大学. 2011年11月～)
- (15) 山形県農村環境保全推進委員会委員 (山形県. 座長. 2012年2月～)
- (16) 鶴岡市地域コミュニティあり方検討委員会委員 (鶴岡市. 委員長. 2012年3月～2013年3月)
- (17) 公益財団法人やまがた農業支援センター評議員選定委員会委員 (やまがた農業支援センター. 2011年2月～)
- (18) 農林漁業体験民宿集積活性化基礎調査ワーキングチーム委員 (鶴岡食文化創造都市推進協議会. 2012年9月～2013年3月)
- (19) 実践キャリア・アップ制度・キャリア段位制度実施事業選定評価委員会委員 (内閣府. 2012年10月～2013年3月)
- (20) やまがた6次産業ビジネススクール講師 (やまがた6次産業コンソーシアム. 2009年8月～)
- (21) 法人化志向集落営農組織情報交換会講師 (JA庄内みどり. 2012年8月28日)
- (22) 都市近郊農業活性化フォーラム講師『生産と消費をつなぐ』 (生活クラブ首都圏リージョナル連帯. 2012年8月29日)
- (23) 6次産業に関するコメント (テレビユー山形Nスタやまがた「注目の6次産業 その可能性と課題」. 2012年9月3日放送)
- (24) 平成24年度おしゃべりな畑講師『農業の現状と課題』 (山形大学農学部. 2012年9月11日)
- (25) 集落ビジョンの必要性について (増川新田集落検討会. 2012年9月13日)

- (26) 新規就農者による本市農業の将来展望懇談会（鶴岡市．2012年10月17日）
- (27) 三川町農政懇談会講師『T P Pとこれからの農業経営』（三川町．2012年10月30日）
- (28) やまがた夜話講師『6次産業化が切り拓く山形農業』（大学コンソーシアムやまがた．2012年11月7日）
- (29) 経営指導技術向上研修講師『私の考える日本の畜産業』（中央畜産会．2012年11月14日）
- (30) 生産組合長会全員研修会講師『激動の時代だからこそ、地域の将来像を描け一次世代に期待するためにー』（鶴岡地域農村集落代表者会議・鶴岡市農業協同組合生産組合長会．2012年11月18日）
- (31) 鶴岡市住民自治組織合同研修会講師『地域の未来（夢）をどう描くか』（鶴岡市．2012年11月19日）
- (32) 平成24年度鶴岡市第1回課題別研修会講師『小規模集落の運営について』（鶴岡市．2012年12月17日）
- (33) 山形県農業経営研究会講師『これからの農業経済・経営研究の方向』（山形県農業経営研究会．2013年1月12日）
- (34) 平成24年度おしゃべりな畑講師『在来作物で地域を元気に』（山形大学農学部．2013年1月15日）
- (35) 6次産業化支援講座講師『6次産業化基礎』（フィデア総合研究所．2013年1月24日）
- (36) 記念講演『地域農業と日本の食料を守る連携の役割と展望』（遊佐町．2013年1月26日）
- (37) 組織強化研修会講師『農業センサスから見た庄内農業の変化』（庄内地域集落営農組織連絡会議．2013年2月1日）
- (38) 区長会研修講師『地域活性化論の実践-宝谷地区の調査-』（櫛引地区区長会．2013年3月25日）
- (39) 大学地域連携・地域活性化学会合同シンポジウム講師『大学の実践者教育プログラムとキャリア段位制』（地域活性化学会．2013年3月26日）

角田毅

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農業経営学会
- (2) 日本農業経済学会
- (3) 東北農業経済学会・理事
- (4) 地域農林経済学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 農業経営研究（日本）1件
- (2) 農村経済研究（日本）2件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 酒田市スーパー農業経営塾座長（2012.4～2013.3）
- (2) 東北公益文科大学非常勤講師（2012.4～2012.9）
- (3) やまがた6次産業ビジネススクール講師（2012.4～2013.3）
- (4) 山形県創意工夫プロジェクト支援事業（最上総合支庁）計画審査委員（2012.4～2013.3）

- (5) 山形県ベストアグリ賞表彰事業審査委員 (2012. 4～2013. 3)
- (6) 講演・有機の里「最上」づくりセミナー、2012. 2. 6、新庄市、参加者50名
- (7) 講演「地域農業を担う人材育成と組織づくり」2012. 2. 5、鶴岡市、参加者100名
- (8) やまがた第6次産業人材創生コンソーシアム全体会議委員 (2012. 4～2013. 3)
- (9) 山形県農業会議専門家派遣事業・専門家 (2012. 4～2013. 3)
- (10) 鶴岡市大泉地区集落営農の法人化に関する講師 (2012. 12. 6、2013. 1. 21) JA鶴岡

藤科智海

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農業経済学会
- (2) 日本農業経営学会
- (3) 日本フードシステム学会
- (4) 農村計画学会
- (5) 東北農業経済学会
- (6) システム農学会
- (7) 地域活性学会

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) やまがた6次産業人材創生コンソーシアム全体会議委員 (2012年4月～2013年3月)
- (2) やまがた6次産業ビジネススクール講師 (2012年8月17日、10月24、25日、11月14日、12月19日、2013年2月20、27日)
- (3) 在来作物の実践講座「おしゃべりな畑」講師 (2012年9月26日)
- (4) 第56回「最上夜学」講演：農業の6次産業化による農山漁村の地域活性化 (2013年2月15日)、場所：真室川、参加人数：56人
- (5) 立山形県研究評価委員 (2012年5月～2013年3月)
- (6) 庄内町6次産業化推進戦略会議委員 (2012年7月～2013年3月)

渡辺理絵

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本地理学会
- (2) 人文地理学会
- (3) 歴史地理学会
- (4) 日本国際地図学会
- (5) 東北地理学会

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) やまがた地域づくりカレッジ―「若者の発想を取り入れた地域づくり」セッションコーディネーター 於：東根市さくらんぼタレントクルセンター 平成24年12月15日
- (2) 山形県景観審議会委員（平成24年2月8日～平成26年2月7日）
- (3) 山形県文化財審議会委員（平成24年7月1日～平成26年6月30日）
- (4) 山形創造NPO支援ネットワーク やまがた地域づくりカレッジ運営協議会委員（平成24年4月1日～平成25年3月31日）
- (5) 山形県庄内総合支庁山形海区漁業調整委員会委員（平成24年8月15日から28年8月14日）

保木本利行

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 村落社会研究学会
- (2) 経済理論学会
- (3) 日本農業経済学会
- (4) 地域農林経済学会
- (5) 政治経済学経済史学会
- (6) 有機農業学会
- (7) 東北農業経済学会

食品・応用生命科学コース

三橋 渉

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本生化学会（東北支部幹事 2000～現在）
- (2) 日本農芸化学会（東北支部連絡委員 2007～現在）
- (3) 日本植物生理学会
- (4) 日本植物学会
- (5) アメリカ植物科学会、日本分子生物学会

小関 卓也

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学会(JABEE対応委員会委員2011～現在)
- (2) 日本生物工学会(北日本支部評議員2011～現在)
- (3) 日本応用糖質科学会(東北支部理事2010～現在)
- (4) 日本醸造学会
- (5) 日本栄養・食糧学会

2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 第46回日本栄養・食糧学会東北支部大会および公開シンポジウム世話人, 鶴岡 (11月)
- (2) 日本農芸化学会2013年度大会JABEEランチョンシンポジウム世話人, 仙台 (3月)

2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) PLoS One (米国), 2件
- (2) Applied Microbiology and Biotechnology (ドイツ), 1件
- (3) Journal of Agricultural and Food Chemistry(米国), 1件
- (4) International Journal of Molecular Sciences(スイス), 1件
- (5) Current Genomics(オランダ), 1件
- (6) Food and Bioprocess Technology(米国), 1件
- (7) Journal of General and Applied Microbiology(日本), 1件
- (8) Journal of Bioscience and Bioengineering(日本), 3件
- (9) Bioscience, Biotechnology and Biochemistry(日本), 2件
- (10) 日本醸造協会誌, 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形セレクション加工食品分野（日本酒）専門委員（2007.4～現在）
- (2) 山形県農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業プロジェクト計画審査会委員（2009.4～現在）
- (3) 山形県庄内総合支庁 庄内発酵食品技術開発研究会委員（2011.7～現在）
- (4) 山形県庄内総合支庁 庄内発酵食品技術開発研究会委員（2011.7～現在）
- (5) 見えてきた！ 賢い食 健康な食 ～発酵食品をじょうずに取り入れる食生活～，雪の里情報館市民セミナー（2013.2.4），新庄

佐藤英世

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本生化学会 評議員（平成24年4月～現在）
- (2) 日本分子生物学会
- (3) 日本栄養・食料学会
- (4) 日本アミノ酸学会
- (5) 日本酸化ストレス学会
- (6) 米国生化学・分子生物学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Free Radical Biology & Medicine（米国）2件
- (2) Plos One（米国）1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 講演 がんとアミノ酸トランスポーター 平成25年1月 鳥取大学医学部 米子市
- (2) 講演 シスチン・グルタミン酸トランスポーターの発現制御と生理機能 平成25年2月 弘前大学医学部 弘前市

豊増知伸

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学会
- (2) 植物化学調節学会（評議員2010～2012）
- (3) 植物生理学会（評議員2012）

2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 植物化学調節学会第47回大会・大会実行委員長：山形県鶴岡市(平成24年10月27日～平成24年10月28日)

2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Journal of Experimental Botany(英国) 1件
- (2) Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry (日本) 1件
- (3) Physiologia Plantarum (欧州) 1件
- (4) Bioengineered Bugs (米国) 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 東京農工大学非常勤講師 (平成24年12月6日、7日)

永井毅

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本水産学会
- (2) 日本農芸化学会
- (3) 日本食品科学工学会
- (4) 日本生化学会
- (5) 日本食品化学学会、日本栄養食糧学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 本学紀要

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 庄内発酵食品技術開発研究会委員 (2012年7月～継続中)
- (2) 鶴岡市庄内浜うめえ魚産地協議会アドバイザー (2012年7月～継続中)
- (3) 平成24年度中核的専門人材養成事業「おしゃべりな畑」講師 (2012年9月～2013年2月)
- (4) 宮城県仙台三桜高等学校出前講義 (2012年10月)
- (5) 平成24年度6次産業ビジネススクール講師 (2013年1月)
- (6) FM山形出演「庄内産四季成り性イチゴ品種を活用したジャムの開発について」 (2013年2月22日)

木村直子

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本畜産学会会員 (2005年～2012年若手企画準備委員)
- (2) 日本繁殖生物学会会員 (2012年～理事、2010年～男女共同参画推進委員およびJRD編集委員)
- (3) 日本受精着床学会会員 (2010年～評議員、2012年～理事)
- (4) 日本哺乳動物卵子学会会員 (2005年～評議員)
- (5) 東北畜産学会 (2011年～評議員)
- (6) 環境ホルモン学会 (2007年～現在)

2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 第105回日本繁殖生物学会大会男女共同参画推進ランチョンセミナー「研究者や理系技術者をパートナーに持つ研究者の研究と家庭の両立」(2012年9月7日、筑波大学大学会館(つくば市))の世話役

2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Reproductive Medicine and Biology (日本) 6件
- (2) Journal of Reproduction and Development (日本) 3件
- (3) Reproduction in Domestic Animals (欧州) 1件
- (4) 山形大学紀要 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 出前講義：宮城県多賀城高等学校(2012年10月25日実施)にて講義 「豊かな未来を目指して、食料-生命-環境科学を多面的に学ぼう！」

塩野義人

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学会
- (2) 植物化学調節学会
- (3) 日本薬学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry, 5件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 未利用微生物の収集と生理活性物質の探索、山形生命科学セミナー、平成23年9月21日(山形大学工学部)
- (2) バイオの窓「大学のサマースクールに参加して」、バイオサイエンスとインダストリー、2012年 VOL.70 NO.4

加来伸夫

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本微生物生態学会
- (2) 日本土壌微生物学会
- (3) 日本農芸化学会
- (4) 日本土壌肥料学会
- (5) 日本水環境学会

2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 日本微生物生態学会大会において「嫌気性界の微生物生態研究部会」を開催（事務局担当）
（平成20年度より毎年開催）

2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Water Research（英国） 1件
- (2) Pedosphere（中国） 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県立鶴岡南高等学校科学部の研究活動への支援・協力・連携（平成20年9月～現在）
- (2) 山形県立鶴岡南高等学校SSH授業講師
- (3) 山形県立農業大学校地域連携会議委員

植物機能開発学コース

阿部利徳

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本育種学会
- (2) 育種学研究編集委員(2009. 10～)
- (3) 日本作物学会
- (4) 日本食品化学工学会
- (5) Crop Science Society of America

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 育種学研究 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県園芸試験場遺伝子組換えDNA安全委員会委員(2004～2012)
- (2) 酒田市バイオ研究センター運営委員会委員(1990～2012)
- (3) 酒田市バイオ研究センターバイオ学習会で講演(2012年7月14日)
- (4) 「ダダチャマメ系新品種、アベチャ33、119、212」について説明：NHKテレビに3回出演
- (5) 帯広畜産大学における十勝農学談話会において「おいしいエダマメの科学」についての招待講演(2012年12月14日)

貫名学

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学会
- (2) 日本菌学会東北支部

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry (日本) 1件

村山哲也

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学会（東北支部参与）
- (2) 日本薬学会
- (3) 日本生薬学会
- (4) 有機合成化学協会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry (日本) 2件

俵谷圭太郎

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壤肥料学会（日本肥料学雑誌編集委員，東北支部評議員）
- (2) 日本土壤微生物学会
- (3) 日本菌学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Soil Science and Plant Nutrition
- (2) Plant and Soil
- (3) 日本土壤肥料学雑誌

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 東北公益文科大学非常勤講師（持続的農林業概論）
- (2) 山形県リサイクル製品認定審査委員会委員
- (3) 鶴岡市環境審議会委員

村山秀樹

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 園芸学会（園芸学会雑誌編集委員2012～現在）
- (2) 日本食品保蔵科学会（評議員2009～現在）
- (3) 植物化学調節学会
- (4) アメリカ園芸学会
- (5) 国際園芸学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) POSTHARVEST BIOLOGY AND TECHNOLOGY 1件

- (2) TURKISH JOURNAL OF AGRICULTURE AND FORESTRY 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県バイオクラスター形成推進会議連携促進・成果活用委員会委員 (2012)
- (2) 公開講座「切り花の品質変化と鮮度保持」、2012年7月21日、場所：農学部
- (3) 第26回全国西洋ナシ研究協議会で講演、2012年7月26日、場所：八戸
- (4) 第56回東北地区農業実験実習講習会講師、2012年7月31日、場所：農学部
- (5) ひらめきときめきサイエンスプログラム「生物の多様性を考える」の開催、2012年9月29日、場所：農学部
- (6) 平成24年度山形県高等学校教育研究会理科部会化学部会ワークショップ講師、2012年10月26日、場所：農学部
- (7) 第13回西洋なしフォーラムで基礎セミナー講師、2012年11月3日、場所東京南青山会館新館
- (8) 6次産業ビジネススクールで「農産物の保存」について講義、2012年11月28日
- (9) 大学コンソーシアム山形主催山形夜話で講演、2012年11月28日
- (10) 在来作物の実践講座「おしゃべりな畑」で「在来作物の包装・保管」について講義、2012年12月11日

江頭宏昌

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) エダマメ研究会 (幹事2002～現在)
- (2) 山形在来作物研究会 (幹事2003～2007、副会長2008、会長2009～現在)
- (3) 日本育種学会、園芸学会、人間・植物関係学会、比較文明学会、KJ法学会、農耕文化研究振興会、雑穀研究会、民族自然史研究会、生き物文化誌学会、農業機械学会、日本DNA多型学会

2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 山形在来作物研究会公開フォーラム「食のカシンポジウムーおきたま・山形の保存食の底力」の主催(おきたま総合支庁、山形大学農学部との共催)：米沢市グランドホクヨウ(平成25年1月26日)

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 鶴岡総合研究所企画講師、鶴岡市食育・地産地消推進協議会委員(2008年～)、鶴岡まちづくり塾アドバイザー、鶴岡食文化創造都市推進協議会委員、焼畑かぶブランド力向上プロジェクト協議会アドバイザー
- (2) 山形県農林水産業活性化推進本部委員 (2009～)委員(2010)、山形県農林水産技術会議委員(2010～)
- (3) 荘内松柏会畑作講師 (2008～)
- (4) JR東日本車内広報誌トランベール5月号特集「山形 畑のちから～旅でめぐる伝統野菜～」情報提供と監修(平成24年3月～5月)
- (5) 寒河江市公民館の依頼で「村山地方の在来作物」と題して講演：映画「よみがえりのレシピ」上映アフタートーク、寒河江市公民館 (平成24年5月13日)

- (6) 雑誌「農耕と園芸」7月号の「特集一伝統野菜の底力」の記事「『ここにしかないもの』＝在来作物その魅力と可能性」について取材協力・写真提供（平成24年5月16日）
- (7) 上山市教育委員会の依頼で「なぜ在来作物を守るのか」と題して講演：ショッピングプラザカミン（平成24年6月8日）
- (8) 内閣府食育推進室の依頼で「山形における在来作物の保存・継承活動と食育」と題してパネルディスカッションで講演：第7回食育推進全国大会、横浜市はまぎんホール（平成24年6月16日）
- (9) 山形銀行地域振興部の依頼で「在来作物の魅力と地域活性化」と題して講演：若手農業者の会、山形商工会議所（平成24年6月18日）
- (10) 映画「よみがえりのレシピ」新庄上映委員会の依頼でトーク：新庄市市民プラザ（平成24年6月23日）
- (11) 山形県立興譲館高校の依頼で「」と題して講演：伝統野菜へのサイエンスアプローチ～よみがえりのレシピより、興譲館高校（平成24年7月6日）
- (12) 映画「よみがえりのレシピ」立谷沢上映委員会の依頼でトーク：立谷沢公民館（平成24年7月8日）
- (13) 山形大学農学部公開講座にて「カブと焼畑」と題して講義（平成24年7月14日）
- (14) 教員免許状更新講習会にて在来作物について講義（平成24年8月8日）
- (15) 山形県新農業推進課の依頼で「食体験ツアー」にアドバイザーとして参加、最上地域（平成24年8月10日）
- (16) 鶴岡第5コミセンの依頼で「庄内地方の在来作物」と題して講義：「しあわせ学園」、第5コミセン（平成24年8月16日）
- (17) 最上町の依頼で「在来野菜と地域活性化」と題して講演：最上赤ニンニクの集い、観松館（平成24年9月2日）
- (18) 京都メディアショップの依頼で「民芸のレッスン 野菜のフォークロア」と題して哲学者鞍田崇史氏と対談：京都MEDIA SHOP（平成24年9月8日）
- (19) 宮城県仙台農業改良普及センターの依頼で「山形県の伝統野菜（在来作物）について」と題して講演：仙台市農業園芸センター（平成24年9月11日）
- (20) 山形大学農学部主催で「在来作物とは何か」と題して講義：「おしゃべりな畑」実践講座、農学部（平成24年9月26日）
- (21) 酒田市立飛鳥中学校の依頼で「北庄内の在来作物」と題して講演：山形大学農学部、（平成24年10月4日）
- (22) 山形大学農学部主催で「在来作物の魅力と利用」と題して講義：「おしゃべりな畑」実践講座、農学部（平成24年10月9日）
- (23) 山形県立鶴岡中央高校の依頼で「庄内の在来作物とそれを継承する意味」と題して講義：「総合大学2012 in鶴岡中央」、鶴岡中央高校（平成24年10月10日）
- (24) 日東ベストの依頼で「山形の在来作物にみる食の原点」と題して講演：第30回日東共栄会総会、グランデール寒河江（平成24年10月18日）
- (25) 味の素食の文化センターの依頼で「焼畑を科学する」と題してパネルディスカッションでミニ講演：食の文化シンポジウム、味の素食の文化センター（平成24年10月20日）
- (26) 財団法人地域活性化センターの依頼でワークショップ「食と農～在来作物の存在と意義を見つめ直す」を主催（コーディネートと講義）：「地域再生実践塾」、鶴岡慶応タウンキャンパス（平成24年10月24日～26日）
- (27) 山形県立鶴岡南高校の依頼で「庄内の在来作物とそれを継承する意味」と題して講義：鶴岡ゼミ、鶴岡南高校（平成24年11月1日）
- (28) （社）山形県栄養士会新庄地区会の依頼で「山形・最上の在来作物とその魅力」と題して講演：平成24年度（社）山形県栄養士会新庄地区会・村山地区会合同研修会、新庄市ゆめりあ（平成24年11月8日）
- (29) 新発田「よみがえりのレシピ」上映実行委員会の依頼で「在来作物が持つ文化の底力」と題して講演：新発田市生涯学習センター（平成24年11月11日）
- (30) 鶴岡市食文化産業創造センターの依頼で鶴岡の在来作物の見学と講義：鶴岡おもてなし講座、庄内産業振興センター（マリカ）（平成24年11月12、19、26日）

- (31) 寒河江市立中央公民館の依頼で「寒河江周辺の在来作物とその魅力」と題して講演：寒河江市成人講座「虹の見聞楽」、寒河江市立中央公民館（平成24年11月15日）
- (32) 鶴岡市立斎小学校PTAからの依頼で「在来作物から考える鶴岡の食文化～地元が誇れる固有の作物と文化を次世代へ」と題して講演：鶴岡市立斎小学校（平成24年11月18日）
- (33) 鶴岡市「ほとりあ」の依頼で「灰を通して考える里山文化」と題して講演：里山Cafe、ほとりあ（平成24年11月23日）
- (34) 映画「よみがえりのレシピ」小国町上映委員会の依頼でトーク：おぐに総合開発センター（平成24年7月8日）
- (35) PALシステム生協広報誌POC021の連載記事「これからの農林漁業の話をしよう 8ー在来作物という『無名の宝』を掘り起こせ」のための面接取材協力（2013年1月号掲載）
- (36) 朝日新聞全国版「食卓のタネあかし」連載記事の取材に協力、記事下「豊かさ個性守ってこそ」（平成24年12月27日）
- (37) 世田谷生活情報センター生活工房のアトツギ展展示（平成24年11月23日～平成25年1月14日）および「アトツギ手帳 庄内の食の継ぎ方」（平成25年1月13日発行）の記事に協力
- (38) ドイツ・ハノーバ大学の学生に「なぜ在来作物が私たちの生活に大切なのか？Why are heirloom crops important for our life?」と題して講義：山形大学農学部（平成25年1月12日）
- (39) いわきリエゾンオフィスの依頼で「未来につなぐ地域の宝・いわき昔野菜」と題して講演：いわき昔野菜フェスティバル、福島県いわき市中央台公民館（平成25年1月29日）
- (40) ミツカン雑誌「水の文化」No. 43 特集「庄内の農力」に取材協力：「山形に息づく在来作物の多様性 種を守る人々」（2013年2月号記事）
- (41) 庄内産直ネットワークの依頼で「在来作物の魅力」と題して講演：庄内産地フォーラム、三川町なの花ホール（平成25年2月9日）
- (42) NHKラジオ第一「日曜あさいちばん」日曜訪問コーナーで在来作物研究に関する江頭へのインタビューを放送：（平成25年2月10日）
- (43) 山形県立山辺高校の依頼で「高校生に伝えたい在来作物のおもい」と題して講義：山辺高校食物科（平成25年2月22日）
- (44) 大石田町教育委員会の依頼で「在来作物と地域活性化」と題して講演：大石田町生涯学習活動推進研究集会、大石田町福祉会館（平成25年3月3日）
- (45) 福井県の依頼で「伝統野菜の魅力と今後の振興方向を考える」と題して講演：福井市（平成25年3月12日）
- (46) 伝統の福井野菜振興協議会の依頼で「伝統野菜の魅力と活用ー山形県の事例から」と題して講演：鯖江市文化の館（平成25年3月12日）
- (47) 山形市立図書館の依頼で「在来作物の魅力」と題して講演：山形市立図書館（平成25年3月16日）
- (48) 国立民族学博物館の依頼で本館展示「日本の文化」の焼畑について情報・写真と映像を提供（平成25年3月22日）

程為国

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本土壌肥料学会（英文誌SSPN編集委員2009～現在）
- (2) 日本土壌微生物学会
- (3) 日本作物学会
- (4) 日本気象学会
- (5) Soil Science Society of America
- (6) American Geophysical Union

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Biology and Fertility of Soils 11件
- (2) Agriculture, Ecosystems & Environment 9件
- (3) Plant and Soil 2件
- (4) Environmental and Experimental Botany 1件
- (5) Journal of Soils and Sediments 1件
- (6) Science of the Total Environment 1件
- (7) Bulletin of Yamagata U 1件

笹沼恒男

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本遺伝学会
- (2) 日本育種学会（東北地域代表幹事2012年～）
- (3) 日本作物学会
- (4) 文部科学省ナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）コムギ小委員会委員（2003～現在）、（データベースWG座長2012～現在）
- (5) 研究情報電子ジャーナル Wheat Information Service（eWIS）編集委員（2005～現在；副編集長2008～2009；編集長2010～2011）

2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 第33回種子生理生化学研究会年会・世話人：湯野浜温泉愉海亭みやじま（平成24年11月10日～11日）

2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Journal of Bioscience and Bioengineering（日本） 1件
- (2) Australian Journal of Botany（オーストラリア） 1件
- (3) Genes and Genomics（韓国） 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会事務局員（2012年～）
- (2) 山崎香辛料振興財団 第15回スパイス&ハーブ研究成果セミナー「トウガラシの辛味成分及び果実色素合成遺伝子の多様性」講師（2012年7月4日）
- (3) 平成24年度山形大学農学部公開講座「身近な生物を探る 一土・微生物・植物の世界ーコムギとバナナの進化と多様性」講師（2012年7月28日）
- (4) 山ホームメイド協会機関誌ベンチタイムにて、コラム「御存知ですかこんなこと」連載（年3回）（2006年11月～現在）

及川彰

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本農芸化学会
- (2) 園芸学会
- (3) 植物化学調節学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Journal of Agricultural Food Chemistry (米国) 1件
- (2) Journal of Plant Physiology (独国) 1件
- (3) Current Metabolomics (米国) 1件
- (4) Journal of Experimental Botany (英国) 1件
- (5) Metabolomics (英国) 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 第2回高校生バイオサミットin鶴岡に審査員として参加 (2012. 8. 5-7.)
- (2) 「農作物を科学する」について講演：山形大学主催おしゃべりな畑 (2012. 12. 11.)
- (3) 「科学 x 在来作物」について講演：鶴岡市未来創生講座 (2012. 12. 13)

森林科学コース

菊間満

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 林業経済学会、日本協同組合学会、東北森林科学会
- (2) 東日本入会・山村研究会、日本住宅会議、建設政策研究所、協同総合研究所（理事）、伝統木構造の会

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県高齢者生活協同組合理事長（2012～2013）、協同総合研究所理事（2011～2013）、国民森林会議評議員（2010～2012）、林業経済研究所評議員（2012～2013）、さかた木づかい夢ネット顧問（2012～2013）、酒田地区水平連携事業オブザーバー（2010～2012）、出羽商工会庄内型エコハウス研究会企画専門委員会委員（2011～2012）、酒田市森林整備計画変更検討委員会委員（2012）
- (2) 「研究室学生の酒田市民への卒論発表会」でコメント（平成25年3月8日）、主催：さかた木づかい夢ネット、場所：酒田市港南コミュニティセンター、参加者：15人
- (3) 出羽商工会、庄内型エコハウス研究会（2012）：庄内風土（第2号）にコメントを寄稿
- (4) 出羽商工会（2012）：出羽商工会会報（第21号）で、庄内風土にあった家と暮らしについて、座談会
- (5) 庄内型エコハウス研究会に委員として参加し、アワード選定に参画
- (6) 山形県高齢者福祉協同組合理事会において、協同組合理論について参加理事に講義（22名）、2013年1月25日

野堀嘉裕

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本森林学会
- (2) 森林計画学会
- (3) 東北森林学会（副会長理事）
- (4) 比較文明学会

2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 2012年12月：東北森林管理局との連携シンポジウム（山形大学農学部）

2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本森林学会（2011）3件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県森林審議会会長 (2011～)
- (2) 山形県文化環境部CO2固定認証評価検討委員会会長 (2009～)
- (3) 鶴岡市景観審議会 (2010～)
- (4) 鶴岡市公園整備計画懇談会座長 (2010～)

高橋孝悦

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本木材学会(幹事 現在)
- (2) 日本林学会
- (3) 日本醸造学会
- (4) 日本紙パルプ技術協会(木材科学委員会委員 現在)
- (5) 東北森林科学会
- (6) International Society of Chemical Ecology

2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 第57回リグニン討論会幹事：福岡県福岡市 (平成24年11月)

2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Journal Wood Science (日本) , 2件
- (2) Holzforschung (独国) 1件

林田光祐

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本森林学会
- (2) 日本生態学会
- (3) 日本海岸林学会 (副会長 2008～現在)
- (4) 東北森林科学会
- (5) 植生学会
- (6) 日本鳥学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Plant Species Biology (日本) 1件
- (2) 山形大学紀要 (農学) 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県環境審議会委員(2005～現在)、山形県自然環境モニタリング総合検討委員会委員(2007～現在)、山形県特定鳥獣保護管理検討委員会委員(2009～現在)、山形県生物多様性地域戦略策定検討委員会委員(2012～現在)、月山地区環境委員会委員(2012)、飯豊山周辺森林生態系保護地域の保全管理に関する連絡調整会議委員(2007～現在)、クマタカ希少野生動植物種保護管理対策調査に係る検討委員会委員(2011～現在)、庄内自然博物館構想推進協議会委員(2012～現在)
- (2) 希少野生動植物種保存推進員(2012～現在)、平成24年度山地保全調査(海岸防災林現況調査)事業検討委員会委員(2012～2013)、交付金プロジェクト「東日本大震災で被災した海岸林の復興技術の開発」外部評価委員(2012～現在)
- (3) 湿地保全サポーターの指導：鶴岡市大山都沢湿地(平成24年4月14日、6月9日、9月8日、10月6日、10月20日の5回)
- (4) 「鶴岡市大山の自然と保全活動」について説明：YBCテレビピヨ卵ワイドに出演(平成24年5月2日)
- (5) 鶴岡市自然学習交流館オープン記念講演「庄内自然博物館構想のこれまでとこれから」：鶴岡市自然学習交流館(平成24年5月3日)
- (6) 「座学・里山Café♪」での講演「元里山としての高館山の魅力」：鶴岡市自然学習交流館(平成24年5月5日)
- (7) 「やまがた森の感謝祭」での講演「高館山周辺地域の自然環境と保全」：いこいの村庄内(平成24年6月2日)
- (8) 「津波被害を受けた海岸林の再生」に関するコメント：朝日新聞全国版「グリーンウェイブ2012」の記事(平成24年6月19日)
- (9) 第5回松原再生シンポジウム「これからの松原、地域を再生するために」でのパネリストとして講演：日本緑化センター主催、東京国際フォーラム(平成24年6月27日)
- (10) 平成24年度第1回鶴岡・森の案内人(森のソムリエ)講習会での講演および現地研修会講師「都沢湿地における攪乱の重要性」：鶴岡市自然学習交流館(平成24年6月30日)
- (11) 山形県森林環境教育指導者研修会の講師：山形県森林研究研修センター主催、山形県寒河江市(平成24年7月31日～8月1日)
- (12) 出羽庄内地域文化情報誌「Cradle」9月号での特集「大山の自然あるき」の案内人と解説(平成24年9月)
- (13) 「農学のタベ」での講演「海岸林の生態系サービスと震災後の再生に向けて」(平成24年11月29日)
- (14) 鶴岡市立山戸小学校の総合学習「学びの森・森の学習」での指導(平成25年2月8日)
- (15) 第3回卒原発意見交換会における講演「海岸砂草地の生物多様性」：NPO法人庄内海岸のクロマツ林をたたえる会主催、酒田市勤労者福祉センター(平成25年3月31日)
- (16) 「海岸砂丘の自然環境とその保全」に関するコメント：YBCテレビのローカルニュースに出演(平成25年3月31日)

小山浩正

2-① 学会活動

2-①-① 所属学協会及びその役職

- (1) 日本森林学会評議員(2010.4～2012.3)
- (2) 日本森林学会編集委員(2012.4.～2015.3)

- (3) 森林立地学会地域幹事（東北）（2011.5～）
- (4) 森林計画学会
- (5) 東北森林科学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本森林学科誌(日本) 編集担当 6編
- (2) Ecological Research(日本) 1編
- (3) Plant Species Biology(日本) 1編
- (4) International Journal of Forestry Research(米国) 1編

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 森のソムリエ講習会講師（鶴岡市主催）（平成24年10月13日；上名川演習林）
- (2) 森Cafeにて講演（環境教育工房LinX）「森の木々の賢い生き方♪」（平成24年11月11日（日）鶴岡市自然学習交流館ほとりあ）
- (3) 地域産業振興センター評議員（2010年～2013）
- (4) 鶴岡市森林文化研究会委員(2006年～)
- (5) 鶴岡市広葉樹の森整備計画検討委員(2006年～)
- (6) 山形県農林水産会議（2010年～2013）
- (7) 山形県アドバイザー・ボードメンバー（2012～2015）
- (8) 東北森林管理局 鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊（土湯の森）自然再生実施協議会委員（2012～）
- (9) 公益財団法人リバーフロント研究所 河川・海岸環境機能等検討委員会委員（2012～2013）

芦谷竜矢

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本木材学会
- (2) 日本化学会
- (3) 日本セラミック協会
- (4) 日本木材加工技術協会
- (5) 東北森林科学会
- (6) International Society of Chemical Ecology

2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 第63回日本木材学会大会・抽出成分部門コーディネーター
- (2) 第63回日本木材学会大会・口頭発表座長（抽出成分部門2件）：岩手県盛岡市

2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) Journal Wood Science (日本), 3件
- (2) ACS Sustainable Chemistry & Engineering (米国), 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県高等学校教育研究会理科部会・化学部会ワークショップにて講義(平成24年10月26日)

菊池俊一

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本森林学会(学会誌編集委員会委員2012～2014)
- (2) 日本生態学会
- (3) 日本地形学連合
- (4) 日本地すべり学会
- (5) 日本緑化工学会
- (6) 森林立地学会
- (7) 東北森林科学会(主事(企画)2012～2014, 学会誌編集委員2012～2014)
- (8) 日本海岸林学会

2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 東北森林科学会第17回大会・大会運営委員会事務局:秋田県秋田市(平成24年8月22日～平成24年8月23日)

2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本森林学会誌編集 5件
- (2) 山形大学紀要(農学) 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 山形県公共事業評価監視委員会委員(2012年4月13日～2014年3月31日)
- (2) 鶴岡市環境つるおか推進協議会委員および監事(2012年4月14日～2013年3月31日)
- (3) 北海道建設部専門員(2012年4月～2013年3月31日)
- (4) 東北森林管理局事業評価技術検討会委員(2012年6月12日～2014年3月31日)
- (5) 福島県国見町森林委員会委員(2012年9月27日～2013年11月21日)
- (6) (特活)山形創造NPO支援ネットワークやまがた地域づくりカレッジ運営協議会委員(2012年7月31日～2013年3月31日)
- (7) 山形県農林水産技術会議委員(2013年2月14日～2015年2月13日)
- (8) 「ギャップが育む多様性ー森の移ろいから教わることー」について講演:第3回さかた寺子屋塾、山形県酒田市峰鷲院、2012年4月19日

- (9) 「第3回さかた寺子屋塾」について説明、TUY「えこいろ 第147回」に出演、2012年4月30日放映
- (10) 「不用自転車の有効活用から人の輪の修復へ」について講演：平成24年度鶴岡市廃棄物減量等・環境保全推進員研修会、山形県鶴岡市中央公民館、2012年7月5日
- (11) 「登山道はなぜ荒れたのか？」について講演：飯豊連峰保全連絡会技術部会主催2012年度飯豊保全技術講習会、山形県小国町天狗平ロッジ、2012年8月18日
- (12) 「レクリエーション利用に配慮した森林整備について」について講演：山形県庄内総合支庁主催平成24年度出羽庄内公益の森づくり事業－ボランティア研修－、山形県酒田市悠々の森温泉、2012年11月24日
- (13) 「上と下の関連－流域的視点から環境保全型地域づくりを考える－」について講演とファシリテーター：やまがた地域づくりカレッジ運営協議会主催「やまがた地域づくりカレッジ」, 山形県東根市さくらんぼタントクルセンター, 2012年12月15日
- (14) 「仙台平野における海岸林被害の要因と今後の再生に向けて」について講演：山形県庄内総合支庁主催平成24年度出羽庄内公益の森づくり事業－森づくりフォーラム－、津波と海岸林、山形県三川町庄内総合支庁、2013年1月23日
- (15) シンポジウム「森が人に与えてくれるもの」において司会進行役：山形大学農学部・東北森林管理局連携シンポジウム、2013年1月25日、場所：山形大学農学部301講義室、参加人数：120人
- (16) 「2012/3/11 19時鶴岡にキャンドルが灯った理由」について講演：酒田市生涯学習施設里仁館主催「庄内じもとで応援隊」講演会、山形県酒田市里仁館、2013年2月3日
- (17) 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会の事務局：2011年4月1日～継続中
- (18) 出羽庄内公益の森づくりを考える会および松原再生計画推進部に学識経験者として参画：2011年4月～継続中、場所：庄内総合支庁舎
- (19) 飯豊連峰保全連絡会の幹事会及び全体会合に学識経験者として参加：2011年4月～継続中、場所：山形県小国町、新潟県関川村、福島県喜多方市、福島県北桜原村
- (20) 朝日連峰保全協議会の幹事会及び全体会合に学識経験者として参加：2011年12月～継続中、場所：山形県小国町
- (21) 東日本大震災からの復興を支援する山形大学農学部学生ボランティア・プロジェクト「走れ!! わあのチャリ」の設立および活動全般に関してのアドバイザー：2011年4月20日～継続中

早尻正宏

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 東北森林科学会（会員）
- (2) 日本社会教育学会（会員）
- (3) 日本地域経済学会（会員）
- (4) 日本森林学会（会員）
- (5) 林業経済学会（会員）

2-①-(ii) 学会の主催等

- (1) 第23回東北の社会教育研究集会（主催：「東北の社会教育研究集会」実行委員会、場所：南陽市中央公民館、日時：2012年11月10～11日）*実行委員

2-①-(iii) 論文審査の依頼等

- (1) 日本森林学会誌（日本）1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 鶴岡市地域コミュニティあり方検討委員会（鶴岡市）（2012年3月～2013年3月） *委員
委嘱
- (2) 平成24年度「緑の雇用」現場技術者育成対策の評価に関する調査検討委員会（全国森林組合
連合会）（2012年4月～2013年3月） *委員委嘱

水土環境科学コース

大久保博

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 農業農村工学会、砂防学会、応用生態工学会、環境情報科学会

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 最上川水系流域委員会委員、東北地方整備局山形河川国道事務所・山形県県土整備部、平成22年10月1日～平成24年9月30日
- (2) 東北地方整備局事業評価監視委員会委員、国土交通省東北地方整備局、平成23年7月1日～平成25年3月31日
- (3) 技術検討委員会委員、社団法人地域環境資源センター、平成23年7月21日～平成25年3月31日
- (4) ゆとりとうるおい空間整備推進委員会委員、山形県農林水産部、平成23年10月6日～平成25年3月31日
- (5) 山形ブロック総合評価委員会委員、国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所、平成24年4月4日～平成25年3月31日
- (6) 赤川水系河川整備学識者懇談会委員、国土交通省東北地方整備局・山形県県土整備部、平成24年4月4日～平成25年3月31日
- (7) 総合評価落札方式による入札を行う場合に意見を聴取する学識経験者、山形県農林水産部、平成24年5月15日～平成25年3月31日
- (8) 客員研究員、一般財団法人日本水土総合研究所、平成24年7月5日～平成25年3月31日
- (9) 第18回庄内・社会基盤技術フォーラムの開催（運営委員長）：酒田市公益研修センター、平成25年1月24日

奥山武彦

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 日本地すべり学会（理事2004～現在）
- (2) 農業農村工学会
- (3) 土木学会
- (4) 地盤工学会（災害連絡会議地方連絡委員）

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 農業農村工学会 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 東日本高速道路株式会社東北支社山形地域技術懇談会委員（24.4.24～26.3.31）
- (2) 財団法人日本水土総合研究所客員研究員（24.7.5～25.3.31）
- (3) 財団法人日本水土総合研究所 土地改良施設耐震性能設定等検討委員会委員（24.12.11～25.3.31）

- (4) 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所 新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業外部評価委員 (24. 8. 3～25. 3. 31)
- (5) 農林水産省農村振興局 官民連携新技術研究開発事業審査委員会委員 (23. 8. 19～26. 8. 18)
- (6) 関東農政局 国営土地改良事業等の事後評価に係る技術検討会委員 (24. 5. 30～25. 3. 31)
- (7) 社団法人斜面防災対策技術協会 「地すべり防止工事士」技術講習会講師 (24. 7. 14)

安中武幸

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 農業農村工学会 (代議員2011～現在)
- (2) 土壌物理学会 (評議員2011～現在)
- (3) 地盤工学会 (「災害連絡会議」地方連絡委員 (東北 山形県) 2010～現在)
- (4) 日本砂丘学会
- (5) 日本土壌肥料学会

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 土壌の物理性 1件
- (2) Soil Science & Plant Nutrition 1件
- (3) 農業農村工学会論文集 2件
- (4) Water Resources Research 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 計画基準農業用水 (畑) 意見聴取会意見聴取者 (2012年度)

渡部徹

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 土木学会 (1998～現在, 東北支部幹事2010～現在, 環境工学委員会委員兼幹事2011～現在)
- (2) 日本水環境学会 (1998～現在, 震災対応検討タスクチーム2011～現在)
- (3) Society for Risk Analysis (2009～現在)
- (4) International Water Association (2000～現在)
- (5) 農業農村工学会 (2011～現在)

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) Water Research (英国) 4件
- (2) Journal of Water Supply: Research and Technology - AQUA (英国) 1件

- (3) Journal of Water and Health (英国) 1件
- (4) Sustainability Science (日本) 1件
- (5) Hydrological Research Letters (日本) 1件
- (6) Journal of Water and Environment Technology (日本) 1件

2-② 社会活動・地域貢献活動

- (1) 「私たちの身近な水質問題」について講演：山形大学農学部・農学の夕べ（平成25年1月10日）

花山奨

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 農業農村工学会
- (2) 日本土壌肥料学会
- (3) 土壌物理学会
- (4) 土壌物理学会(編集委員2011～2013)

2-①-(ii) 論文審査の依頼等

- (1) 土壌の物理性 1件

プロジェクト教員

伊藤紘晃

2-① 学会活動

2-①-(i) 所属学協会及びその役職

- (1) 土木学会
- (2) 日本水環境学会
- (3) American Society of Limnology and Oceanography

③産学官など国内他機関との連携研究実績

(研究費を受けていない場合も含む)

安全農産物生産学コース

安藤豊

- (1) 名古屋大学：熱帯泥炭湿地を利用した持続的・低環境負荷の食料・エネルギー生産技術の確立(2000年～現在)
- (2) 名古屋大学・九州大学：杭州湾沿岸地帯に分布する年代の異なる水田（30～2,000年の栽培来歴）の土壌有機炭素プールの安定性と土壌炭素の増減に関する研究
- (3) 高知大学：サゴヤシ野生林の実態解明と持続的利用に関する研究

西澤隆

- (1) 早田ウリの生理・生態的特性とその利用に関する研究並びに書籍出版（地域産学官連携プロジェクト）
- (2) 園芸作物の環境制御および有効利用に関する研究（山形県自動車販売リサイクルセンター）
- (3) 有機EL照明を用いた野菜栽培に関する研究（山形大学工学部）
- (4) 『甘糖くん』を用いた生ごみ分解処理に関する実用化研究（関東農産）

平智

- (1) 山形県庄内総合支庁：「食の都庄内」推進会議アドバイザー（2010～現在）
- (2) 山形県最上総合支庁：やまぶどう研究会アドバイザー（2007～現在）

堀口健一

- (1) 住友商事東北 「反芻家畜におけるジャトロファ残さの飼料特性の解明に関する調査研究」
2012年10月～2013年5月
- (2) コーキン化学・清水港飼料 「鶏卵の卵殻強度改善に関する研究」 2012年10月～2013年5月

小笠原宣好

- (1) 東北農業研究センター：リンドウの生育特性に関する研究，2012年5月～2013年3月

長谷修

- (1) 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会 野菜花き病害研究ユニット, 2012年4月～継続

片平光彦

- (1) 秋田県農業公社：ソフトセルロース利活用技術確立事業, 2009年～2012年
- (2) 秋田県農林水産技術センター：副生グリセリンを活用する暖房機を組み合わせた秋冬期の寒冷地省エネ花き生産技術確立, 2010年～2012年
- (3) オーテック：シラスバルーンを用いた省エネ施設でエネルギー自給型菌床シイタケ通年栽培の確立, 2012

森静香

- (1) (独) 理化学研究所(鶴岡)：潮風害を受けた水稻のメタボローム解析に関する連携研究、2012年4月～2013年3月(科研費)
- (2) (独) 農業環境技術研究所：資材中のケイ酸形態に関する連携研究、2012年4月～2013年3月(科研費)
- (3) 山形県、鶴岡市：未利用資源の資材化に関する連携研究、2012年4月～2013年3月(東北創生研究所)
- (4) (独) 理化学研究所：水稻における塩耐性系統の塩分付着害に関する連携研究、2012年5月～2013年3月
- (5) 大塚アグリテクノ(株)：「垂りん酸肥料の施用が水稻の生育、品質および収量に及ぼす影響」に関する連携研究、2012年7月～2013年3月
- (6) サカタのタネ(株)：「ココ楽マットを用いた育苗試験」に関する連携研究、2012年4月～2013年3月

佐々木由佳

- (1) 名古屋大学大学院生命農学研究科：熱帯泥炭湿地における環境農業—サゴヤシ栽培の炭素シンク機能と生産技術の改善
- (2) 名古屋大学大学院生命農学研究科：SATREPS(テラーメイド育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト)
- (3) 東京農工大学：ハイパースペクトルセンサによる水稻収量・品質、大豆収量・品質、土壌成分推定のための研究
- (4) JA鶴岡：だだちゃ豆の連作障害防止に関する研究
- (5) 株式会社関東農産：だだちゃ豆栽培における有機質肥料の連用効果に関する研究

食農環境マネジメント学コース

小沢互

- (1) 自給飼料多給による高付加価値豚肉生産技術の開発（研究代表者・吉田宣夫）・平成22年4月～平成27年3月（農林水産省）
- (2) 科学研究・基盤研究（B）集落営農と企業的経営の連携による地域水田農業の高度化に関する研究（研究代表者・佐藤了秋田県立大学教授）・平成22年4
- (3) 科学研究・基盤研究（C）ナラティブアプローチによるパス依存型ネットワーク経営の世代間継続要件に関する研究（研究代表者・長谷部正東北大学教授）・平成22年4月～平成25年3月
- (4) やまがた第6次産業（農商工連携）人材創生プロジェクト（やまがた6次産業人材創生コンソーシアム、管理法人・フィデア総研）におけるプログラム開発リーダー
- (5) 耕種農家と畜産業の連携によるコスト低減と付加価値化ー飼料用米生産主要県の山形県（養豚業）と青森県（養鶏業）を対象にー、平成24年6月～平成25年3月（農畜産業振興機構・畜産関係学術研究委託調査）

角田毅

- (1) 国際農林水産業研究センター：アフリカ低湿地における低投入稲作技術の開発
- (2) 山形県：耕作放棄地からの価値創出！ワラビの早期成園化技術の開発
- (3) 北海道大学大学院農学研究科：後継者がいない農業経営者の資産計画と生活設計に関する研究
- (4) 秋田県立大学生物資源科学部：東北水田地帯における田畑輪換作の現局面と農法変革に向けた条件に関する研究
- (5) 秋田県立大学生物資源科学部：集落営農と企業的経営の連携による地域水田農業の高度化に関する研究

藤科智海

- (1) 農林水産省：飼料用米生産の農業経営と地域社会に与える効果、『自給飼料多給による高付加価値豚肉生産技術の開発』（2012年4月～2013年3月）

食品・応用生命科学コース

三橋渉

- (1) 理化学研究所 植物科学研究センター

佐藤英世

- (1) 鳥取大学医学部：肺におけるシスチン・グルタミン酸トランスポーターの機能（平成24年4月1日～平成25年3月31日）
- (2) 東邦大学理学部：免疫系におけるシスチン・グルタミン酸トランスポーターの機能（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

永井毅

- (1) 鶴岡市：庄内浜水産物に関する研究
- (2) 山形県漁業協同組合：庄内浜で水揚げされる魚介類の高付加価値化に関する研究
- (3) 山形県庄内支庁：発酵食品に関する研究
- (4) JA櫛引農工連：地域食材の高付加価値化に関する研究
- (5) 山形県：地域食材、特に規格外品の高付加価値化研究

木村直子

- (1) 平成24年度地域産学官連携プロジェクト「庄内産ブランド豚の低コストかつ安定生産を目指した高受精能なブタ凍結精液作製法の研究」にて、山形県農業総合研究センター養豚試験場と共同研究
- (2) 東北大学加齢医学研究所共同研究員(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

加来伸夫

- (1) 東京薬科大学：メタン発酵ならびに微生物燃料電池に関する研究，2011年～現在
- (2) 山形県自動車販売店リサイクルセンター：資源リサイクルに関する研究

渡辺昌規

- (1) (株) サタケ、食協：米糠、無洗米製造排水からの有価資源回収に関する研究，2012年4月～現在
- (2) 広島県総合研究所食品工業技術センター：米のタンパク質組成と静電的特性の解析，2013年1月～2013年3月
- (3) 阿部ベイコク：主要生産米「はえぬき」由来バイオマスの再資源化とその事業化に関する研究，2012年11～現在
- (4) 大道山竹炭工房：竹炭を用いた学習教材用空気電池の開発，2012年4月～現在

植物機能開発学コース

阿部利徳

- (1) 酒田市：大豆・枝豆の品種改良 2012年6月～2013年3月
- (2) JA鶴岡：新ダダチャ豆の育成及び試験栽培 2012年6月～2013年3月

村山哲也

- (1) (有) 米作：漢方生薬の高品質、大規模栽培法の研究開発及び生薬その他の植物機能の応用に係る実現可能性

俵谷圭太郎

- (1) 農林水産省農林水産技術会議事務局：「地域内資源を循環利用する省資源型農業確立のための研究開発」

村山秀樹

- (1) 山形県農林水産部と「りんご研究」連携ユニットならびに「西洋なし品種開発・生理研究ユニット」連携ユニットで研究活動
- (2) 山形県が採択された農水省実用技術開発事業の研究分担

江頭宏昌

- (1) (独法) 農業・食品産業技術総合研究機構・作物研究所:ダダチャマメ等のエダマメ在来品種間の食味、機能性成分の相違に関する研究 (平成20年11月4日～平成26年3月31日)
- (2) 慶応先端生命研究所:エダマメの食味成分に関するメタボローム解析

程為国

- (1) 山形県農業総合研究センター：農耕地からの温室効果ガス削減技術の研究、2012年4月～2013年3月
- (2) 農業環境技術研究所：地球温暖化に関する研究、2012年4月～2013年3月

笹沼恒男

- (1) 農研機構作物研究所、農研機構近畿中国四国農業研究センター：ムギ類耐湿性向上のための日本在来野生ムギ類の利用に関する研究、2007年4月～現在
- (2) 京都大学農学研究科：コムギ・エギロプス属の系統進化、遺伝的多様性に関する研究：2002年5月～現在
- (3) 岡山大学資源植物科学研究所；ロシア・北コーカサスのムギ類遺伝資源の多様性解析と育種利用に関する共同研究：2010年6月～現在
- (4) 岡山大学農学部：東アジアのムギ類遺伝資源の調査研究：2011年4月～現在

及川彰

- (1) 名古屋大学, 山形県農業総合研究センターなど, バラ科果樹果実のメタボローム解析について共同研究(生研) 2009-2013.
- (2) 高知大学, アブラムシの宿主特異的応答についての共同研究(科研費) 2011-2013
- (3) 鳥取大学, ナシの形態形成についての共同研究(科研費) 2012-2013

森林科学コース

野堀嘉裕

- (1) モンゴル海外学術調査共同研究(武田一夫:帯広畜産大学、溝田智俊:岩手大学)(2010年3月～)
- (2) 木質バイオマス資源調達システム構築調査事業(山形県庄内総合支庁長)(2012～)

高橋孝悦

- (1) 秋田県立大学木材高度加工研究所:木質資源の高度利用についての研究, 継続中
- (2) クマイイ化学:天然由来の植物害虫抑制剤について研究:継続中

林田光祐

- (1) 「震災後の海岸林再生に向けた広葉樹の津波に対する耐性の評価と海岸林造成方法の提案」に関する研究代表者(三井物産環境基金東日本大震災復興助成2011.9～2013.9)
- (2) やまがた森林環境学習推進研究ユニット:山形県森林研究研修センターとの共同研究

菊池俊一

- (1) 山形県森林研究研修センター:庄内海岸砂丘林の管理・保全技術に関する連携研究、2011年4月～
- (2) 山形県森林研究研修センター:太平洋側津波被災海岸林の被害状況と再生に関する連携研究、2011年4月～
- (3) 山形県内水面水産試験場:YELL-Stream(エールストリーム、Yamagata Environmental Linkage of Life with Stream、人と川の環境連携)に関する連携研究、2011年4月～
- (4) (財)前田一歩園財団:北海道阿寒川水系の森と水に関する連携研究、2012年6月～2013年3月

芦谷竜矢

- (1) 九州大学：樹木成分化学についての研究，継続中
- (2) 秋田県立大学木材高度加工研究所：木質材料の化学加工についての研究，継続中
- (3) クミアイ化学：天然由来の植物害虫抑制剤について研究：継続中
- (4) 鶴岡工業高等専門学校：木質廃材の金属炭化物への利用について研究：継続中
- (5) ネクス株式会社：バイオマス由来プラスチック材料の性能評価：継続中

水土環境科学コース

大久保博

- (1) 山形県内水面水産試験場：砂防ダムスリット化後のサクラマスの産卵床に関する研究 他、平成24年4月1日～平成25年3月31日

石川雅也

- (1) 大規模灌漑事業の持続性および農村地域社会の開発効果に関する共同研究（海外科研B、東大・筑波大・北里大・弘前大・山形大・三重大）

渡部徹

- (1) 東京大学，東北大学，金沢大学：熱帯地域に適した水再利用技術の研究開発，2009年4月～現在
- (2) 国立国際医療研究センター研究所：ラオス国の再定住地区住民の水系感染症とそのリスク管理手法開発に関わる国際協力研究，2010年4月～2013年3月
- (3) 東北大学，北海道大学：水環境におけるヒトノロウイルス未知動態の解明，2012年4月～現在
- (4) 北海道大学：水循環の基盤となる革新的水処理システムの創出，2011年4月～現在
- (5) 東京大学：都市における健康リスク評価研究国際基盤形成，2011年4月～現在
- (6) 東北大学，宮城県保健環境センター，東京大学：迅速・高精度・網羅的な病原微生物検出による水監視システムの開発，2011年10月～現在
- (7) 東京工業大学，カセサート大学（タイ）：アジアにおける都市水環境の保全・再生のための研究教育拠点，2011年9月～現在
- (8) 東京大学，金沢工業大学：アジア都市を対象とした気候変動下における健康リスク定量化モデルの構築，2011年10月～2012年9月
- (9) 東京大学，愛媛大学，総合地球環境研究所：気候，土地利用，人口の変化が引き起こす新たな健康リスクの予測モデル構築とその検証に関する研究基盤形成，2011年10月～現在
- (10) 東北大学，金沢大学，カセサート大学（タイ）：東南アジアの水環境における薬剤耐性菌と耐性獲得経路の推定，2012年4月～現在
- (11) 金沢大学，カセサート大学（タイ）：熱帯アジアの下水処理施設における大腸菌の薬剤耐性獲得に関する実証的研究，2012年4月～2013年3月

④海外研究者との研究活動

安全農産物生産学コース

安藤豊

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 中国：JST-MOST共同研究（4月、6月、10月および3月、計4回渡航）
- (2) インドネシア：科研費によるSRI現地圃場視察（8月）
- (3) マレーシア：科研費によるサゴ調査（8月、3月）
- (4) ウガンダ、ケニア：稲作振興プロジェクトによる現地視察(5月)
- (5) 韓国：国際土壌科学会議中間会議(6月)

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2011年2月から：杭州湾沿岸地帯に分布する年代の異なる水田（30～2,000年の栽培来歴）の土壌有機炭素プールの安定性と土壌炭素の増減に関する研究（JST-MOST研究交流）
- (2) 2011年 熱帯泥炭に関する共同研究（マレーシアサラワク熱帯泥炭研究所所長ルリー博士と共同研究）科研費
- (3) 2011年 SRIに関する共同研究（ガジヤマダ大学ベニト准教授と共同研究）

西澤隆

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2013年3月21～27日 タイ（チェンマイ大学）、ラオス（北部農林大学）、国際共同研究及び国際交流協定に関する打合せ

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) チェンマイ大学・科学技術研究所・研究員 Wilawan KUMPOUN（ウィラワン・カンブーン）、果実の貯蔵生理障害に関する国際共同研究及びセミナーの実施

角田憲一

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2012年4月 中国：日本ー中国、気候変動に関する研究調査
- (2) 2012年9月 インドネシア：サゴヤシ自然植生を利用した持続的栽培方法に関する研究
- (3) 2013年3月 インドネシア：サゴヤシ自然植生を利用した持続的栽培方法に関する研究

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2011年4月 日本—中国、気候変動に関する委託研究（浙江省農業科学院符健栄氏）

佐々木由佳

4－① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2012年4月5日～4月11日、中国：浙江省農業科学院におけるJST-MOST（杭州湾沿岸地帯に分布する年代の異なる水田（30～2,000年の栽培来歴）の土壤有機炭素プールの安定性と土壤炭素の増減に関する研究）の研究打ち合わせ、現地調査、土壌採取
- (2) 2012年8月19日～8月29日、マレーシア：熱帯泥炭湿地における環境農業—サゴヤシ栽培の炭素シンク機能と生産技術の改善に関する現地調査、試料採取、研究打ち合わせ
- (3) 2012年10月20日～10月29日、ケニア：SATREPS（テラーメード育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト）に関する現地調査、研究打ち合わせ
- (4) 2013年3月2日～3月8日、ベトナム：ハノイ農業大学との国際共同研究（東アジアにおける無農薬・無化学肥料・無除草剤による低投入環境保全型水稻栽培の確立）の圃場試験の実施、研究打ち合わせ
- (5) 2013年3月14日～3月21日、ベトナム：ハノイ農業大学との国際共同研究（東アジアにおける無農薬・無化学肥料・無除草剤による低投入環境保全型水稻栽培の確立）の圃場試験の実施、研究打ち合わせ

4－② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) マレーシア、熱帯泥炭湿地を利用した持続的サゴヤシ栽培に関する研究、共同研究者：Tropical Peat Research Laboratory UnitのDr. Lulie Melling、2010年～
- (2) 中国、JST-MOST（杭州湾沿岸地帯に分布する年代の異なる水田（30～2,000年の栽培来歴）の土壤有機炭素プールの安定性と土壤炭素の増減に関する研究）、共同研究者：浙江省農業科学院のMr. Fu Jianrong、2011年～
- (3) ベトナム、国際共同研究（東アジアにおける無農薬・無化学肥料・無除草剤による低投入環境保全型水稻栽培の確立）、共同研究者：ハノイ農業大学のDr. Cuong, Dr. Hanh、2011年～
- (4) ケニア、SATREPS（テラーメード育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト）、共同研究者：Ministry of AgricultureのMr. Johnson Irungu Waithaka, Kenya Agricultural Research Institute (KARI), MweaのMr. John Kimani, Jomo Kenyatta University of Agriculture and Technology (JKUAT)のMr. Hunja Murage, Maseno UniversityのMr. John Collins Onyango, Natinal Irrigation Board (NIB), Mwea Irrigation Agriculture Development Centre (MIAD)のMr. Raphael Wanjogu、2012年～

食農環境マネジメント学コース

岩鼻通明

4－① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2012年4～5月 韓国：全州国際映画祭現地調査
- (2) 2012年7月 韓国：富川ファンタスティック国際映画祭現地調査
- (3) 2012年10月 韓国：釜山国際映画祭現地調査

角田毅

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2011年6月 ガーナ 「アフリカ低湿地プロにおける農家経済調査」
- (2) 2011年12月 ガーナ 「アフリカ低湿地プロにおける農家経済調査」
- (3) 2012年2月 ラオス 「途上国における共同労働の国際比較に関する現地調査」

藤科智海

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2012年5月 中国：食品流通に関する調査

食品・応用生命科学コース

佐藤英世

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2012年11月 イギリス・ドイツ：共同研究打合せ

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2012年4月～2013年3月 脳におけるシスチン・グルタミン酸トランスポーターの機能に関する共同研究(ベルギーB r i j e 大学A. Massie博士らとの共同研究)
- (2) 2012年4月～2013年3月 レドックスバランスと細胞機能に関する共同研究(ドイツHelmholz研究所研究員M. Conrad博士との共同研究)
- (3) 2012年4月～2013年3月 xCTの発現制御機構に関する共同研究(ドイツUlm大学 J. Lewerenz博士との共同研究)

豊増知伸

4-① 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2012年 コムギのジテルペン合成酵素に関する共同研究(アイオア大学Reuben Peters博士との共同研究)

塩野義人

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2012年10月 インドネシア：熱帯生植物を生理活性物質の探索源の可能性について

植物機能開発学コース

阿部利徳

4-① 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2012年4月～，炊飯米の糖組成に関する研究（シエラレオネ、ナジャラ大学講師、Kamara J. S. 氏との共同研究）

俵谷圭太郎

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2012年5月 インドネシア：日本学術振興会論文博士号取得希望者に対する支援事業による派遣
(2) 2012年9月 インドネシア：「インドネシアの鉱山跡地におけるアーバスキュラー菌根菌の利用」の研究実施

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2012年12月 インドネシアの熱帯林の修復に関する共同研究（インドネシア林業省Turjaman 博士及びランブンマンクラート大学Purnomo教授との共同研究）

村山秀樹

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2012年6月 ベルギー：国際花木シンポジウムでポスター発表

程為国

4-① 国際研究集会の開催

- (1) 2012年10月23-27日、インドHaryana Agricultural University と(IRRI) India officeを訪問し、研究交流を行なった
(2) 2013年03月24-30日、カナダサスカチュワン大学およびカナダ森林サービス グレートレークス林業センターを訪問し、研究交流を行なった

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2013年01月から、中国科学院大気物理研究所XU Xingkai教授と一緒に「森林生態系における炭素・窒素の動態に及ぼす土壌凍結の影響」共同研究を開始している

笹沼恒男

4-① 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) ベニバナ属の系統進化と多様性解析に関する共同研究（デリー大学S. N. Raina教授、アベリストウイス大学D. Sehgal助教との共同研究）：2002年5月～現在
- (2) ロシア・北コーカサスのムギ類遺伝資源の多様性解析と育種利用に関する共同研究（バビロフ研究所T. N. Smekalova博士との共同研究）：2010年6月～現在

森林科学コース

菊間満

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2012年10月 ILO編、ILOの林業労働監督ガイドラインを翻訳出版をILO出版局(ジュネーブ)に申請し、許可の上刊行

野堀嘉裕

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2012年8月 モンゴル：海外学術調査共同研究
- (2) 2012年9月 中国：北京林業大学国際交流研修

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2012年8月 モンゴル農業大学との共同研究

4-③ 国際研究集会の開催

- (1) 2013年3月：Second International Symposium on Multi-disciplinary Research in Mongolia（モンゴル農業大学）
- (2) 2013年1月：Present studies in Yamagata University (Faculty of Agriculture) and Leibniz Universitat Hannover (Faculty of Natural Sciences)（山形大学農学部）

菊池俊一

4-① 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 火山山麓の自然攪乱と植生動態の相互関連に関する共同研究（ニュージーランド国環境保全局Harry Keys氏との共同研究）、2011年4月～継続中

芦谷竜矢

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2013年7月 リトアニア：28th annual meeting of the International Society of Chemical Ecologyで研究発表
- (2) 2013年7月 スウェーデン：スウェーデン王立工科大学で共同研究者と打ち合わせ

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 植物成分の化学に関する共同研究（スウェーデン王立工科大学教授Anna-Karin Borg-Karlson氏との共同研究）：継続中

水土環境科学コース

石川雅也

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2012年12月 台湾大学・甘俊二名誉教授、醒吾技術学院（中華民国）・張煜権准教授との研究調査
- (2) 2013年1月 ブラビィジャヤ大学・Eri Suhartanto准教授との研究調査

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2012年4月 大規模灌漑事業の持続性および農村地域社会の開発効果に関する共同研究（台湾大学・甘俊二名誉教授、醒吾技術学院（中華民国）・張煜権准教授・ボゴール農科大学（インドネシア）・Budi 副学部長、ブラビィジャヤ大学・Eri Suhartanto准教授との共同研究）

4-③ 国際研究集会の開催

- (1) 2012年7月6日 国際シンポジウムの開催「海外の農業開発と環境」（会場：山形大学農学部、参加国数：3、参加人数：64）

渡邊一哉

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2012年6月 タイ国 東南アジア沿岸域におけるエリアケイパービリティ向上に関するキックオフミーティング
- (2) 2012年8月 タイ国 バンドン湾における基礎生産量評価のための海洋調査および資源利用実態把握のための社会調査1
- (3) 2013年3月 ベトナム フェエ省における農産物流通状況把握のための社会調査
- (4) 2013年3月 タイ国 バンドン湾における基礎生産量評価のための海洋調査および資源利用実態把握のための社会調査2

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 東南アジア沿岸域におけるエリアケイパービリティの向上、総合地球環境学研究所 本研究(2013-)

渡部徹

4-① 海外における交流・調査・研究活動

- (1) 2012年6月, 2012年11月, 2013年3月 タイ: 熱帯地域に適した水再利用技術の研究開発
- (2) 2012年5月 フィリピン: 気候, 土地利用, 人口の変化が引き起こす新たな健康リスクの予測モデル構築とその検証に関する研究基盤形成のための現地調査
- (3) 2012年7月 オーストラリア: SRA世界リスク会議にて口頭発表, ポスター発表
- (4) 2012年8月 マカオ: 気候, 土地利用, 人口の変化が引き起こす新たな健康リスクの予測モデル構築とその検証に関する研究基盤形成のための現地調査
- (5) 2012年9月 アメリカ: ドレクセル大学, ジョンズホプキンス大学, UCLAでの研究交流, および米国における水中病原微生物の管理に関する情報収集
- (6) 2012年10月 ベトナム: 気候, 土地利用, 人口の変化が引き起こす新たな健康リスクの予測モデル構築とその検証に関する研究基盤形成のための現地調査
- (7) 2012年12月 バングラデシュ: 2nd JSPS-AASPP/GRENE-EcoHealth Joint International Symposium on Development of International Network on Health Risk Assessment in Urban Areaの開催
- (8) 2013年2月 オーストラリア: International Conference on Sustainability Science in Asia 2013にて口頭発表

4-② 諸外国の研究者との国際共同研究

- (1) 2009年4月～現在 熱帯地域に適した水再利用技術の研究開発 (タイ王国天然資源環境省, および同国カセサート大学Wilai Chiemchaisri准教授, Chart Chiemchaisri准教授との共同研究)
- (2) 2008年4月～現在 病原微生物による感染症リスクの定量評価に関する共同研究 (米国ドレクセル大学Charles Haas教授との共同研究)
- (3) 2011年4月～現在 都市における健康リスク評価研究国際基盤形成 (ベトナム・フエ大学, およびバングラデシュ技術科学大学との共同研究)

4-③ 国際研究集会の開催

- (1) 2nd JSPS-AASPP/GRENE-EcoHealth Joint International Symposium on Development of International Network on Health Risk Assessment in Urban Area, 2012年12月11日, バングラデシュ・ダッカ, レイクショアホテル

⑤研究員等の受け入れ状況

安全農産物生産学コース

高橋敏能

- (1) 中国海南大学教授・楊 勁松（2013年1月）

西澤隆

- (1) 2012年10月17～18日：チェンマイ大学・科学技術研究所・研究員 Wilawan KUMPOUN（ウィラン・カンブーン）

食品・応用生命科学コース

渡辺昌規

- (1) 広島県立総合技術研究所 食品工業技術センター 主任研究員 塩野忠彦・広島県立総合技術センター探索研究費・米のタンパク質組成と静電的特性の解析・平成25年1月24-26日
- (2) タイ国・チェンマイ大学農工学部Charin Techapun学部長、Noppol Leksawasdi学科長・山形大学への表敬訪問、国際共同研究、大学間交流事業に案する打ち合わせ・平成24年8月29日～9月4日

植物機能開発学コース

程為国

- (1) 中国科学院 植物研究所 植生と環境変動国家重点研究室主任・教授 黄躍氏をJSPS外国人招へい研究者（短期）として受け入れ、「自然湿地と人工水田の相互変遷による温室効果ガスの放出を含めた炭素動態の比較」の共同研究を行なった（平成24年9月7日～平成24年10月7日）
- (2) 中国華中農業大学環境資源学院 修士2年学生2名（劉田・湯水榮）をJASSO（留学生交流支援制度（ショートステイ））の支援制度で受け入れ、「水田土壌の環境問題に関する研究の国際人材育成」を行なった（平成24年3月11日～平成24年6月9日）

水土環境科学コース

石川雅也

- (1) 醒吾技術学院（中華民国）准教授 張煜權：東京大学特任基金による研究員の受け入れ、「大規模灌漑事業の持続性および農村地域社会の開発効果に関する実証的研究」（平成25年3月1日～平成25年3月4日）

渡部徹

- (1) タイ王国天然資源環境省環境研究研修センター研究員 Jittima Jarudacha：JICA研修「水再利用のための定量的微生物リスク評価に関する特別トレーニング」（平成24年8月26～30日）

⑥その他

安全農産物生産学コース

高橋敏能

- (1) 論文博士1名（中国からの申請者：楊 勁松）の指導と審査時の主査

藤井弘志

- (1) 公務員ゼミ開催：2012年4月～2013月、2回参加人数40人

食農環境マネジメント学コース

小沢互

- (1) 山形大学高度観光人材育成県等事業に係る検討委員会委員（2011年9月～）
- (2) 全学就職委員会委員（2012年4月～2014年3月）
- (3) 教員免許状更新講習夏期講習担当（2012年8月9日）
- (4) 科学研究費補助金研究計画調書に関するアドバイザー

渡辺理絵

- (1) 米沢女子短期大学日本史学科非常勤講師 平成24年10月11日

食品・応用生命科学コース

木村直子

- (1) 研究費獲得状況：①平成24年度科学研究費補助金基盤研究（C）（平24-26, 420万円, 代表）、②平成24年度YU-COE「山形大学先進的研究拠点」（E）形成支援（500万円, 分担）、③平成24年度地域産学官連携プロジェクト（20万円, 代表）
- (2) 学部内委員関係：学務委員（平24-25）、森林生態学分野人事選考委員
- (3) 岩手連合大学院関連：①教員資格審査委員会専門委員、②論文博士審査（平成25年1月25日、山崎 聡氏）、③博士学生特別演習指導（平成24年11月26日、小林 翔氏）、④博士学生中間指導（平成24年12月平成25年1月25日、北条 渉氏、）

渡辺昌規

- (1) タイ・チェンマイ大学 大学間協定締結に関わる研究者交流ならびに、事務作業等
- (2) 平成24年度オープンキャンパス模擬授業実施担当（平成24年8月3日）
- (3) 3WG（高校訪問、酒田7/20、仙台エリア9/25-26）
- (4) 山形県立楯岡高等学校 出張講義（平成25年2月19日）
- (5) 推薦入試問題作成担当（小論文）
- (6) 一般入試前期日程試験答案採点業務担当

植物機能開発学コース

阿部利徳

- (1) 2012年2月に品種登録出願をしていた、ダダチャマメ系新品種「アベチャ33」の登録認可の通知を受けて、3月5日学長記者会見に出席し、記者レクをおこなった。このことに関して新聞社4社が取り上げてくださり、NHKテレビにおいても報道された。

森林科学コース

菊間満

- (1) 著書の『ILOの林業労働監督ガイドライン』は、社団法人日本図書館協会選定図書（2012年11月21日選定）2012年度 *外部資金導入

菊池俊一

- (1) 山形県「2012年やまがた公益大賞」、山形大学農学部学生ボランティアプロジェクト「走れ!! わあのチャリ」、2012年9月7日

早尻正宏

- (1) ①科学研究費補助金（若手研究B，研究代表者：早尻正宏）．森林ガバナンスの構築に向けた時系列財務データ解析による森林組合の経営評価，2009～2012年度 *外部資金導入
- (2) ②山形大学先端的研究拠点（YU-COE）形成支援（研究代表者：西岡昭博）．山形大方式による糖質系アグリ資源の新規活用技術とその応用展開技術に関する研究拠点，2010～2012年度． *研究分担

水土環境科学コース

大久保博

- (1) 特にアフリカ・アジアからの留学生を対象に、ラウンドテーブルセミナー (An Approach To Environmental Projects and Finance Sourcing) を外部の専門家を講師に迎えて開催し、好評を得た (2012. 12. 13、農学部1号館小会議室)。

3. 国際交流状況について

(1) 学部間国際交流協定締結大学一覧

国名	機関名	締結年月日
インドネシア	ガジャマダ大学農学部	2002年 3月11日
インドネシア	ガジャマダ大学林学部	2002年12月19日
中華人民共和国	浙江省農業科学院	2003年 8月 1日
モンゴル	モンゴル国立農業大学	2004年 5月 5日
バングラデシュ	シエレ・バングラ農業大学	2005年 8月31日
ラオス	ラオス国立大学工学部	2006年 3月 9日
スリランカ	ペラデニア大学農学部	2006年 7月 5日
中華人民共和国	中国農業大学食品科学栄養工学部	2006年11月22日
中華人民共和国	瀋陽農業大学	2006年12月26日
中華人民共和国	延辺大学農学院	2006年12月27日
バングラデシュ	ハジエ・モハマト・ダグネシュ科学技術大学	2007年 3月 7日
タイ	キング・モンクット工科大学トブリ校	2008年 6月24日
フィリピン	ビサヤ大学	2008年 7月24日
インドネシア	インドネシア林業省森林研究開発庁森林自然保護研究開発センター	2008年 7月25日
インドネシア	ムラワルマン大学林学部	2008年11月25日
インドネシア	ガジャマダ大学農業工学部	2010年 7月 7日
インドネシア	ランブンマンクラート大学林学部	2010年 7月 7日
中華人民共和国	南京農業大学	2011年 3月24日
インドネシア	バンジャラン大学	2011年 3月31日
中華人民共和国	華中農業大学	2011年 9月16日
ドイツ	ライプニッツ・ハノーヴァー大学	2012年 3月26日
中華人民共和国	東北林業大学	2012年 7月27日
インドネシア	ボルネオ大学	2012年10月12日
バングラデシュ	バングラデシュ農業大学	2013年 2月 4日

(2) 大学間国際交流協定締結大学一覧（農学部が提案したもの）

国名	機関名	締結年月日
インドネシア	ガジャマダ大学	2002年 3月11日
チリ	タルカ大学	2002年12月19日
大韓民国	忠北大学校農業生命環境大学	
大韓民国	晋州産業大学	

モンゴル	モンゴル国立農業大学	
中華人民共和国	延辺大学	
中華人民共和国	北京林業大学	
タイ	チェンマイ大学	
ベトナム	ハノイ農業大学	
ペルー	ラモリナ国立農業大学	
ペルー	カトリカ大学	

(3) 外国出張一覧

氏 名	渡航国名	渡航期間	渡航目的
佐々木 由 佳	中国	24. 4. 4～24. 4. 11	研究打合せ及び試料採取
高 橋 敏 能	イギリス、フランス	24. 4. 4～24. 4. 13	研究打合せ及び試料採取
角 田 憲 一	中国	24. 4. 4～24. 4. 11	研究打合せ及び試料採取
俵 谷 圭太郎	インドネシア	24. 5. 4～24. 5. 14	論博取得希望者への支援
藤 科 智 海	中国	24. 5. 4～24. 5. 14	現地調査
渡 部 徹	フィリピン	24. 5. 6～24. 5. 9	現地調査
金 成 学	中国	24. 5. 7～24. 5. 16	現地調査
夏 賀 元 康	韓国	24. 5. 10～24. 5. 13	研究打合せ
安 藤 豊	ケニア	24. 5. 15～24. 5. 28	現地調査及び研究打合せ
安 藤 豊	韓国	24. 6. 5～24. 6. 7	学会出席
ロペス・ラリー	中国	24. 6. 8～24. 6. 13	現地調査及び研究打合せ
渡 部 徹	タイ	24. 6. 15～24. 6. 19	現地調査及び研究打合せ
ロペス・ラリー	ペルー	24. 6. 16～24. 6. 25	現地調査及び試料採取
渡 邊 一 哉	フィリピン	24. 6. 19～24. 6. 23	研究打合せ
俵 谷 圭太郎	イギリス	24. 6. 24～24. 7. 4	学会出席
恩 田 弥 生	オーストリア	24. 6. 28～24. 7. 3	学会出席
村 山 秀 樹	ドイツ、ベルギー	24. 6. 28～24. 7. 5	現地調査及び学会出席
ロペス・ラリー	中国、マレーシア	24. 7. 1～24. 7. 7	現地調査及び学会出席
佐々木 周 平	中国	24. 7. 1～24. 7. 3	研究打合せ
岩 鼻 通 明	韓国	24. 7. 14～24. 7. 22	現地調査
渡 部 徹	オーストラリア	24. 7. 16～24. 7. 22	学会出席
芦 谷 竜 矢	スウェーデン	24. 7. 17～24. 7. 29	研究打合せ及び学会出席
関 根 伸 浩	リトアニア	24. 7. 19～24. 7. 28	研究打合せ及び学会出席
ロペス・ラリー	モンゴル	24. 8. 2～24. 8. 22	研究打合せ
野 堀 嘉 裕	モンゴル	24. 8. 2～24. 8. 16	研究打合せ

氏名	渡航国名	渡航期間	渡航目的
渡部 徹	マカオ	24. 8. 7～24. 8. 10	現地調査
加来 伸夫	デンマーク	24. 8. 18～24. 8. 26	学会出席
安藤 豊	マレーシア	24. 8. 20～24. 8. 24	研究打合せ
佐々木 由佳	マレーシア	24. 8. 20～24. 8. 29	現地調査
渡邊 一哉	タイ	24. 8. 27～24. 9. 5	現地調査
ロペス・ラリー	ペルー	24. 8. 29～24. 9. 11	現地調査
野堀 嘉裕	モンゴル	24. 9. 2～24. 9. 9	研究打合せ
金 成学	中国、韓国	24. 9. 2～24. 9. 13	現地調査及び学会出席
角田 憲一	インドネシア	24. 9. 8～24. 9. 18	現地調査
海野 博之	韓国	24. 9. 8～24. 9. 11	大学訪問
恩田 弥生	ニュージーランド	24. 9. 10～24. 9. 16	研究打合せ
菅原 一彰	インドネシア	24. 9. 15～24. 9. 22	大学訪問
渡部 徹	アメリカ	24. 9. 30～24. 10. 6	現地調査
塩野 義人	インドネシア	24. 10. 7～24. 10. 15	研究打合せ及び学会出席
岩鼻 通明	韓国	24. 10. 7～24. 10. 15	現地調査
程 為国	インド	24. 10. 16～24. 10. 27	学会出席
ロペス・ラリー	ペルー	24. 10. 21～24. 11. 4	現地調査
阿部 利徳	カナダ	24. 10. 23～24. 10. 28	研究打合せ
佐々木 由佳	ケニア	24. 10. 20～24. 10. 29	現地調査及び研究打合せ
渡部 徹	ベトナム	24. 10. 24～24. 10. 29	学会出席及び現地調査
菊池 俊一	韓国	24. 10. 25～24. 10. 31	学会出席
渡邊 一哉	ベトナム	24. 10. 26～24. 10. 30	現地調査及び研究打合せ
林田 光祐	韓国	24. 10. 26～24. 10. 28	学会出席
佐藤 英世	ドイツ、イギリス	24. 10. 31～24. 11. 7	研究打合せ
安藤 豊	中国	24. 11. 6～24. 11. 9	研究打合せ
渡部 徹	タイ	24. 11. 11～24. 11. 17	現地調査及び研究打合せ
ロペス・ラリー	ドイツ	24. 11. 16～24. 11. 28	現地調査及び研究打合せ
菊池 俊一	ニュージーランド	24. 11. 26～24. 12. 13	現地調査
角田 毅	ガーナ	24. 11. 28～24. 12. 12	現地調査
ロペス・ラリー	ペルー	24. 12. 1～24. 12. 8	研究打合せ
渡部 徹	バングラデシュ	24. 12. 10～24. 12. 13	シンポジウム開催
佐々木 周平	中国	24. 12. 10～24. 12. 14	研究打合せ及び試料採取
安藤 豊	インドネシア	24. 12. 17～24. 12. 21	研究打合せ及び現地調査
石川 雅也	台湾	24. 12. 26～24. 12. 29	現地調査
石川 雅也	インドネシア	25. 1. 2～25. 1. 7	現地調査

氏名	渡航国名	渡航期間	渡航目的
俵谷 圭太郎	インド	25. 1. 5～25. 1. 13	学会出席
角田 毅	ラオス	25. 1. 29～25. 2. 2	現地調査及び研究打合せ
渡部 徹	オーストラリア	25. 2. 5～25. 2. 9	学会出席
渡邊 一哉	ベトナム	25. 2. 21～25. 2. 26	現地調査
渡邊 一哉	タイ	25. 3. 1～25. 3. 10	現地調査
ロペス・ラリー	ペルー	25. 3. 2～25. 3. 9	研究打合せ及び学会出席
角田 憲一	インドネシア	25. 3. 2～25. 3. 12	現地調査
渡部 徹	タイ	25. 3. 10～25. 3. 16	現地調査及び研究打合せ
安藤 豊	中国	25. 3. 12～25. 3. 14	研究打合せ及び現地調査
佐々木 由佳	ベトナム	25. 3. 14～25. 3. 21	現地調査及び研究打合せ
金 成 学	韓国	25. 3. 16～25. 3. 23	現地調査
安藤 豊	マレーシア	25. 3. 20～25. 3. 27	研究打合せ及び現地調査
西澤 隆	タイ、ラオス	25. 3. 21～25. 3. 27	現地調査及び研究打合せ
程 為 国	カナダ	25. 3. 24～25. 3. 30	現地調査及び研究打合せ

(4) その他の国際交流の実施

① 国際交流協定締結校との国際交流

I 中国・華中農業大学

学部間交流協定に基づく教員の受入 (24. 4. 2～24. 4. 5)

程為国教授, 俵谷圭太郎教授

II インドネシア・パジャジャラン大学

学部間交流協定に基づく教員の受入 (24. 11. 8～24. 11. 11)

塩野義人教授

III インドネシア・ボルネオ大学

学部間交流協定に基づく教員の派遣 (24. 12. 1～24. 12. 8)

俵谷圭太郎教授

IV ドイツ・ライプニッツ・ハノーヴァー大学

学部間交流協定に基づく教員の受入 (25. 1. 12～25. 1. 13)

ラリー・ロペス准教授

V タイ・チェンマイ大学

大学間交流協定に基づく教員の派遣（25.3.21～25.3.27）

西澤隆教授

② 研修の受け入れ

- I 独立行政法人国際協力機構(JICA)の地域別研修「アフリカ地域（英語圏）稲作収穫後処理」コースから、8月27日から9月20日の約1ヶ月間にわたり、アフリカ地域10カ国から14名の研修生を受入

4. 社会活動・地域貢献

(1) 地域連携推進室に寄せられた事項一覧

番号	類別	件名	研究者
1	その他	コミュニティ新聞主催座談会への出席依頼	加来 伸夫
2	委員委嘱	出羽庄内地域文化遺産による地域活性化実行委員会設立のご案内	家串 哲生
3	講演	平成24年度 山形北高等学校「一日総合大学」	渡辺 理絵
4	講演	米沢興譲館高等学校「異分野融合サイエンス」	野堀 嘉裕
5	相談	イバラトミヨの管理について	大久保 博
6	その他	農学部施設見学	企画広報室 フィールド科学センター
7	講演	伝統野菜（在来作物）に関する講演	江頭 宏昌
8	その他	「若手農業者の会」総会および第6回アグリビジネスカレッジ開催について	企画広報室
9	講演	平成24年度庄内発酵食品技術開発研究会総会・研修会の講師派遣について	永井 毅
10	その他	アグリビジネス創出フェア2012への学部紹介パンフレットの提供について	企画広報室
11	調査	第54回教育・文化週間について	企画広報室
12	その他	6次産業化研修&マッチング交流の開催について	企画広報室
13	その他	工業部会視察研修受け入れのお願いについて	企画広報室 フィールド科学センター
14	その他	「どこかの畑のかたすみで」の一部転載について（依頼）	企画広報室 渉外部社会連携担当
15	その他	「庄内地域園芸販売力強化支援研修会」のご案内	企画広報室
16	調査	やまがたマナビカレッジ参画講座の受講者数調査について	企画広報室
17	相談	どくだみ草の対処法について	村山 哲也
18	相談	ダダチャ豆に関する問い合わせ	阿部 利徳
19	相談	牛糞を使った発電システム・バイオガスプラントシステムについて	吉田 宣夫
20	相談	サ克蘭ボの木について	平 智
21	その他	ダダチャ豆について（取材依頼）	阿部 利徳
22	相談	トルコキキョウについて	小笠原 宣好
23	相談	民田ナスについて	江頭 宏昌

番号	類別	件名	研究者
24	その他	砂防堰堤について	梶原 晶彦
25	相談	ビオトープに関する相談	佐久間 拓也
26	相談	大ナルコユリの栽培方法について	小笠原 宣好
27	情報交換	農商工観連携をテーマとした新しい土地利用計画について	渡辺 理絵
28	講演	酒田市立飛鳥中学校第一学年 総合学習「農業から学ぶ」	江頭 宏昌
29	講演	柿に関する研修に係る講演について	平 智
30	講演	第3回いわき昔野菜フェスティバルにおいての在来作物に関する講演	江頭 宏昌
31	講演	大石田町生涯学習活動推進研究集会の講演	江頭 宏昌
32	講演	村山インダストリー倶楽部「環境」部会第3回研究会	渡辺 昌規
33	その他	大学講義に関する問い合わせ	角田 毅
34	相談	ベニバナについて	笹沼 恒男

(2) 平成24年度 社会・地域等の要請により派遣した職員一覧

氏名	職名	依頼元
高橋 敏 能	東北農業研究センター運営委員	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
高橋 敏 能	運営協議会委員	公益財団法人やまがた農業支援センター
生井 恒 雄	山形県科学技術奨励賞審査委員会委員	山形県
安藤 豊	鶴岡市農産物認定事業に係る判定委員会委員	鶴岡市藤島庁舎
安藤 豊	連携会員	日本学術会議
安藤 豊	エコエリアやまがた推進協議会委員	山形県農林水産部
夏賀 元 康	農林水産省委託事業「食品製造過程における品質管理のための分析法の課題整理と課題解決プログラムの検討」に関する事業化可能性調査委員会委員	社団法人農林水産・食品産業技術振興協会
西澤 隆	評議員および学校関係者評価委員	山形県立鶴岡南高等学校
西澤 隆	庄内水田農業推進機構会長	鶴岡市農林水産部
西澤 隆	山形県立鶴岡南高等学校スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会委員	山形県教育庁高校教育課
西澤 隆	鶴岡市農業発展奨励表彰審査委員会委員	鶴岡市農政課
西澤 隆	会員	鶴岡食文化創造都市推進協議
西澤 隆	鶴岡市総合計画審議会	鶴岡市企画部
藤井 弘 志	「やまがた6次産業ビジネス・スクール」講師	やまがた第6次産業人材創生コンソーシアム
藤井 弘 志	有機農産物認証業務公平性委員会委員	公益財団法人やまがた農業支援センター
藤井 弘 志	平成24年度東北農業試験研究推進会議生産環境推進部会及び土壌肥料研究会における外部委員	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センター
平 智	平成24年度農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業審査委員	山形県庄内総合支庁
平 智	アドバイザー	最上「山ぶどう」研究会
平 智	鶴岡市グリーン・ツーリズム推進協議会会長	鶴岡市農政課
平 智	鶴岡総合研究所所長	鶴岡市
平 智	「やまがた6次産業ビジネス・スクール」講師	やまがた第6次産業人材創生コンソーシアム
平 智	鶴岡市総合計画審議会企画専門委員会委員	鶴岡市企画部
平 智	鶴岡市総合計画審議会委員	鶴岡市企画部
平 智	鶴岡市下水道使用料等審議会委員	鶴岡市建設部
吉田 宣 夫	農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業プロジェクト計画審査会審査委員	山形県最上総合支庁
吉田 宣 夫	平成24年度フォーレージテスト新システム構築事業に係る推進委員	社団法人日本草地畜産種子協会
吉田 宣 夫	平成24年度畜産経営活性化サポート事業に係る委員	畜産経営支援協議会 ((社)中央畜産会)
吉田 宣 夫	山形県農林水産技術会議委員	山形県農林水産部
吉田 宣 夫	山形県農林水産技術会議委員	山形県農林水産部
片平 光 彦	産学官連携共同研究検討会議研究開発推進委員	東北地域農林水産・食品ハイテク研究会
岩鼻 通 明	大江町文化的景観調査委員会委員	大江町教育委員会
岩鼻 通 明	山形県景観審議会委員	山形県県土整備部
小沢 互	鶴岡市地域コミュニティあり方検討委員会委員	鶴岡市市民部
小沢 互	国営事業技術検討会国営事業事後評価における第三者委員	東北農政局
小沢 互	平成24年度専門家派遣事業に係る専門家	山形県農業会議
小沢 互	山形県農業・農村政策審議会委員	山形県農林水産部

小 沢 互	山形県卸売市場審議会委員	山形県農林水産部
小 沢 互	山形県農村環境保全推進委員会委員	山形県農林水産部
小 沢 互	鶴岡市行財政改革推進委員会委員	鶴岡市総務部
小 沢 互	鶴岡市総合計画審議会企画専門委員会委員	鶴岡市企画調整課
小 沢 互	「やまがた第6次産業人材創生コンソーシアム全体会議」委員	やまがた第6次産業人材創生コンソーシアム
小 沢 互	「農林漁業体験民宿集積活性化基礎調査ワーキングチーム」委員	鶴岡食文化創造都市推進協議会
小 沢 互	実践キャリア・アップ戦略専門タスク・フォース食の6次産業化プロデューサーワーキンググループ (WG) 委員	内閣府
小 沢 互	実践キャリア・アップ戦略キャリア段位制度実施事業選定評価委員会委員	内閣府
小 沢 互	山形県卸売市場審議会委員	山形県農林水産部
角 田 毅	農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業プロジェクト計画審査会審査委員	山形県最上総合支庁
角 田 毅	山形県ベストアグリ賞表彰事業審査委員	山形県農林水産部
角 田 毅	酒田市スーパー農業経営塾Ⅱ座長	酒田市農林水産部
角 田 毅	平成24年度専門家派遣事業に係る専門家	山形県農業会議
角 田 毅	「やまがた第6次産業人材創生コンソーシアム全体会議」委員	やまがた第6次産業人材創生コンソーシアム
家 串 哲 生	準備委員	出羽庄内地域文化遺産による地域活性化実行委員会
家 串 哲 生	「やまがた第6次産業人材創生コンソーシアム全体会議」委員	やまがた第6次産業人材創生コンソーシアム
藤 科 智 海	山形県研究評価委員	山形県商工労働観光部
藤 科 智 海	庄内町6次産業化推進戦略会議	庄内町
藤 科 智 海	「やまがた第6次産業人材創生コンソーシアム全体会議」委員	やまがた第6次産業人材創生コンソーシアム
渡 辺 理 絵	山形県文化財保護審議会委員	山形県教育委員会
渡 辺 理 絵	「やまがた地域づくりカレッジ」運営協議会委員	やまがた地域づくりカレッジ運営協議会((特活)山形創造NPO支援ネットワーク)
渡 辺 理 絵	松江市史専門委員	松江市教育委員会
渡 辺 理 絵	米沢市文化財保護審議会委員	米沢市教育委員会
渡 辺 理 絵	山形県景観審議会委員	山形県県土整備部
小 関 卓 也	山形セレクション加工食品分野(日本酒)専門委員会委員	山形県酒造組合
小 関 卓 也	平成24年度農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業プロジェクト計画審査会委員	山形県村山総合支庁
小 関 卓 也	庄内発酵食品技術開発研究会委員	山形県庄内総合支庁
小 関 卓 也	庄内発酵食品技術開発研究会委員	山形県庄内総合支庁産業経済部
永 井 毅	庄内発酵食品技術開発研究会委員	山形県庄内総合支庁
永 井 毅	鶴岡市庄内浜うめえ魚産地協議会オブザーバー	鶴岡市庄内浜うめえ魚産地協議会(鶴岡市農山漁村振興課)
永 井 毅	「やまがた6次産業ビジネス・スクール」講師	やまがた第6次産業人材創生コンソーシアム
加 来 伸 夫	平成24年度農業大学地域連携会議委員	山形県立農業大学校
加 来 伸 夫	「鶴南ゼミ(総合的な学習の時間での探究活動)」への講師	山形県立鶴岡南高等学校
阿 部 利 徳	遺伝子組換え実験安全委員会委員	山形県農業総合研究センター園芸試験場
阿 部 利 徳	育種専門指導員	酒田市庄内バイオ研修センター
俵 谷 圭 太 郎	山形県リサイクル製品認定・リサイクルシステム認証審査会審査員	山形県エネルギー部

俵谷 圭太郎	鶴岡市環境審議会委員	鶴岡市環境部
村山 秀樹	平成24年度学校評議員兼学校関係者評価委員	山形県立鶴岡北高等学校
村山 秀樹	「やまがた6次産業ビジネス・スクール」講師	やまがた第6次産業人材創生コンソーシアム
村山 秀樹	山形県バイオクラスター形成推進会議連携促進・成果活用委員会構成員	山形県商工観光部
江頭 宏昌	鶴岡市食育・地産地消推進協議会委員	鶴岡市農林水産部
江頭 宏昌	平成24年度地域再生実践塾主任講師	財団法人地域活性化センター
江頭 宏昌	焼畑温海かぶブランド力向上対策協議会オブザーバー	鶴岡市(温海庁舎産業課)
江頭 宏昌	現地学習講師及び座学講師	鶴岡食文化創造都市推進協議会
江頭 宏昌	鶴岡市総合計画審議会企画専門委員会委員	鶴岡市企画調整課
江頭 宏昌	平成24年度第2回食体験ツアーアドバイザー	山形県農林水産部
江頭 宏昌	山形県農林水産技術会議委員	山形県農林水産部
及川 彰	特任准教授	慶応義塾大学
及川 彰	客員研究員	独立行政法人理化学研究所横浜研究所植物科学研究センター 慶応義塾大学先端生命科学研究センター
及川 彰	「第2回高校生バイオサミットin鶴岡」表彰審査員	慶応義塾大学先端生命科学研究センター
菊間 満	理事	山形県高齢者福祉生活協同組
菊間 満	理事長	山形県高齢者福祉生活協同組
野堀 嘉裕	森林計画の策定等に係る検討会委員	東北森林管理局
野堀 嘉裕	「山形県水資源・森林の保全に関する条例検討懇話会」委員	山形県環境エネルギー部
野堀 嘉裕	総合評価落札方式による入札を行う場合に意見を聴取する学識経験者	山形県農林水産部
野堀 嘉裕	山形県CO2森林吸収量等評価委員会委員	山形県農林水産部
野堀 嘉裕	山形県環境影響評価審査会委員	山形県生活環境部
野堀 嘉裕	山形県森林審議会委員	山形県農林水産部
野堀 嘉裕	鶴岡市林業振興協議会委員	鶴岡市農林水産部
野堀 嘉裕	鶴岡市景観審議会委員	鶴岡市建設部
野堀 嘉裕	鶴岡公園環境整備懇談会委員	鶴岡市建設部
野堀 嘉裕	鶴岡市歴史的風致維持向上計画推進協議会委員	鶴岡市建設部
林田 光祐	平成24年度開始交付金プロジェクト「東日本大震災で被災した海岸林の復興技術の開発」における評価委員	独立行政法人森林総合研究所
林田 光祐	「クマタカ希少野生動植物種保護管理対策調査」に係る検討委員会委員	一般社団法人日本森林技術協会
林田 光祐	月山地区環境委員会委員長	国土交通省東北地方整備局新庄河川事務所
林田 光祐	平成24年度自然環境モニタリング総合検討委員会委員	山形県環境エネルギー部
林田 光祐	山形県特定鳥獣保護管理検討委員会委員	山形県生活環境部
林田 光祐	山形県特定鳥獣保護管理計画策定検討委員会委員	山形県生活環境部
林田 光祐	山形県環境審議会委員	山形県文化環境部
小山 浩正	アドバイザー・ボードメンバー	山形県
小山 浩正	鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊(土湯の森)自然再生実施協議会委員	東北森林管理局
小山 浩正	東北森林管理局技術開発委員会委員	東北森林管理局
小山 浩正	山形県農林水産技術会議委員	山形県農林水産部
柳原 敦	最上小国川流域環境保全協議会委員	山形県最上総合支庁
菊池 俊一	山形県公共事業評価監視委員会委員	山形県
菊池 俊一	事業評価技術検討委員会委員	東北森林管理局

菊池 俊一	「やまがた地域づくりカレッジ」運営協議会委員	やまがた地域づくりカレッジ運営協議会((特活)山形創造NPO支援ネットワーク)
菊池 俊一	山形県農林水産技術会議委員	山形県農林水産部
ロペス ラリー	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター森林圏ステーション共同利用協議会委員	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター
早尻 正宏	鶴岡市地域コミュニティあり方検討委員会委員	鶴岡市市民部
早尻 正宏	「平成24年度『緑の雇用』現場技能者育成対策事業の評価に関する調査」にかかわる検討委員	財団法人林業経済研究所
高橋 教夫	国有林野管理審議会委員	林野庁東北森林管理局
高橋 教夫	技術開発委員会委員	林野庁東北森林管理局
高橋 教夫	鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊(土湯の森)自然再生実施協議会委員	林野庁東北森林管理局
高橋 教夫	国見町森林委員会委員	福島県国見町
高橋 教夫	やまがた緑県民会議委員	山形県生活環境部
高橋 教夫	山形市森林整備推進協議会委員	山形市森林整備課
大久保 博	赤川水系河川整備学識者懇談会	国土交通省東北地方整備局山形県県土整備部
大久保 博	最上川水系流域委員会委員	国土交通省東北地方整備局山形県県土整備部
大久保 博	山形ブロック総合評価委員会委員	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
大久保 博	東北地方整備局事業評価監視委員会委員	国土交通省東北地方整備局
大久保 博	総合評価落札方式による入札を行う場合に意見を聴取する学識経験者	山形県農林水産部
大久保 博	ゆとりとうるおい空間整備推進委員会委員	山形県農林水産部
大久保 博	客員研究員	一般財団法人日本水土総合研究所
奥山 武彦	国営土地改良事業等の事後評価に係る技術検討会委員	関東農政局国営事業管理委員会
奥山 武彦	客員研究員	一般財団法人日本水土総合研究所
奥山 武彦	新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「沿岸域における効率的な深層地下水調査手法の開発」に関する外部評価委員	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所
奥山 武彦	土地改良施設耐震性能設定等検討委員会	一般財団法人日本水土総合研究所
安中 武幸	農業用水(畑)計画基準検討意見聴取会委員	一般財団法人日本水土総合研究所
大谷 博彌	鶴岡市文化財保護審議会委員	鶴岡市教育委員会

※委員の氏名を非公開のものについては除く

(3) 平成24年度 他大学等の非常勤講師として派遣した職員一覧

氏名	勤務先及び職名	依頼先
佐藤 英世	非常勤講師	鶴岡市立荘内看護専門学校
佐藤 英世	非常勤講師	鳥取大学医学部
豊増 知伸	非常勤講師	東京農工大学農学府・農学部
貫名 学	非常勤講師	鶴岡工業高等専門学校
俵谷 圭太郎	非常勤講師	東北公益文科大学
村山 秀樹	非常勤講師	東北公益文科大学
笹沼 恒男	非常勤講師	鶴岡工業高等専門学校
梶原 晶彦	非常勤講師	鶴岡市立荘内看護専門学校

(4) 外部資金等の受け入れ状況

平成24年度科学研究費補助金交付決定一覧

研究種目	氏名	直接経費	間接経費	合計額	課題名
新学術領域研究	豊増知伸	1,700,000	510,000	2,210,000	糸状菌のキメラ型ジテルペン合成酵素の機能的ドメイン交換酵素の創製
基盤研究(B) 海外	渡部徹	6,000,000	1,800,000	7,800,000	東南アジアの水環境における薬剤耐性菌の発生減と耐性獲得経路の推定
基盤研究(B) 一般	我妻忠雄	4,200,000	1,260,000	5,460,000	膜脂質層の分子的改变による酸性土壌複合ストレスへのマルチ耐性植物の創生
基盤研究(B) 一般	安田弘法	3,600,000	1,080,000	4,680,000	東アジアにおける無農薬・無化学肥料・無除草剤による低投入環境保全型水稲栽培の確立
基盤研究(C)	渡邊一哉	500,000	150,000	650,000	東南アジア沿岸域における生態資源ポテンシャルの動態
基盤研究(C)	安田弘法	500,000	150,000	650,000	温暖化がもたらす時間的隠れ家の増大によるカイガラムシのエスケープの検証
基盤研究(C)	元村佳恵	600,000	180,000	780,000	低温貯蔵中におけるメロン果実の「陥没障害」発生機構とその防止技術に関する研究
基盤研究(C)	西澤隆	800,000	240,000	1,040,000	古代植物由来の植物性ミネラルを用いた野菜栽培に関する研究
基盤研究(C)	角田毅	800,000	240,000	1,040,000	農業労働力激減期における地域農業の人材創出に関する研究
基盤研究(C)	加来伸夫	700,000	210,000	910,000	堆積相微生物燃料電池による水田での発電とそれが土壌環境とメタン放出に与える影響
基盤研究(C)	森 静香	1,000,000	300,000	1,300,000	メタボローム解析による水稲の潮風害発生機構および抵抗性発現機構の解明
基盤研究(C)	長谷 修	800,000	240,000	1,040,000	生物防除微生物による単子葉作物の病害抵抗性誘導機構
基盤研究(C)	俵谷圭太郎	1,300,000	390,000	1,690,000	酸性ホスファターゼ分泌能が高いアーバスキュラー菌根菌の探索とその利用
基盤研究(C)	程為国	2,200,000	660,000	2,860,000	水田土壌炭素の変動を予測するためのイネの根から分泌される有機態炭素量の測定
基盤研究(C)	三橋 涉	1,200,000	360,000	1,560,000	高等植物における細胞周期停止因子の新規機能の探索
基盤研究(C)	奥山武彦	900,000	270,000	1,170,000	多雪地域における再活動地すべりの誘因と対策
基盤研究(C)	高橋敏能	1,500,000	450,000	1,950,000	家畜飼料からの強抗酸化物質“エルゴチオネイン”の探索と赤肉内抗酸化能の検証
基盤研究(C)	深津佳代子(佐々木)	1,400,000	420,000	1,820,000	糖尿病性血管障害の新規発症因子解明とその防御
基盤研究(C)	岩鼻通明	900,000	270,000	1,170,000	映画を通じた地域活性化の日韓比較研究
基盤研究(C)	塩野義人	2,500,000	750,000	3,250,000	ナラ類集団枯損の防除物質の探索とその利用可能性について
基盤研究(C)	豊増知伸	1,400,000	420,000	1,820,000	イネのジベルペン環化酵素遺伝子群の進化・分化に関する研究
基盤研究(C)	小山 浩正	2,400,000	720,000	3,120,000	ブナ林における個体ごとの繁殖と防御のトレード・オフ関係の検証
基盤研究(C)	花山 奨	2,800,000	840,000	3,640,000	水田からのリ回収に関する基礎的研究
基盤研究(C)	木村直子	2,600,000	780,000	3,380,000	抗酸化機能欠損マウス卵を用いた染色体異数性発症機構の解明による新規IVM法の開発
挑戦萌芽研究	村山秀樹	600,000	180,000	780,000	銀ナノ微粒子を利用した切り花・花木の新たなポストハーベスト技術の確立
挑戦萌芽研究	石川雅也	700,000	210,000	910,000	活性窒素除去特性の機能強化と食料・資源・環境トリレンマ問題の同時解決の実証
挑戦萌芽研究	梶原晶彦	2,600,000	780,000	3,380,000	渡り鳥の飛来する湖沼底泥の農業用肥料としての利用可能性に関する研究
若手研究(B)	早尻正宏	500,000	150,000	650,000	森林ガバナンスの構築に向けた時系列財務データ解析による森林組合の経営評価
若手研究(B)	服部聡	1,200,000	360,000	1,560,000	庄内沿岸極浅海域において嫌氣的メタン代謝を担う未知微生物群に関する研究
若手研究(B)	恩田弥生	1,000,000	300,000	1,300,000	植物の蛋白質ジスルフィド結合形成ネットワークの解明
合計		48,900,000	14,670,000	63,570,000	

H 2 4 年 度 奨 学 寄 附 金 ・ 受 託 研 究 ・ 共 同 研 究 の 受 け 入 れ 状 況

	件 数	金 額
奨学寄附金	1 8 件	1 1 , 0 5 4 , 2 8 0 円
受託研究	2 9 件	1 3 2 , 0 2 2 , 1 9 8 円
共同研究	1 4 件	6 , 6 2 3 , 5 0 0 円

(5) 公開講座等大学開放実施状況

- 1 在来作物実践講座「おしゃべりな畑」
9月11日（火）～2月12日（火） 16回開講
会場：山形大学農学部

- 2 公開講座「身近な生物を語る－土・微生物・植物の世界－」
 - 第1回目
7月14日（土） 会場：山形大学農学部
○「植物と共生する菌根菌のはたらき」
○「ダダチャマメの有機栽培と成分」
○「カブと焼畑」
 - 第2回目
7月21日（土） 会場：山形大学農学部
○「切り花における老化の進行と花持ちの向上」
○「キノコの作る抗酸化物質－エルゴチオネイン」
○「庄内地域の土地利用変化と地球温暖化」
 - 第3回目
7月28日（土） 会場：山形大学農学部
○「庄内の植物由来の生理活性物質」
○「コムギとベニバナの進化と多様性」
○「未知・未利用・難培養微生物の探索研究」

- 3 農学紹介講座「農学の夕べ」
 - 第1回目
10月4日（金） 会場：山形大学農学部
○「植物工場の現状と課題」
 - 第2回目
10月18日（金） 会場：山形大学農学部
○「日本の森林、世界の森林」
 - 第3回目
11月1日（金） 会場：山形大学農学部
○「ダダチャマメの科学」
 - 第4回目
11月15日（金） 会場：山形大学農学部
○「農学部で行われている『生命科学』研究」
 - 第5回目
11月29日（金） 会場：山形大学農学部
○「海岸林の生態系サービスと震災後の再生に向けて」

第6回目

12月13日（金） 会場：山形大学農学部

○「観客アンケートから見た鶴岡まちなかキネマ」

第7回目

1月10日（木） 会場：山形大学農学部

○「私達の身近な水質問題」

第8回目

1月24日（木） 会場：山形大学農学部

○「水稻とダイズの気象災害について」

- 4 平成23年度 麹菌マイスター養成講座（初級）参加認定書授与式
4月14日（土）会場：山形大学農学部
- 5 平成24年度山形県農学部・山形県農林水産部連携研究成果シンポジウム
「連携研究の成果を地域に活かすために～ワラビの活用を通して～」
5月29日（火）会場：最上総合支庁
- 6 国際共同研究人材育成推進・支援事業説明会
5月31日（木）会場：山形大学農学部
- 7 ミニシンポジウム
「森林・林業の再生と共同組合の貢献～地域社会と共同組合の役割～」
7月28日（土）会場：山形大学農学部
- 8 第56回東北地区農業実験実習講習会
7月30日（月）～8月3日（金）会場：山形大学農学部
- 9 高校生対象の夏期セミナー
8月2日（日） 会場：山形大学農学部
- 食料系コース
 - 「肉のうまさの違いとは」
 - 「日本農業の将来をちょっと考えてみよう！」
 - 生命系コース
 - 「アカウキクサとドジョウを用いた有機稲栽培の観察」
 - 「食品の褐変反応を観察してみよう！－食品を加熱したときの色と香り－」
 - 生物環境関連コース
 - 「森を測って温暖化を考える」
 - 「農地を作るはじめての一步－測量機器に触れてみよう－」

- 10 第2回 自然共生型水稲栽培国際ワークショップ
9月14日（金）会場：東京第一ホテル鶴岡
- 11 ひらめき☆ときめきサイエンス
「生物の多様性を考える—土壌微生物・植物・昆虫間の相互作用—」
9月29日（土） 会場：山形大学農学部
○生物の多様性を考える—土壌微生物・植物・昆虫間の相互作用—（講義）
○土壌微生物を観察する—菌根菌の役割（実験）
○植物を分析する—ポリフェノールの役割（実験）
○昆虫を観察する—植食者と捕食者との関係（実験）
○修了式（未来博士号授与）
- 12 山形大学農学部講演会「コメの生産・流通環境の変化を先取りした研究戦略の展開～付加価値の『見える化』研究～」
11月7日（金）会場：山形大学農学部
- 13 第3回 農業・食料・環境を考える山形県民シンポジウム ～ 私たちの挑戦～
11月13日（火） 会場：山形県郷土館「文翔館」（山形市）
○第一部「山形の農と食と環境を担う私たちの挑戦」
をテーマに現在取り組んでいる研究課題について発表
（山形大学農学部・山形県立農業大学校・山形県内の農業関係高校）
○第二部「農業の魅力・おもしろさ～私たちの挑戦～」
をテーマに農業関係者による活発なパネルディスカッションを実施
- 14 農林水産省委託プロジェクト研究「自給飼料を基盤とした国産畜産物の高付加価値化技術の開発（国産飼料プロ）」合同成果報告会
12月4日（火）会場：山形大学農学部
- 15 環境改善プロジェクトと資金調達に関するセミナー
12月13日（木）会場：山形大学農学部
- 16 山形大学農学部・山形県農林水産部連携推進協議会
「平成24年度スキルアップ研修会」
12月19日（水）会場：山形大学農学部
- 17 知の拠点庄内第2回シンポジウム・庄内地域におけるエネルギーの再編
～新しいエネルギーを使った地域活性化を考える～
12月9日（日）会場：東北公益文科大学

- 「庄内地域の非在来型エネルギーについて」
 - 「オイル産生微細藻類を用いたバイオ燃料開発の現状」
 - 「リスク対応独立分散電源による分散セキュリティシステムの構築」
 - 「米副産物からのエネルギー、有価資源回収による循環型社会の構築と地域産業創出の可能性」
- 18 山形大学農学部、ライプニッツ・ハノーバー大学公開ワークショップ
1月11日（金）、1月12日（土）会場：山形大学農学部
- 19 東北森林管理局との連携協定事業
1月25日（金）会場：山形大学農学部
連携シンポジウム～森が人に与えてくれるもの～
- 「森林と人との関わり」
 - 「森林文化都市とは」
 - 「対談：矢部雄三局長・野堀嘉裕教授」
- 20 山形・おきたま「食の力」シンポジウム（山形在来作物研究会公開フォーラム2013）
1月26日（土）会場：グランドホクヨウ（米沢市）
- 21 山形大学農学部と鶴岡市との連携協定事業「庄内水田フォーラム2013」
2月21日（木）会場：グランド・エル・サン
- 卒業論文修士論文発表会
 - 「農村でつくる小さな仕事」
 - 「持続可能な農業・農村に向けて」
- 22 山形大学農学部と鶴岡市との連携協定事業「庄内水田フォーラム2012」
2月24日（木）会場：グランド・エル・サン
- 卒業論文修士論文発表会
 - 「米粉の性質と利用法」
 - 「あぐりジュパンの挑戦！」
 - 「“食”に夢ふくらませて」
- 23 山形大学農学部地域連携公開フォーラム2013 in 遊佐
3月9日（土）会場：遊佐町生涯学習センター（遊佐町）
- 24 映画を通じた地域活性化シンポジウム
3月16日（土）会場：鶴岡まちなかキネマ

- 25 2年目のキャンドルナイト
3月11日（月）会場：山形大学農学部
- 26 平成24年度山形大学農学部研究シーズ説明会およびビジネスマッチ
3月12日（火）会場：山形大学農学部
- 27 附属やまがたフィールド科学センター実施
1) 「大学農場に行こう」
4月25日（水）～10月26日（金）
2) 「森の学校」
7月17日（火）、10月2日（火）、3月3日（金）
- 28 鶴岡市との共催事業「わんぱく農業クラブ」の実施
5月19日（土）～11月10日（水）
- 29 山形大学農場「新米ロックフェス」
10月13日（土）会場：山形大学農学部附属高坂農場

5. フィールド科学センターの概況等

平成24年度課題の総括

1. エコ農業部門の組織機構整備を行う。
 - ・教育研究，技術，業務の3部門体制による組織機構の整備を行うように努力した。
 - ・学生等外部委託における農場運営の整備強化を図った。
2. 生産現場における教育研究活動を強化する。
 - ・フィールドサイエンス実験実習Ⅰ，Ⅱおよび野外科学，安全農産物生産学実験を安全農産物生産学コース教員と共同で行った。
 - ・農場所属の卒業論文学生修士1名を受け入れた。
 - ・農場を利用した研究課題は34課題であり，利用教職員は延べ39名であった。
 - ・農場を利用した研究業績は，学会誌等は18編，口頭発表は16編であった。
 - ・技術検討会議，農場開放への取り組みについてはほぼ計画とおり実施した。
3. 山形在来作物系統保存センターを充実させる。
 - ・展示圃場及び展示室を充実させた。
4. 農場予算について
 - ・技術職員の研修費等について，必要な経費は支出するようにした。

法人化後の労基法に定める免許・資格及び作業従事に係る研修等が増加していることに鑑み，学部共通及び農場運営経費より支出し，技能・技術の充実を図った。また，各業務上有益と判断される研修等についても予算化し，同様の充実を図った。

他機関（大学他）に派遣し，情報や技術交換，施設・装置の共同利用による商品開発等は非常に有益であり，今後も継続して予算措置を図りたい。
5. 農場生産物販売のあり方を検討する。
 - ・各生産物の販売目標と課題については，概ね明確にして販売を行った。

配置人員や生産計画について大きな変更は不可能なため，前年の収穫量・販売額を目標値として設定していたが，前年度と比較し2.5%程の減収となった。要因は，東日本大震災後（23年度）に米の需要が急激に伸びたため，24年度の在庫量が少なくなり，それに伴い収入額も減少したためである。米が落ち込んだ半面，園芸部門（リンゴ，枝豆）や畜産部門（牛）の収入額が伸びている。
 - ・6月下旬～12月上旬の毎週木曜日に「農場市」を開場し，好評を得ることができた。
 - ・地域イベントに積極的に参加し，農産物の販売及びPRを行った。
6. 生産基盤の点検・強化
 - ・水田の基盤整備（田床改良）は，石川准教授の協力を得て，「環境保全型汎用水田」の施工を30aの水田2枚で完了し，新たな2枚で着工した。
 - ・黒毛和種の繁殖成績ならびに繁殖技術の向上を目指した。
8. その他
 - ・リフレッシュセミナー（平成24年7月8日）を行い，農場のトマト，ブルーベリーの試食，動物とのふれあいを行った。
 - ・朝暘第6小学校へヤギを貸し出し，飼育支援を行った。
 - ・本学経営協議会（平成24年9月21日）にて経営協議会委員14名を招き，施設概要説明，圃場見学を行った。

- ・ J I C A 国別研修ケニア稲作振興(平成24年6月18日～7月13日)の研修プログラムの一部として平成24年7月13日に研修生5名と研修監理員1名が農場見学を行った。
- ・ 大学間国際交流協定を結ぶため来学したタイ・チェンマイ大学農産学部の学部長および学科長が平成24年8月31日に渡辺昌規准教授の案内のもと農場を訪問し、調理場と圃場を見学した。

I. 教 育

1. 実習教育等

(1) カリキュラム

農場で担当した授業科目は、以下のとおりである。

表 1-1 農場関係授業カリキュラム

	授 業 科 目	必修・選択	単位数	開講学年・学期
専門基礎科目	基礎農学セミナー	必修	2	1年・前期
	安全農産物生産学概論	必修	2	1年・後期
基盤教育科目	やまがたフィールド科学	選択	2	全学年・前期
学科共通科目	食料生命環境学実験実習	必修	2	2年・前期
	環境保全型エコ農業論	必修・選択	2	2年・後期
コース必修科目	安全農畜産物生産論	必修・選択	2	2年(3年)・前期
	畜産学	必修・選択	2	2年・前期
	野外科学	必修	2	2年・前期
	フィールドサイエンス実験実習Ⅰ-A	必修	2	2年・前期
	フィールドサイエンス実験実習Ⅰ-B	必修	2	2年・前期
	フィールドサイエンス実験実習Ⅱ	必修	2	3年・前期
	安全農産物生産学研究調査演習	必修	2	3年・前期
	安全農産物生産学研究準備演習	必修	2	3年・後期
	安全農産物生産学コース実験実習	必修	2	3年・前期
	コース選択科目	果樹園芸学	選択	2
安全農産物生産学特講Ⅰ		選択	2	3年・後期

(2) 基礎農学セミナー

履修者: 163名

農学部1年次学生が鶴岡キャンパス、農場、演習林での体験を通して各コースの概要を理解すると共に鶴岡キャンパスでの生活をイメージできるようにすることを目的に2泊3日の日程で実施され、農場では9月13日に稲刈りと飼料用の稲わら収集を行った。

(3) 安全農産物生産学概論

履修者: 163名

食料生命環境学科・専門基礎科目として、安全・安心な農畜産物の生産について総合

的な視点から考えさせることを目的に学部教員10名とともにいった。

(4) やまがたフィールド科学

履修者: 2名 (工学部2名)

全学部、全学年を対象にした基盤教育教養科目の講義として9月18日～20日までの2泊3日で実施した。山形県金峰少年自然の家に宿泊し、農場で水稲の生育過程の学習、水稲収量調査、稲刈り体験、水田昆虫の観察、庄内柿の樹上脱渋、鶏の解体をいった。

(5) 食料生命環境学実験実習

履修者: 167名

農学が対応しなければならない幅広い内容を総合的に理解する目的で、食料系・生命系・環境系に分かれて実施した。食料系は15回を教員16名で行った。農場では食料系の実習: 田植え、リンゴ管理、牧草収穫、植物病害調査、鶏解体をそれぞれ2回ずつ実施した。

(6) 環境保全型エコ農業論

履修者: 56名

循環型農業の1事例として堆肥の生産・利用技術を軸にして、飼料作物の栽培と給与、園芸作物への堆肥利用法、水稲への施用技術および食品残さの飼料化等について、学部内で後期15回の講義を農場所属教員3名で行った。

(7) 安全農畜産物生産論

履修者: 70名

安全な農畜産物を生産する視点から、植物病理学、作物学、畜産学関連の知識習得を目指した安全な農畜産物を生産するのに必要な考え方と最新情報の理解を深める。学部教員2名と分担していった。

(8) 畜産学

履修者: 85名

家畜の生産から畜産物の利用までの基礎理論を習得することを目的として、畜産学の基礎知識、家畜家禽の定義、分類、起源、家畜の育種、繁殖、飼養管理、草地、衛生、利用等を総合的に学習し、今日の畜産業が直面する飼料問題、畜産物の安全性などの課題を理解させる。学部内で前期15回の講義を農場所属教員が行った。

(9) 野外科学

履修者: 44名

安全農産物生産学コースのフィールドサイエンスI A, I Bと関連付けて、野外における調査及び農作業の基本的な知識を概説した。

(10) フィールドサイエンス実験実習I A, I B

履修者: 44名

各農業分野のフィールドを通じた体験的な実験実習から、安全な農畜産物の安定生産に取り組んでいくための総合的、多面的な考え方や技術を習得することを目的とし、安全農産物生産学コース教員全員で行った。

(11) フィールドサイエンスII

履修者: 48名

各農業分野のフィールドを通じた体験的な実験実習から、安全な農畜産物の安定生産に取り組んでいくための総合的、多面的な考え方や技術を習得することを目的とし、安全農産物生産学コース教員全員で行った。

(12) 果樹園芸学

履修者：11名

旧生物生産学科開講科目として、良品質果実の安定生産に必要な理論とそれを実践する技術を理解することを目的とし、学科教員と2名で行った。

2. 農場教員による学生指導

(1) 卒業論文学生3年生11名、4年生6名を農場教員が指導を行った。

(2) 博士コース院生2名、修士コース院生1名を協力・指導を行った。

3. 山形在来作物系統保存センターの充実

キュウリ7系統、カボチャ1系統、マクワウリ1系統、ナス1系統、エダマメ40系統、サトイモ10系統、アズキ1系統、ベニバナ1系統を展示栽培した。

また、農場教員が指導する学生の修士論文のテーマとしてヤマブドウ在来系統83樹を実験材料として提供した。

4. 農場開放

(1) 収穫体験「大学農場に行こう」

鶴岡市およびその近郊の保育園、幼稚園を対象に春のお花見から、リンゴ、クリの収穫体験、動物見学、農場内の散策・昆虫採集などに農場施設を開放した。案内・説明等は学生アルバイトを併用して行った。

実施時期：平成24年4月25日～10月26日

参加人員：52団体 1,949名

(2) 農業体験「わんぱく農業クラブ」

庄内農業水田推進機構の事業の一つとして、学部教員、農場教職員、鶴岡市の三者共催で平成11年度から実施してきたものである。農場の水田を利用して田植えから稲刈り、わら細工の加工まで総合的な学習を行った。

実施時期：平成24年5月19日～11月10日

参加人員：小学3～6年生親子23組

実施内容：5月 田植え、枝豆定植

6月 農業用水の学習、牛舎見学、ヤギの乳搾り、へり防除見学

7月 稲・枝豆の生育調査、田んぼの生きもの探し、田んぼの除草

8月 稲の開花観察、枝豆収穫

9月 稲刈り・杭がけ体験、バケツ稲コンクール

10月 脱穀から精米までの過程、食育学習、果樹の学習

11月 わら細工体験、もちつき体験、収穫感謝祭

(3) 「山形大学農場新米ロックフェス」

農場産米のPRを目的として、新米を食しながら若手音楽グループの野外演奏や各種催しを楽しむイベントを初開催した。開催にあたり庄内2市3町からも米の提供や出店があり、地域との連携も深めることができた。当日は天候が不安定にもかかわらず、予想を超える来場者数となった。

実施日：平成24年10月13日

集客人数：約750名

(4) 小・中学校の総合学習，高校のインターンシップ等に対応する。

産業現場等における実習

山形県立鶴岡高等養護学校

実施日時： 前期 平成24年 7月23日（月）～ 7月27日（金）

後期 平成24年10月 4日（木）～10月19日（金）

参加者： 2年生 1名（前期）

2年生 1名（後期）

なお，実習生徒対象に夏休み・冬休み期間に個人実習として1週間程度の実習を実施した。

概要： 産業現場で実習を通して，社会人としての望ましい勤労態度を学ばせ，職業生活への適応能力を養う。また，社会人として自立し，働くことへの心構えを養うように指導を行った。

II. 研究

1. 研究課題

農場および学部教職員の農場を利用した研究課題は，表II-1のとおりである。

農場教職員が科学研究費等を申請した課題は，表II-2，3のとおりである。

表II-1. 農場および学部教職員の研究課題

No.	担当者	研究課題	利用施設等	利用期間
(水田関係)				
1	藤井 弘志	「水稲」植え付け深と水稲生育，高温ストレスと品質，FSⅡ実習用	水田 60a	24.4 ～ 24.10
2	安藤 豊	水稲の節水，疎植栽培に関する研究	水田 30a	24.4 ～ 24.10
3	安藤 豊	水稲の生育・収量に対するケイ酸資材の施用効果	水田 30a	24.4 ～ 24.10
4	佐々木由佳	水稲の初期生育に対する活着肥の施用効果	水田 10a	24.4 ～ 24.9
5	加来 伸夫	水田に設置した微生物燃料電池の特性の解析	水田 20m ²	24.4 ～ 25.3
6	佐久間拓也	除草機を用いた稈長・収量に関する研究	水田 8a	24.4 ～ 24.11
7	花山 奨	水田の物質循環について	水田150m ²	24.4 ～ 24.10
8	角田 憲一	水稲の肥料試験	水田 90a	24.4 ～ 24.9
9	角田 憲一	安全農産物生産学コース学生実験	水田 30a	24.4 ～ 24.9
10	阿部 利徳	イネ新品種の育成と特性調査	水田 4a	24.4 ～ 24.10
11	佐藤 智	持続的新水田農法の開発	水田 60a	24.4 ～ 25.3

(畜産関係)

1 2	夏賀 元康	近赤外分光法による山羊乳由来の乳製品 の品質測定	畜舎	24. 4	～	25. 3
1 3	高橋 敏能	各種飼料の第一胃内消化性の検討	畜舎	24. 4	～	25. 3
1 4	堀口 健一		放牧場			
1 5	吉田 宣夫		ユニット			
1 6	高橋 敏能	反芻家畜における地域未利用資源の 飼料化とその利用に関する研究	畜舎 放牧場	24. 4	～	25. 3
	堀口 健一					
	吉田 宣夫		ユニット			
1 7	堀口 健一	堆きゅう肥を利用した飼料作物の栽培 およびサイレージ品質に関する研究	畜舎および 飼料作物栽培 圃場	24. 4	～	24. 10
1 8	高橋 敏能	反芻家畜におけるコーヒー粕の飼料 化に関する研究	畜舎 放牧場	24. 4	～	25. 3
	堀口 健一					
	吉田 宣夫		ユニット			
1 9	高橋 敏能	タモギタケ廃菌床発酵TMR給与によ るヒツジの肥育試験およびラム肉の 抗酸化能の検証	畜舎	24. 6	～	24. 12
2 0	高橋 敏能	収穫時期の異なる低木等の貯蔵性、 嗜好性および消化性の比較	畜舎	24. 10	～	24. 12
	小山 浩正					
2 1	柴田 瑤子	収穫時期の異なる低木等の貯蔵性、 嗜好性および消化性の比較	畜舎	24. 8	～	24. 9

(蔬菜関係)

2 2	佐々木由佳	堆肥と化学肥料の施用がただちや豆 の生育、収量、品質に及ぼす影響	畑 10a	24. 5	～	25. 9
2 3	小笠原宣好	食用ギク栽培試験	畑 1a	24. 5	～	25. 3
2 4	阿部 利徳	ダダチャマメ系新品種の育成	畑 2a	24. 4	～	24. 11
2 5	笹沼 恒男	ムギ類及びベニバナを中心とした植 物の多様性解析及びその育種学的応 用研究	畑 3a	24. 4	～	25. 3
2 6	江頭 宏昌	ダダチャ豆系統の食味成分分析と近 赤外分光法による食味成分の非破壊 分析法の開発	畑 5a	24. 5	～	24. 10
2 7	片平 光彦	エダマメの狭畦密植栽培に関する研 究	畑 0. 8a	24. 3	～	25. 12
2 8	池田 和生	山形在来キュウリの果実特性と加工 特性に関する研究	畑 10a	24. 4	～	24. 11
2 9	池田 和生	ベニバナアマにおける異型花型自家 不和合性に関する研究	花壇 2a	24. 3	～	25. 10

30	村山 秀樹	銀ナノ微粒子コーティング花器が啓翁桜の鮮度保持に及ぼす影響	啓翁桜100本	25.1	～	25.3
31	江頭 宏昌	だだちゃ豆系統の収穫時条件の違いによる成分含量の比較	ガラス室 0.5a	24.8	～	24.8
(果樹関係)						
32	平 智	りんごにおける中心果由来果実と側果由来果実の発育と品質に関する研究	りんご樹 2～3品種	24.4	～	24.11
33	池田 和生	ヤマブドウ在来系統群の特性解明	果樹園 10a	24.3	～	25.3
34	池田 和生	バラ科果樹の果皮における着色遺伝子の同定とその遺伝様式	果樹園 10a	24.3	～	25.3

農場教職員科学研究費等申請課題

表Ⅱ－２ 科学研究費

No.	区分	担当者	研究課題
1	奨励研究	佐久間拓也	異なる除草機を用いた場合の耐倒伏性・受光体勢・収量の差異
2	奨励研究	田中 健一	ビニルハウス内におけるマメコバチの増殖とメロンの花粉交配技術の確立
3	奨励研究	森田 昌孝	肉牛生産における環境保全型畜産のための吸引通気式堆肥化システムの活用

表Ⅱ－３ その他経費

農林水産省委託プロジェクト研究

No.	担当者	研究課題
1	吉田 宣夫	乳牛ペレット飼料の加工調製及び給与技術の開発（3系）
2	吉田 宣夫	自給飼料多給による高付加価値豚肉生産技術の開発（4系）

地域産学官連携プロジェクト事業

No.	担当者	研究課題
1	山崎 彩香	山形県のカブに関する年中行事について

山形大学事務系職員の自己啓発支援プロジェクト

No.	担当者	研究課題
1	山崎 彩香	在来作物のより良い系統保存のために
2	有賀 和裕	目指せ！～農業機械メンテナンスマスター～

2. 研究業績（2012年4月～2013年3月）

学報等

1. 池田和生・岡村昂太・高田宏樹・本間日奈子・石田孝祐・田中健一・山崎彩香・本間英治・平 智. 2012. 山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センターにおけるヤマブドウ在来系統群の果実特性に関する基礎調査. 山形大学紀要（農学）. 16:127-131.

学会誌

1. Effect of Mid-Drainage on Root Physiological Activities, N Uptake and Yield of Rice in North East Japan (Rahman Shah Moinur, Ken-ichi KAKUDA, Yuka SASAKI and Ho ANDO), Bull. Yamagata Univ, Agr, Sci, 16-4, 197-206(2013)
2. Tonny KINSAMBWE・Mitsuhiko KATAHIRA・Motoyasu NATSUGA(2012) : Effect of the Narrow Ridge-Direct Sowing Technique of Saving Labor in Green Soybean (Edamame) Production, Tohoku Branch of JSAM, 59, 27-30
3. マメコバチによるメロンの花粉交配技術の検討, 北海道・東北地域大学附属農場協議会及び農場教育研究集会要旨 (2012) : 18-19
4. 佐久間拓也, 藤井弘志, 森静香 (2012) : 異なる窒素施肥料における中耕がイネの生育・収量に及ぼす影響. 日本作物学会紀事第 81 卷 (別号 2) : 192-193
5. 江頭宏昌・小笠原宣好・武田優季・齋藤裕太郎・高品 善・遠藤幸子・金森裕之・佐藤 淳 (2012) : SSR マーカーを用いた新潟県および山形県在来食用キクの系統解析, DNA 多型 20 : 62-70
6. Maki maebashi, Motoyasu natsuga, Hiroaki Egashira, Nobuo Ura, Mitsuhiko Katahira (2012) : Estimation of the Green Soybean during storage from single pod measurements using dedicated near-infrared transmission spectrometer, Journal of Biosystems Engineering 37(6) : 398-403
7. Sasanuma T, Watanabe S, Abe T, Sehgal D, Sasakuma T and Raina S. N (2012) Reconsideration of phylogenetic relationship of genus Carthamus based on the nuclear SACP gene and chloroplast trnF-trnL IGS region. Journal of Oilseeds Research 29, 6-9.
8. 佐々木由佳・安藤豊 2012 : 人材育成の観点からみた山形大学農学部の国際協力のこれまでの取り組みと今後の方向. 農学国際協力 12, 53-57
9. 小田川信哉・小杉幸夫・宇都有昭・齋藤元也・佐々木由佳・小田九仁夫・加藤雅胤 2012 : 航空機ハイパースペクトルデータを用いた水稻の生育・収量・タンパク含有率の推定手法の開発. 写真測量とリモートセンシング 51(5), 270-284
10. Effect of Slag Silicate Fertilizer on Dissolved Silicon in Soil Solution with reference to Chemical Properties of Gleysols (Shuhei MAKABE, Yuka SASAKI, Ken-ichi KAKUDA, and Ho ANDO) Soil Science and Plant Nutrition (2013)
11. ハイブリッド式エダマメ選別機の開発(第 2 報) 国際食品工業展 FOOMA2009 アカデミックプラザ研究発表要旨集 片平光彦・夏賀元康
12. Effect of the Narrow Ridge - Direct Sowing Technique of Saving Labor in Green Soybean (Edamame) Production 農業機械学会東北支部報 Tonny KINSAMBWE, Mitsuhiko KATAHIRA, Motoyasu NATSUGA
13. 近赤外分光法によるヤギ生乳成分の測定 (第 2 報) ヤギ生乳成分の変動と測定精度 農業

機械学会東北支部報 鳥 友図, 片平光彦, 夏賀元康, 吉田宣夫

14. Estimation of the Flavor of Green Soybean during Storage from Single Pod Measurements Using Dedicated Near-Infrared Transmission Spectrometer *Journal of Biosystem Engineering* Maki Maebashi, Motoyasu Natsuga, Hiroaki Egashira, Nobuo Ura and Mitsuhiko Katahira
15. 森田昌孝・石川 恵・吉田宣夫・堀口健一・高橋敏能(2012): 吸引通気式堆肥化システムで回収した硫安液肥が飼料用イネの生育および収量に与える影響. *日本草地学会誌*, 58(3): 7166-172.
16. 吉田宣夫 (2012): 水田活用による飼料の自給率向上と持続的畜産のために. *日本草地学会誌*, 58(1): 32-36.

口頭発表

1. 小田野郁子・小山浩正・高橋敏能(2013) 里山再生を目的とした低木類の現存量把握とその飼料化の試みーナラ枯れ跡地の事例ー (日本森林学会第 124 回大会 2013. 3. 25~3. 28 ; 盛岡市)
2. 後藤賢子・栗原正人・坂本正臣・池田和生・及川 彰・村山秀樹. 2013 年 3 月. 銀ナノ微粒子および温度条件がケイオウザクラ切り枝の花の品質におよぼす影響. 園芸学会平成 25 年度春季大会.
3. 北原裕理・小笠原千晶・平 智 (2012) がく切除ならびに遮光処理がリンゴおよびカキ果実の発育と品質に及ぼす影響. 園芸学会東北支部平成 24 年度大会発表要旨. 15-16.
4. 2012 年 1 月 20 日 8th International Safflower Conference (Hyderabad, India) Tsuneo Sasanuma, Sayuri Watanabe, Toshinori Abe, Deepmala Sehgal, Tetsuo Sasakuma, Soom N. Raina "Reconsideration of phylogenetic relationship of genus *Carthamus* based on the nuclear SACPD gene and chloroplast trnF-trnL IGS region"
3. 2012 年 3 月 29 日 日本育種学会第 121 回講演会 (宇都宮大学) 笹沼恒男, 木村薫, 和田慶子, 阿部利徳「アジアのベニバナの遺伝的多様性及び山形県在来品種「最上紅花」の系統的起源」
4. 2012 年 9 月 15 日 日本育種学会第 122 回講演会 (京都産業大学) 笹沼恒男, 飯塚拓也, 遠藤麻美, 阿部利徳「キク科共通マーカーを用いたベニバナ属の系統解析」
5. 小田川信哉・小杉幸夫・齋藤元也・佐々木由佳・加藤雅胤 2012: 航空機ハイパースペクトルデータを用いた Lasso 回帰による水稻生育状況の推定. 日本写真測量学会学術講演会発表論文集 103-104
6. 小田川信哉・齋藤元也・小杉幸夫・佐々木由佳・加藤雅胤 2012: 航空機ハイパースペクトルデータを用いた Random Forest 回帰による水稻収量とタンパク含有率の推定および赤池情報量基準によるバンド数選択. 日本リモートセンシング学会学術講演会論文集 52, 161-162
7. 佐々木由佳・有賀和裕・阿部真二・遠藤寛子・角田憲一・安藤豊 2012: 山形県鶴岡市での水稻茎数に対する活着肥の施用効果. 日本土壌肥料学会講演要旨集 58, 101
8. 角田憲一・横山裕美・佐々木由佳・安藤豊 2012: 東北地方の水田における施肥窒素の挙動. 日本土壌肥料学会講演要旨集 58, 101
9. 真壁周平・太田明日香・角田憲一・佐々木由佳・安藤豊 2012: 水稻の窒素およびケイ酸吸収に対する下層土の寄与. 日本土壌肥料学会講演要旨集 58, 105
10. Shah Moinur Rahman, Ken-ichi Kakuda, Yuka Sasaki, Ho Ando 2012: Effect of flooding depth on nitrogen uptake in irrigated rice. 日本土壌肥料学会講演要旨集 58, 106
11. Effect of Flooding Depths on Nitrogen Uptake in Irrigated Rice 2012 日本土壌肥料学会 Rahman Shah Moinur, Ken-ichi KAKUDA, Yuka SASAKI, Ho ANDO
12. 水稻の窒素およびケイ酸吸収に対する下層土の寄与 2012 日本土壌肥料学会 真壁周平・太田明日香・角田憲一・佐々木由佳
13. 国内会議 FOOMA JAPAN 2012 アカデミックプラザ日本食品機械工業会東京 4106541068 ハイブリッド式エダマメ選別機の開発 (第 2 報) 口頭 (一般) 日本語片平光彦・夏賀元康

14. 国際会議農業環境工学関連学会 2012 年合同大会 4116341166 近赤外分光法によるヤギ生乳の成分測定 第 1 報 ヤギ生乳成分の測定精度 口頭 (一般) 日本語鳥 友図・片平 光彦・夏賀 元康
15. 金 錫九・吉田宣夫・堀口健一・高橋敏能・甘利雅弘 (2013): 施肥および調製方法の違いが稲わらの飼料一般成分と DCAD 値に及ぼす影響. 2013 年度日本草地学会山形大会講演要旨 56.
16. 呂 仁龍・堀口健一・吉田宣夫・高橋敏能・田川伸一・市原昭一 (2013): ジャトロファ油粕給与時のヒツジの肝機能に及ぼす影響. 2013 年度日本草地学会山形大会講演要旨 57.

ポスター発表

1. Hideki Murayama, Takako Goto, Masato Kurihara and Masatomi Sakamoto. 2012 年 6 月. Studies on vase life of woody ornamental cherry (*Prunus x subhirtella* cv. Keiou-zakua) using flower vessels coated with silver nanoparticlesp. 2nd ISHS Symposium on Woody Ornamentals of the Temperate Zone. G h e n t , B e l g i u m
2. Nobuo Kaku, Natsuki Yonezawa, Dai Takahasi, Kazuya Watanabe, Atsuko Ueki and Katsuji Ueki 2012: Effects of sunlight irradiation on electricity output from a paddy-field microbial fuel cell. 14th International Symposium on Microbial Ecology, Copenhagen, Denmark
3. 2012 年 3 月 30 日本育種学会第 121 回講演会 (宇都宮大学) 鶴巻啓一, 阿部利徳, 笹沼恒男「トウガラシ辛味成分合成遺伝子 *Catf1* の遺伝的変異」
4. 2012 年 8 月 20 日 第 7 回東北育種研究集会 (秋田県立大学) 工藤瑛司, 阿部利徳, 笹沼恒男「チモフェービ系コムギにおける栽培化関連遺伝子 *Q* の多様性解析」
5. 2012 年 8 月 20 日 第 7 回東北育種研究集会 (秋田県立大学) 鶴巻啓一, 阿部利徳, 笹沼恒男「トウガラシ辛味関連遺伝子 *Catf-1* の遺伝的変異」
6. 2012 年 8 月 20 日 第 7 回東北育種研究集会 (秋田県立大学) 柿崎彩佳, 阿部利徳, 河原太八, Smekalova Tamara N., 佐藤和広, 笹沼恒男「北コーカサスで採集されたタルホコムギの遺伝的特徴の解明」
7. 2012 年 9 月 15 日 日本育種学会第 122 回講演会 (京都産業大学) 稲葉有紀, 阿部利徳, 笹沼恒男「カラーピーマンにおける果実色関連遺伝子の変異解析」
8. 2012 年 9 月 15 日 日本育種学会第 122 回講演会 (京都産業大学) 高橋優利佳, 和田慶子, 阿部利徳, 笹沼恒男「アジアのペニバナ遺伝資源の主要形態形質に関する多様性評価」
9. Madoka Sato, Ping Zou, Jing Ye, Shuhei Makabe, Ken-ichi Kakuda, Yuka Sasaki, Jianrong Fu, Ho Ando 2012 : Chemical properties of paddy soil under reclamation of different years located at South Bank of Hangzhou Bay in China. 日本土壌肥料学会講演要旨集 58, 107
10. Khin Thandar Myint, Ken-ichi Kakuda, Yuka Sasaki, Ho Ando 2012 : Effect of organic manure application on Soil Microbial Biomass Nitrogen (SMBN) in paddy soil. 日本土壌肥料学会講演要旨集 58, 108
11. EFFECT OF ORGANIC MATTER APPLICATION ON SOIL MICROBIAL BIOMASS NITROGEN IN PADDY SOIL 2012 日本土壌肥料学会 Khin Thandar Myint, Ken - ichi KAKUDA, Yuka SASAKI, Ho ANDO
12. M. Morita, N. Yoshida, K. Horiguchi and T. Takahashi (2012): Effect of Liquid Ammonia Sulfate fertilizer, Recovered Using Ammonia-Collecting Equipment, on the Growth and Yield of Forage Rice. Proceedings of The 15th AAAP Animal Science Congress. 458.
13. 金 錫九・入野田恭子・吉田宣夫・堀口健一・高橋敏能 (2012): 稲わら収穫後の放置期間, 被雨等が飼料成分, 回収率および第一胃内での消化率に及ぼす影響. 2012 年度日本草地学会北海道大会講演要旨 129.
14. 堀口健一・三上慶裕・佐伯真魚・高橋敏能・吉田宣夫 (2012): 枝豆茹莢残渣サイレージ調製に用いる添加物の検討. 2012 年度日本草地学会北海道大会講演要旨 139.

15. 松田朗海・中村 洋・D.Rinchindorji・岡安智生・大黒俊哉・高橋敏能・堀口健一・吉田宣夫 (2013): ジャトロファ油粕給与時のヒツジの肝機能に及ぼす影響. 2013年度日本草地学会山形大会講演要旨 95.
16. 内田豪・堀口健一・吉田宣夫・高橋敏能 (2013): 発酵TMRの開封後の好気的変敗抑制に及ぼす各種要因. 2013年度日本草地学会山形大会講演要旨 108.
17. 森田昌孝・吉田宣夫・堀口健一・高橋敏能 (2013): 吸引通気式堆肥化システムで回収された硫安液肥の水口施用が水稻の生育および収量に与える影響. 2013年度日本草地学会山形大会講演要旨 124.
18. 長谷川友香・神田英司・森静香・藤井弘志 (2012) 異なる栽植密度が穂温および収量・品質に及ぼす影響、日本作物学会紀事、81 (別2) 、294-295

Ⅲ. 地域連携

1. 地域および他大学との連携

(1) 社会人の研修受入

1) 山形県庄内総合支庁職員の受入

山形県庄内総合支庁庄内農業技術課長の依頼により、平成24年5月1日～平成25年3月31日、庄内農業技術普及課所属の技師・小野貴弘氏を家畜飼養管理に関する基本的技術の習得を目的に受入れた。

(2) 他大学との連携

1) 新潟大学との合同研修会

本農場にて、新潟大学と合同研修会を実施し、技術職員の外部資金獲得状況等について情報交換を行った。(平成25年3月14日、18日)

2. 口蹄疫対応

(1) 家畜伝染病予防法の改正に伴う防疫対策

1) 庄内家畜保健衛生所の指導のもと衛生管理区域の設定および消毒をはじめとする防疫対策を行った。

②流域保全部門（上名川演習林）

流域保全部門は、「森林計画」を基本に、教育研究、社会連携、森林管理等を実施している。

平成24年度の報告は、第7次森林計画（平成16年～25年）に基づき立案された「平成24年度森林計画」の実行に関する概況である。

I. 教育・研究林としての利活用

1. 教育

演習林に関連する授業科目を表-1に示す。

表-1 演習林に関連する授業科目

科目名	対象学科等	学年	開講期	単位数	実施方法
学士課程					
フィールド科学のテクニック	全学部	全学年	前期	1	夏期集中
やまがたフィールド科学Ⅱ	全学部	全学年	後期	2	冬期集中
1年生夏期セミナー	生物環境学科	1	前期	1	夏期集中
生物環境学へのアプローチ	生物環境学科	1	後期	2	週1回
流域保全論	全学科	2	前期	1	週1回
生物環境学実験実習	生物環境学科	2	前期	1	週1回
フィールドサイエンス実習Ⅲ	生物資源学科	2	前期	1	夏期集中
流域保全実習	生物環境学科	2	前期	1	夏期集中
雪山実習	全学科	2	後期	1	春期集中
森林雪氷学	生物環境学科	3	前期	2	週1回
森林生態学実験実習Ⅰ	生物環境学科	3	前期	1	前期集中
自然環境調査実験実習	生物環境学科	3	前期	1	夏期集中
森林測量学実習	生物環境学科	3	前期	1	夏期集中
河川環境調査実験実習	生物環境学科	3	前期	1	夏期集中
森林資源利用学実験実習	生物環境学科	3	後期	1	後期集中
森林生態学実験実習Ⅱ	生物環境学科	3	後期	1	後期集中
卒業論文（研究指導）	生物環境学科	3・4	前後	10	
大学院修士課程					
森林雪氷学特論	生物環境科学専攻	1	後期	2	集中
森林雪氷学特別演習	生物環境科学専攻	2	前後	4	集中
生物環境学特別研究	生物環境科学専攻	1・2	前後	8	集中

このうち、流域保全部門が主体となって実施した学部科目の授業概要を以下に記す。

(1) やまがたフィールド科学Ⅱ（雪との共生－雪国の自然と生活－）

一般教育科目「生命・環境」領域の教養セミナーとして全学部の学生を対象に平成13年度より開講しており、演習林における教科の全学開放の一つとしても位置づけられている科目である。今年度は、平成25年1月7日～10日の冬季休業期間に上名川演習林の宿泊施設を利用し、TAの協力を得ながら集中合宿・自炊方式で実施した。この実習に、ドイツハノーバー大学自然科学学部の学生11人、教員2人が参加した。

(2) 流域保全論

学部共通2年次前期の選択科目として平成11年度より開講している。授業のねらいは、私たちの暮らしを守り、快適に、豊かにしてくれる森林について広い視点からとらえ、森林の恵みを将来にわたって上手に利用していくためには何が必要かを論議し、森林とのつきあい方のあるべき姿について学ぶことである。授業は講義と上名川演習林におけるエクスカージョンとにより、グローバルな環境問題と深い関わりをもっている森林資源の実状について、わが国内外の様子を紹介したあと、森林の環境形成作用、森林と環境との相互作用、森林の有する多岐にわたる公益的機能のしくみ等について明らかにし、環境保全的な森林の取り扱い方に関する理論と実践について学習した。

(3) 流域保全実習

食料生命環境学科の2年次前期の選択科目として平成14年度より開講している。今年度は9月24日～26日の夏季休業期間に上名川演習林の宿泊施設を利用し、集中合宿・自炊方式で実施した。授業のねらいは、グローバルな環境問題と深い関わりを持っている森林の多面的な働きについて、森林体験を通じて理解を深め、森林を健全な状態で持続的に維持していくための具体的な方法を修得することである。

(4) 雪山実習

学部共通2年次後期の選択科目として平成11年度より開講している。2年前期の「森林雪氷学」に対応する実習として位置づけており、今年度は平成25年3月11日～13日の春季休業期間に上名川演習林の宿泊施設を利用し、集中合宿・自炊方式で実施した。授業のねらいは、雪国の森林や人々の生活に多大な影響を与える積雪環境について理解を深め、克雪から利雪、親雪へ向けての展望に関心を持ってもらうことである。

2. 卒業論文・修士論文・博士論文の指導

流域保全部門の研究室に学部学生（4年生3名）、岩手連大博士課程（3年生2名）の学生を受け入れ、エコ農業部門および学部の教職員と共同で論文指導を行った。

3. 研究

上名川演習林および生物多様性保全研究園を利用して実施された研究テーマを表-2に示す。

表-2 上名川演習林および生物多様性保全研究園を利用して実施された研究テーマ

研究代表者	共同研究者	研究テーマ	場 所
小山 浩正	野村 征宏	ブナ二次林における個体間競争が個体の成長に与える影響	上名川演習林
小山 浩正	遠藤 貴己	山形県におけるブナ豊凶予測の検証と精度向上にむけて	上名川演習林
小山 浩正	小田野 郁子	里山再生を目的とした低木類の現存量把握とその飼料化の試みーナラ枯れ跡地の事例ー	上名川演習林
小山 浩正	山中 拓也	高温ヒートショックによるニセアカシア休眠種子の休眠打破ー焼畑地での事例と検証ー	上名川演習林
野堀 嘉裕	南 佳織	演習林GISの構築	上名川演習林
野堀 嘉裕	南 佳織	スギ林の炭素貯留量の推定	上名川演習林
林田 光祐	小林 峻大	得意な果実形態を持つケンボナシの種子散布と発芽特性	生物多様性保全研究園
吉田 宣夫	小田 育実	林地放牧と舎飼がヤギ乳生産と乳成分に及ぼす影響	上名川演習林
吉田 宣夫	柴田 瑤子	林地内に生育する低木及びクズの反芻家畜の飼料化に関する検討	上名川演習林
ロペス ラリー	岡部 稜一	スギ・カラマツ林の蒸散量の季節変化	上名川演習林
ロペス ラリー	佐藤 優海	焼畑による土壌成分の変化とカブの成長に与える影響	上名川演習林

II. 生涯学習林としての利活用および地域との連携

1. 演習林施設開放事業

上名川演習林の施設開放事業の一環として、鶴岡市内の小学生を対象に、「森の学校」を7月21日(土)、10月6日(土)、3月16日(土)の3回実施し、植樹、炭焼き、バウムクーヘン作り、木の実・きのこ採取、落ち葉や草花のしおり作り、雪の特徴と雪で遊び等を行った。山形大学の学生を対象としたリフレッシュセミナーを7月に行いました。皆バーベキュー、自転車とテント張りをしながらリラックスをしました。

2. 地域との交流

(1) 地元の名川森林保護組合が主催して毎年5月6日に定期的で開催される入山式に参加するとともに、同日に入山式懇談会を主催し、学長をはじめ多数の関係者が参集し、地元と大学関係者との交流を深めた。

3. 地域との連携

(1) 国土交通省月山ダム管理所主催の「月山ダムの集い2012」が7月29日(日)に月山ダムで開催され、「森の学校」を出展し、木工クラフト、葉っぱ当てクイズなどを通じて来場者に自然と触れ合うアクティビティを提供した。

(2) 9月15・16日に名川子ども会の親子を対象に、年輪についての講義やバウムクーヘン作り、焼畑跡地の見学、焼畑カブの収穫、本窯での炭焼き見学等の森林環境教育を行い、地域の子供たちと木の仕組みや自然と人との関わりについて学んだ。

III. 教育研究支援および森林管理

1. 実習支援

演習林にて実施する実習計画に基づいて、事前に実習用具の準備・点検整備および歩道の整備等を行い、実習時には指導教員の指示に従い実習指導支援を行った。

2. 研究支援

教員からの研究支援の要請に応えるよう、森林管理作業と調整を図りながら研究支援を行った。昨年度に引き続き、大気成分調査への協力、里山プロジェクト、焼畑農法による温海カブの栽培を行った。また、修論・卒論研究に関する調査の支援を行った。

3. 調査

4 林班そ小班 ii の立木調査を行った。

4. 収穫事業

(1) スギ直営生産

スギ素材生産を行った(4 林班そ小班 ii)。計画量 150 m³に対し、127.2 m³を生産、販売した。今年度の伐採木には腐れ・曲り等が多くみられたため、予定材積量を下回る結果となった。採材に当たっては販売委託先である木材流通センターと連絡を取り、需要の多い寸法となるよう努めた。

(2) キノコ生産

生産予定収量 50 kg に対し、17.4 kg にとどまった。今年度は発生量が少なく、また虫害対策として林床の枝葉の掻き取り・除去を試みたが被害が発生し、生産量が上がらなかった。

発生量低下の原因の一つとして、数年来、同一箇所にて植菌・仮伏せ等を行っており、その原木

が現在収穫期にあたっていることが考えられる。そのため、昨年に引き続き植菌・仮伏せ等を未実施の場所にて行った。また昨年度秋季より種駒の品種変更を行っており、発生状況を確認しながら、今後も状況により品種の検討を行っていく。

(3) カブ生産

伐採跡地（4 林班そ小班 ii）において焼払い地拵えを行い、その後温海カブを栽培・収穫し、農州市等で 52 kg、漬物屋『本長』へ加工用として 40 kg 販売した。

5. 育林作業

(1) 地拵え

伐採跡地（4 林班そ小班 ii）に対し焼払い地ごしらえを行い、その跡地において温海カブの栽培・収穫を行った。

(2) 新植・補植

新植予定地において、植生調査の研究を行ったため、実施しなかった。

(3) 下刈り

新植～3 年目の植栽地に対し 2 回/年、4～6 年目の植栽地に対して 1 回/年行った。

- ・ 5 林班ち小班：0.15 ha×1 回
- ・ 5 林班に小班 i：0.35 ha×1 回
- ・ 5 林班に小班 ii：0.23 ha×2 回
- ・ 12 林班へ小班：0.33ha×1 回
- ・ 13 林班ぬ小班 ii：0.03 ha×1 回

(4) 蔓切り・枝打ち・除伐

学生実習と合わせ除伐を行った。

- ・ 7 林班ら小班：0.03 ha

(5) 防火帯

早田川右岸南側 3.6 km を計画したが、残雪、伐採、下刈り作業等の兼ね合いもあり、実施しなかった。

6. 土木作業

(1) 林道

早田線・大徳沢・芦沢の保守・管理のため、融雪災害による崩壊土砂や落石の撤去、側溝整備による排水路の確保、路肩維持のため道路肩の低木・草本の刈取りを行った。また冬季間の通勤路補修を行った。

(2) 歩道

要請のあった路線（尺平峯線）の整備を行った。

(3) その他

地滑り地や降雨後の林道の巡視、橋梁の雪下ろし、冬期通勤路における雪崩の復旧作業を行った。

7. 管理作業

(1) 車両

車両の点検・整備は事故防止につながることから、使用前に点検・整備を行った。

(2) 除雪

管理棟・分室・格納庫および仮設物等の維持管理のために雪下ろしを行った。また雪下ろし後の除雪および除雪機具の手入れ等を行った。

(3) 整理

管理棟内および乾燥室の整理・清掃を行った。

(4) その他

入山式関連の諸準備、案内板・表示板の設置および撤去、入林者の送迎を行った。また、林道表示看板の更新を行った。

8. 製炭作業

炭材の調達、運搬、調整、炭窯の整備、学生への指導を行った。

9. 苗畑作業

(1) 育苗

実施しなかった。

(2) 樹木管理

見本林、樹木園の草刈り、道路・隣地との境界の支障木除去・枝払いを行った。

(3) その他

教員や学生の要請に応じて耕耘、畝の作成を行った。

10. 会議等

健康診断、各種行事・委員会、センター試験補助、業務説明会等への出校。

11. 演習林開放事業

演習林施設開放事業として、鶴岡市内の小学3・4年生を対象とした『森の学校』を夏(7月)・秋(10月)・冬(3月)に開催した。

12. 調書作成等

作業計画・実績、作業・運転日誌、気象観測資料等の整理、作成、報告等を行った。

【 今年度特徴 】

- ・外国人留学生国際交流事業の一環として、ドイツハノーバー大学自然科学学部の留学生が演習林を訪問し、学生実習(やまがたフィールド科学2)に参加した。
- ・2012 学生支援プラン、リフレッシュセミナー『 Moshanaya 』が附属やまがたフィールド科学センターで開催された。
- ・本年度も公開森林実習として、雪山実習への他大学学生の受け入れを行った。
- ・文化庁より上名川演習林が『ふるさと文化財の森』に設定された。
- ・旧朝日地区の子供会が演習林に宿泊し、体験学習を行った。
- ・伐採跡地に火入れを行い、前年度に引き続き温海カブの焼畑栽培を行った。生産したカブは農場市での販売や大山の漬物屋『本長』へ加工用として出荷した。
- ・演習林所有車両(スノーモバイル)の更新を行った。

社会教育部門（H24年総括）

【国際貢献】

（1）教育強化

- ・関連授業の実施（国際フィールド協力論Ⅱ、国際理解）
- ・国際農業経済論の開講（2011年度後期～）（担当：金成学）

（2）JICA 研修生の受け入れ

○JICA 長期研修生の受け入れ

- ・3名が修士課程終了（H25年3月）
- ・アフガニスタンからの長期研修生はH24年10月に研究生として1名受け入れの打診があり、テレビ会議で面接の結果、英語能力から受け入れ不可能と判断した。

○JICA 短期研修生の受け入れ

- ・H24年度は課題別、国別を受け入れた。
 - ①アフリカ稲作収穫後処理コース（英語圏）；12名（9月実施）
 - ②国別稲作技術研修（ケニア）；5名（6月～7月実施）

【地域貢献】

（1）“おしゃべりな畑” 公開講座の実施

平成22・23年度実施した公開講座「おしゃべりな畑」（全国中小企業団体中央会の「農工商連携等人材育成事業」を採択）を24年度も文科省事業「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」「食・農林水産分野の6次産業人材育成に関するモデル・カリキュラム実施と達成度評価の実証プロジェクト」の採択を受け実施した。

この講座は山形在来作物に係る機関と連携し、在来作物の作り手の増加と、栽培、販売、加工、利用の促進を図り在来作物の高付加価値化を推進し、講義と実地研修を通じ、安全・安心な在来作物の栽培を実践する人材、及び在来作物を活かした農工商観の連携を進め、新たな食農ビジネスの創出や地域の食及び文化を理解し地域のリーダーとなれる人材の育成を図ることを目的としている。

講義46.5時間、実習18時間で9月から翌年1月までの5ヶ月間の実施で、講義、実習とも50%以上の受講生には山形大学農学部から「やまがた在来作物案内人」として認証している。講義は農学部の在来作物研究会に協力をいただきながら広く外来講師もお呼びし、平成24年度は53名の受講希望者があり35名が「やまがた在来作物案内人」として認証された（3年間で累計104名となっている）。

受講生はこの講座をきっかけに受講生間の連携を強め情報交換をしながら在来作物を含む農産物の生産拡大、直売の取り組み、新商品の創作、加工品の開発、アグリツーリズムに組み込みなど活動の場を広げている。

（2）農業、食産業に関わる個人、法人、団体、企業、行政等の巡回

- ・庄内における上記組織を訪問し、大学との連携を要請した。
- ・フィールド科学センター（エコ農業部門、流域保全部門）から生産される赤カブや果汁商品の斡旋を行った。
- ・庄内産業振興センターの取り組みである「漢方プロジェクト」に関し引き続き連携している。

(3) 農水省の依頼を受け品種登録のための現地試験を実施

山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センターエコ農業部門で元山形大学農学部准教授赤澤経也氏が育成し、平成21年に品種登録出願を行ったえだまめ「つるおかぼんちゃ」（後日「赤澤一号」に変更）現地試験のサポートを行った。併せて赤澤一号の種子増殖（原原種）をエコ農業部門で開始し（平成22～24の3ヶ年）そのサポートも行った。原原種は地元松柏種苗の依頼を受け1,5kg販売した。

赤澤1号は平成24年3月14日に品種登録された。

(4) 社会連携コーディネータの配置継続

- ・佐久間 憲生 氏（平成24年11月退職）
- ・赤松博美（平成24年9月採用）、井上綾子（平成24年10月採用）
- ・各機関との連携について、なお一層の促進を図った。

6. 山形大学農学部図書館の概要等

昭和24年 5月	山形大学附属図書館農学部分館	発足
昭和47年12月	〃	竣工
平成 3年 4月	受入業務を最後に全面的に電算化へ移行	
平成 8年 4月	平日の時間外開館20時までとなる	
平成10年10月	土・日の時間外開館開始(13時～17時)	
平成15年 3月	山形大学附属図書館農学部分館	改修・増築
	面積 969m ²	収容可能冊数 58,000冊 座席数 120席
平成17年11月	土・日の時間外開館拡大(10時～17時)及び祝・休日の開館開始(10時～17時)	
平成20年 1月	平日の開館時間延長(8時45分～21時15分)	
平成21年 4月	平日の開館時間短縮(8時45分～21時)	
平成21年10月	「山形大学農学部図書館」に名称を変更	

開館時間

曜日	通常期	休業期(※)	※夏季休業	8.1～9.30
月～金	8時45分～21時	8時45分～17時	冬季休業	12.25～1.10
土・日・祝・休日	10時～17時	閉館	春季休業	2.20～4.5

蔵書数 (24.3.31 現在)

和書	79,453	洋書	17,012	計	96,465
----	--------	----	--------	---	--------

入館者数 (カッコ内は1日平均)

年度	平日	土・日・祝・休日	計
22	51,456 (213)	6,985 (87)	47,889 (152)
23	49,511 (205)	5,378 (71)	58,441 (182)
24	51,188 (215)	7,018 (84)	58,206 (181)

文献複写件数

年度	学内からの受付	学外からの受付	学外へ依頼
22	28	312	381
23	28	188	303
24	33	168	236

7. 大型設備の設置状況

	一般設備費	特別設備費	特別教育研究経費	施設整備補助金	設備整備補助金	備考
昭和62年度		作物群落生理測定装置				
平成2年度	エネルギー分散形X線分析装置					電子顕微鏡
3年度	物性精密計測試験装置					人工気象装置
5年度		多核種用高磁場核磁気共鳴装置				NMR
6年度	ガスクロマトグラフ質量装置					
7年度		高性能質量分析装置				
		栽培環境条件設定装置				ファイトロン
8年度	フリーラジカルモニタ					
9年度	3次元データビジュアル化解析システム	遺伝情報解析装置				
10年度		スペースコロレーションシステム				
11年度		農業用ロボット実験システム				
15年度		環境負荷軽減物質成分分析システム				
21年度			地域在来作物の高度化利用研究 (質量分析装置)	微量成分解析装置	N・C安定同位体比測定用質量 分析システム	
22年度			地域在来作物の高度化利用研究 (共焦点レーザー顕微鏡)			
23年度					積雪寒冷地農林業気象観測システム 植物・土壌成分分析システム	
24年度			新・里山生態系管理システムの構築 (ガスクロマトグラフ質量分析装置) (高所作業台車)		卓上走査型電子顕微鏡 開放型光合成蒸散測定システム	

8. 鶴岡キャンパスの名称・所在地，土地・建物の概要

山形大学農学部

〒997-8555 鶴岡市若葉町1-23
 TEL 0235-28-2805
 FAX 0235-28-2812
 ホームページアドレス <http://tdsl.tr.yamagata-u.ac.jp/>

山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター高坂農場

〒997-0369 鶴岡市高坂字古町5-3
 TEL 0235-24-2278
 FAX 0235-24-2270

山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター上名川演習林

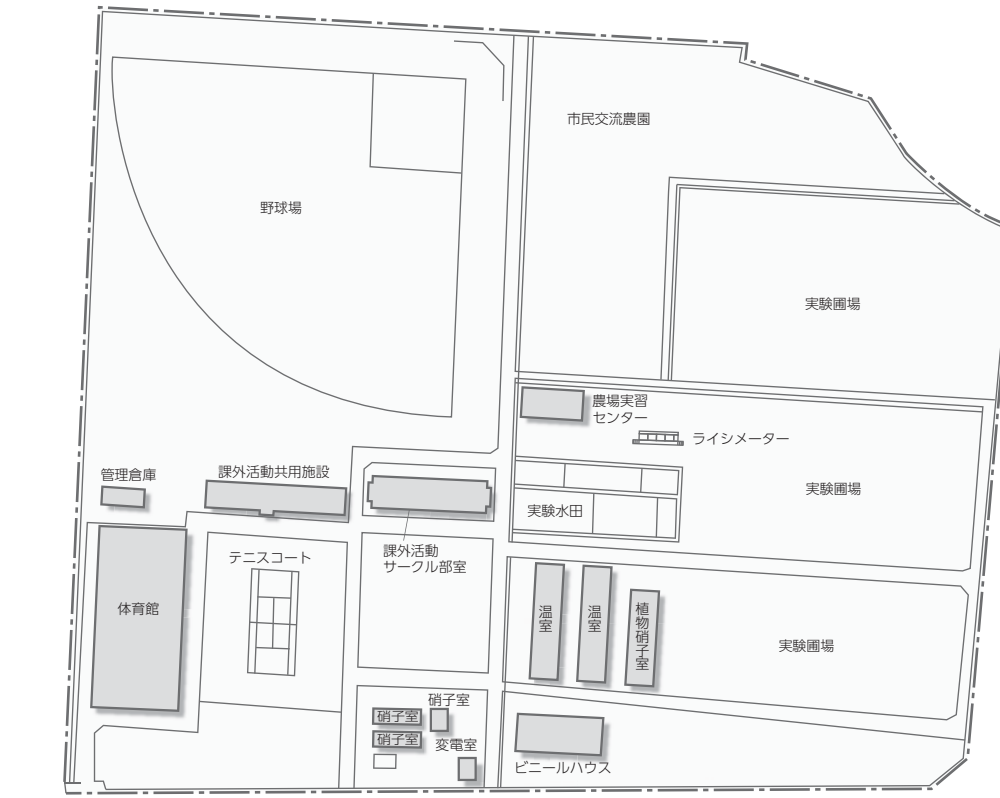
〒997-0405 鶴岡市上名川字早田川10
 TEL 0235-53-2755
 FAX 0235-53-2755

土地

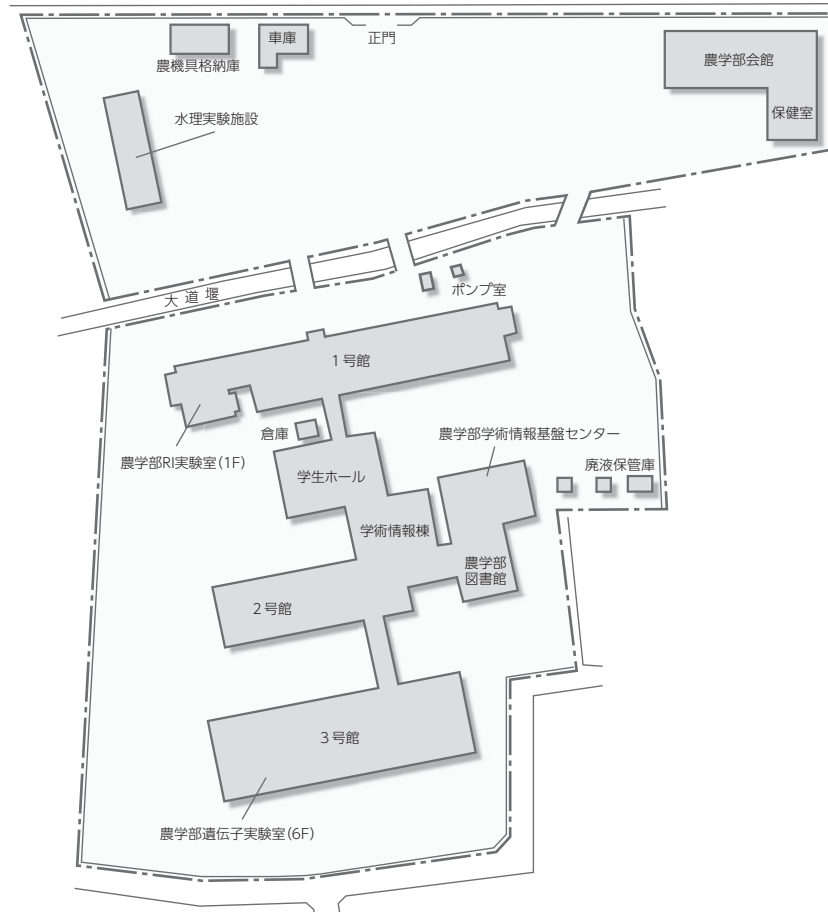
区 分	面 積 (㎡)
農 学 部	62,506
農学部附属やまがたフィールド科学センター高坂農場	240,655
農学部附属やまがたフィールド科学センター上名川演習林	7,530,908
農学部附属やまがたフィールド科学センター生物多様性保全研究園	7,871
学 生 寮 (啓 明 寮)	6,756
職 員 宿 舎	4,318
計	7,853,014

建 物

区 分	構 造	築年度	面 積 (㎡)
水 理 実 験 施 設	S 1	平成17	321
3 号 館	S R 6	平成15	3,266
3 号 館	S R 6	平成12	3,103
2 号 館	R 5	昭和47	3,431
学 生 ホ ー ル 棟	R 1	昭和46	427
1 号 館	R 5	昭和44	5,795
図 書 館	R 2	昭和47	820
学 術 情 報 棟	S 2	平成14	384
学 術 情 報 基 盤 セ ン タ ー	R 1	昭和61	112
農 学 部 会 館	R 2	昭和51	1,090
体 育 館	S 2	昭和45	1,083
課 外 活 動 施 設 棟	R 2	昭和57	406
	S 2	平成20	572
そ の 他			1,041
計			21,851



県道332号線





Yamagata University
Faculty of Agriculture